

前項ニ據リ竹木ノ栽植ヲ爲シタルトキハ其ノ栽植地ノ委託ハ新植ノ年度ヨリ起算シ八十年ヲ以テ限度トス其ノ補植ニ就テモ新植ノ年度ヨリ起算シ該限度ヲ超過スルヲ許サズ

第五條 社寺ハ風致其ノ他水源涵養土砂并止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ所轄大林區署長ノ許可ヲ得テ其ノ栽植ニ係ル竹木ヲ伐採スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ社寺ハ其ノ伐採シタル竹木相當價格ノ二分ノ一ヲ所轄大林區署ニ納付スヘシ

第六條 社寺ハ其ノ建築又ハ修繕用ニ供セントスルトキハ委託官林内在來ノ竹木ニシテ風致其ノ他水源涵養土砂并止等總テ公共ノ利益ニ關スルモノヲ除キ相當代價ヲ以テ特賣ヲ所轄大林區署長ニ請求スルコトヲ得

前項ニ據リ賣渡ヲ受ケタル竹木ヲ目的外ニ使用シ又ハ轉賣シ若クハ譲與シタルトキハ其ノ賣渡代價ノ二倍ヲ徵收スヘシ

第七條 社寺ハ其ノ委託官林保護ノ費ニ任シ且ツ四至ニ境界標ヲ建設スヘシ

前項ノ境界標ハ委託許可ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ建設シ委託官林ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第八條 社寺ハ第四條ニ據リ委託官林内ニ竹木栽植ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ其ノ栽植地ノ四至ニ境界標ヲ建設シ栽植地ノ段別境界ノ方位許可ノ年月日及ヒ其社寺ノ請ケタル委託官林内ノ栽植地タルコトヲ明瞭ニ表記スヘシ

第九條 社寺ニ於テ委託官林内ノ竹木ヲ斫伐シ副産物ヲ採取スルトキハ凡テ所轄大林區署長ノ指示スル方法ニ據ルヘシ

第十條 社寺ニ於テ委託官林ノ手入ヲトシタルトキハ所轄大林區署長ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條 第四條第五條第六條第十條ニ依リ差出スヘキ願書ニハ神官任職及ヒ氏子信徒若クハ信徒總代ノ連署ヲ要ス

第十二條 斫伐ノ許可ヲ受ケタル竹木ハ所轄大林區署長ノ引渡ヲ受ケルニアラサレハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

但引渡ヲ受ケタル竹木ト雖モ其ノ根株ハ特ニ許可シタルモノハ外掘採スルコトヲ得ス

第十三條 社寺ハ其ノ委託官林ヲ他ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十四條 左ノ場合ニ於テハ社寺ハ事由ヲ認メ總ニ所轄大林區署長ニ届出ヘシ

但第二第三第四及ヒ第五ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ノ検査ヲ受クヘシ

- 一 看守人ヲ置キ又ハ廢シタルトキ
- 二 委託官林ニ係ル犯罪其ノ他異狀ノ事故アリタルトキ
- 三 道路電線耕地宅地家屋等ニ對スル障害木アリタルトキ
- 四 林地ノ使用若クハ栽植ヲ終ハリタルトキ但竹木ノ栽植ヲナシタルトキハ其ノ栽植費取調書ヲ添付スヘシ
- 五 竹木ヲ斫伐シ及ヒ運搬ヲ終ハリタルトキ

第十五條 左ノ場合ニ於テハ所轄大林區署長ハ委託期限中ト雖モ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

一 官用又ハ公用ノ爲メ必要アルトキ但此場合ニ於テハ委託中社寺ノ費用ヲ以テ栽植シタル竹木ニ就テハ其ノ栽植費ヲ賠償ス

二 此ノ規則ニ定メタル制限及ヒ條件ニ違背シタルトキ但社寺ノ栽植ニ係ル竹木ハ之ヲ官沒ス

第十六條 竹木及ヒ副産物ノ斫伐採取其ノ他林地使用ノ爲メ若クハ故意怠慢ニ依リ委託官林ニ傷害ヲ生シ又ハ生セントスルトキハ所轄大林區署長ハ其ノ斫伐採取使用ヲ停止若クハ禁止シ尚ホ其ノ委託ヲ解クコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ報告アルトキハ社寺ニ於テ其ノ賠償ノ責ニ任スヘシ

第十七條 社寺ニ於テ此規則ヲ履行スルニ因リテ生スル費用ハ社寺ノ負擔トス

第十八條 官有山林原野ニ係ル件道廳府縣ニ於テ處分報告方第二十七條

第十九條 地租改正ノ際官有森林原野ニ編入セラレタルモノ引戻手續明治二十三年四月十五日農商務省訓令第二十三號府縣道廳沖繩縣ヲ除ク

地租改正ノ際官有森林原野ニ編入セラレタルモノニシテ民有タルヘキ證左ニ據リ地所又ハ立木竹ノ引戻ヲ請フモノアルトキハ自令總テ其配ニ於テ調査シ伺出ツヘシ

〔五〕官有山林原野ノ事項報告書式

明治二十四年三月三十一日
農商務省訓令第五號北海道府縣

官有山林原野事項報告書式別冊ノ通相定候條本年四月分ヨリ該書式ニ依リ上申スヘシ
但本様式中第十號ノ事項ハ本年三月三十一日ノ現在ニ據リ別ニ調製シテ四月三十日迄ニ上申スヘシ別冊ハ山林局ヨリ
送付ス

〔六〕山林坑業ニ關スル諸件處分後報告方訓令中ノ件

明治二十三年七月三十一日
農商務省訓令第三十九號府縣

〔七〕林產物公賣規程

明治二十三年五月三日
農商務省告示第四號
林產物公賣規程

第一章 總則

第一條 林產物ノ公賣ハ入札方法ヲ用テ施行ス可シ

第二條 林產物ヲ入札ニ付セントスルトキハ少クトモ入札期日ノ十五日以前ニ揭示若クハ官報新聞紙及其他ノ方法ヲ以テ可成ク廣ク之ヲ公告スヘシ

公告ニハ左ノ各項ノ諸件ヲ掲明ス可シ

- 一 入札ニ付スヘキ物件
- 二 入札スヘキ場所
- 三 入札スヘキ日限及時刻
- 四 入札ノ保證金額
- 五 入札ニ付スヘキ物件ノ所在地
- 六 入札ニ付スヘキ物件ノ明細書標本 表示スルノ必_要アルトキノ所在地林產物公賣規程及ヒ特別契約書案 林產物公賣規程ノ外トキ 其他契約ヲ要スル條件等ヲ示ス場所

七 入札掛長ノ官氏名

第三條 入札ニ付スヘキ物件ノ豫定價額ハ之ヲ封書トナシ入札函ニ添入レ置クモノトス

第四條 左ノ諸項ノ一ニ觸ル_レ者ハ入札ヲナスコトヲ得ス

- 一 林產物ヲ買受ケ其代金意納中ノ者
- 二 官林ニ關スル損害賠償若クハ違約金ノ辨償ヲ終ヘサル者
- 三 入札ニ付スヘキ物件ニ對シ罪ヲ犯シタル者

第五條 入札セント欲スル者ハ該物件若クハ其標本又ハ明細書及ヒ此規程並ニ特別契約書案其他該契約ニ必要ナル條件ヲ熟閱シ豫シメ不都合ナキ様心得置ク可シ

入札人ハ第一號書式ニ依リ入札書ヲ作り入札保證金ト共ニ豫定ノ日時ニ入札所ニ持参シ入札掛員ノ面前ニテ右保證金ノ員數ヲ改メ之ヲ封シテ入札掛員ニ差出シタル上ニテ入札ス可シ

第六條 入札掛長前條ノ保證金ヲ受領シタルトキハ第二號書式ニ依リ預證ヲ作り入札人へ交付スヘシ

第七條 入札函ハ入札締切時限ニ達スルト同時ニ閉鎖スヘシ

第八條 左ニ掲クル入札ハ無効トス

- 一 入札書ノ要領不明ナルモノ
- 二 誤字脱字汚染塗抹其他ニ由リ金員及ヒ氏名ヲ認知シ難キモノ
- 三 開札ニ立會ハサルモノノ入札

第二章 開札再入札落札

第九條 入札ヲ終タルトキハ入札人ヲ開札所へ呼集シ入札掛長若クハ其代理者ハ入札人ノ面前ニ於テ入札函ヲ開キ先ツ入札書ト入札人トヲ一々照合シ入札書ヲ開封シ番號金額及氏名ヲ高ク讀上ケ入札掛員ヲシテ之ヲ筆記セシメ豫定代價以上ノ最高額入札人ヲ落札人ト定メ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ

省令第八號ハ
初編第二百十
四ノ二項ニ掲

第十條 開札ノ上入札一モ豫定價額ニ達セサルトキハ其旨ヲ各入札人ニ報告シ再ヒ入札セント欲スルモノヲシテ即時ニ再入札ヲナサシム若シ再入札ノ望人ナキトキハ其公賣ハ取消スヘシ

第十一條 落札トナルヘキ同價額ノ入札人二名以上アルトキハ其入札人ヲシテ即時ニ再入札ヲナサシメ尚同價ノ入札アルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札人ヲ定ム

第十二條 落札人入札ヲ取消シタルトキハ遞次繰下ケ落札人ヲ定ムヘシ但其繰下ケハ豫定價額以上ニ止ルモノトス

第十三條 落札人定リタルトキハ若クハ落札人ナク公賣ヲ取消タルトキハ入札掛長ハ即時ニ豫定價額ノ封書ヲ開封シ之ヲ各入札人ニ報告スヘシ

第十四條 落札人定リタル上ハ其場ニ於テ直ニ他ノ入札人へ保證金預リ證書ト引換ニ入札保證金ヲ還付シ落札人ニハ賣買契約締結後ニ之ヲ還付ス

第十五條 落札人定リタルトキハ即時ニ落札代金十分ノ一ニ當ル内金ヲ契約保證金トシテ拂込ミ第三號書式別ニ據リ賣買契約書ヲ作り締約者雙方署名捺印シ各一通ヲ領收シ置ク可シ但シ落札人ハ其便宜ニ依リ落札代金十分ノ一以上ノ金額若クハ其金額ヲ即納スルコトヲ得

第十六條 落札人約定日限内ニ賣買代金ノ拂込ミヲ了リタルトキハ其落札物件ヲ管スル署所ニ出頭シ其拂込証(木材交受取リタルトキ)ヲ示シ之カ引渡ヲ請求ス可シ

第十七條 落札物件ハ其代價ノ幾分ヲ拂込ムトモ之ニ對スル内渡ヲナサヘルモノトス

第十八條 落札物件所管ノ署所前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ約定ノ日限内ニ之ヲ引渡ス可シ

第十九條 買受人物件ノ引渡ヲ受タルトキハ第四號書式別ニ據リ領收証ヲ作り引渡掛員ニ差出シ約定ノ日限内ニ其物件ヲ所在地ヨリ搬出スヘシ

第三章 代價拂込物件引渡

第二十條 物件ノ所有權ハ物件ノ引渡ヲ受ルニ隨ヒ買受人ニ移轉スルモノトス

第二十一條 左ノ場合ニ於テハ入札保證金ヲ還付セス

- 一 落札ノ上賣買契約ヲ落札人ニ於テ締結セサルトキ
- 二 開札後ニ入札ノ取消ヲナシタルトキ
- 三 落札人賣買契約締結後代金ヲ約定ノ日限内ニ拂込マサルトキ
- 四 落札人賣買契約締結後代金拂込以前ニ契約ヲ取消シタルトキ

第二十二條 落札人物件ノ引渡ヲ受ケタル後豫定期外ノ障礙ニ遇ヒ之ヲ約定日限内ニ搬出シ了ルコトヲ得サルトキハ其事由ヲ具シ更ニ期限ヲ定メテ搬出ノ日限ノ延期ヲ請求ス可シ此ノ場合ニ於テハ當該署所ハ左ノ割合ヲ以テ其間ノ該物件置場ニ係ル借地料ヲ課シ之ヲ前納セシム可シ

- 一 落札代價金百圓以上ノモノハ一日ニ付其千分ノ一
- 二 落札代價金百圓未満ノモノハ一日ニ付金十錢

但搬出延期ヲ要スルノ事由天災若クハ事變ニ屬スルトキハ特ニ右借地料ヲ免ス可シ

第二十三條 前條ノ場合ニ於テ落札人搬出延期ノ請求ヲナサスニテ恣ニ約定日限ヲ過ルトキハ當該署所ハ前條ノ割合ニ二倍スルノ借地料ヲ取立ツ可シ

本條及ヒ前條ノ場合ニ於テ落札人右借地料ヲ納メサルトキハ當該署所ハ其搬出未済ノ物件ヲ差押ヘ本人ヲ立會ハシメテ之ヲ公賣ニ付シ其代金ヲ以テ借地料及ヒ差押公賣其他ノ諸入費ヲ支拂ヒ猶ホ殘金アルトキハ之ヲ還付シ若シ不足スルトキハ更ニ之ヲ要求ス可シ

第十四類 第二章 農業 漁業 獸醫

署所ハ之ニ對スル賠償引當トシテ繰出未済ノ物件ヲ差押ヘ若クハ其事業ヲ中止シ期限ヲ定メ相當ノ賠償金ヲ要求ス可シ

第五章 雜件

落札人右賠償金ヲ承諾シタル上之ヲ期限内ニ納メサルトキハ第二十三條第二項ノ手續ニ依リテ之ヲ處分ス可シ

第二十五條

公賣物件入札後又ハ賣買契約締結後天災事變等ノ避クヘカラサルノ原因ニ由リ目的ノ事件ヲ亡失毀損シタル爲メ公賣ヲ取消シ之カ爲メニ入札人落札人又ハ買受人ニ於テ損害ヲ生スルモ當該署所其責ニ任セス

第二十六條

公賣物件ハ當初入札人ニ於テ熟識シタルモノニ付落札後數量若クハ物質等ニ多少ノ差違アリ又ハ物件ノ内部分腐朽等アルモ當該署所ハ其責ニ任セス

第二十七條

立木竹公賣ノ場合ニ於テ其根株ハ公賣外ノモノトス但シ別段ノ契約アルモノハ此限ニアラス

第二十八條

入札人落札人又ハ買受人代理人ヲ以テ請取ノ事項ヲ履行セシムルトキハ代理人ハ其委任狀ヲ當該署所ニ示スヘシ

第二十九條

落札人其物件ヲ提出以前ニ於テ他(賣買譲與シタルトキハ雙方連署シテ當該署所ニ届出テ認可ヲ受ク可シ

第一號書式

入札書

第 號

一何々(物件ノ名稱ヲ記入スヘシ) 何程(數量)

此代金何程

第 號

一何々

何程

此代金何程

(以下此例ニ準シ公告ニ掲載ノ物件概目ヲ一々記載スヘシ)

右代金ヲ以テ買受申度林産物公賣規程其他公示又ハ特別契約ノ條項ヲ承諾シ保證金相添ヘシ
札書提出候也

年月日

住所

姓 名

印

(代理人ナルトキハ代理人ノ住所姓名ヲ併記捺印スヘシ以下皆同シ)

入札掛長官姓名宛

第二號書式

第 號

証

一金何程

納入

姓 名

名

但何々入札保證金
右封ノ儘預置候也

年月日

入札掛長官 姓

名

印

入札掛

長官印

第 號
一金何程
但何々入札保証金
年月日

納人 姓 名

第三號書式

賣買契約書

印紙

此印紙ハ賣人へ領收シ置クモノ、
ニ買人ヨリ貼付スルモノトス

今般別紙入札書ノ通落札セシニ付林産物公賣規程及左記ノ條項ヲ承諾シ賣買契約ヲ締結シ雙方署名ノ上各一通ヲ領收シ置クモノ也
年月日

賣人 入札掛長官 姓 名

印

住所

買人 姓 名

印

- 一代價拂込何年何月何日限
- 一物件引渡何年何月何日限
- 一物件引渡ヲ請求スヘキ官署

一物件引渡場所

一何々
「契約ヲ要スル條件ヲ列記ス

第四號書式

証

第 號

一何々 (物件ノ名稱ヲ記入スヘシ)

何程(畝量)

第 號

一何々

何程

右御引渡相成領收候也

年月日

住所

買人 姓 名

印

引渡掛長官姓名宛

第百八十二 鳥獸獵

〔二〕鳥獸獵免狀ニ農務局割印ス
明治三十二年六月十九日
農務省訓令第三十四號廳府縣(東京府ヲ除ク)

自今鳥獸獵免狀(獸獵遊獵)ニハ農務局ノ刷印ヲ押捺ス

〔三〕鳥獸獵免狀ヲ受ケ其獵期中族籍姓名ヲ變換シ住居ヲ移轉シタル者届出方明治二十三年一月二十日

農務省訓令第三號農務局
(東京府浦安區ヲ除ク)

鳥獸獵免狀ヲ受ケ其獵期中族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シタルトキハ所轄警察署郡役所ニテ取扱ヲ所ハ郡役所ニテ取扱
管ヨリ寄留セル者ニシテ本管ニ復歸シ又管内外ヲ問ハス轉籍若クハ寄留シテ引續キ獵獵スル者ハ甲乙兩地ノ警察署郡役所
ヲ取扱フ所ニ届出シメ該免狀ハ獵期後二十日以内ニ當初受取タル管廳ニ返納セシムヘシ
但明治十七年六月第二十號本省達ハ廢止シ及ヒ本文ニ抵觸スル從前ノ指令ハ取消ス

〔第八十三〕獸醫免許規則 明治二十三年八月二十八日公布

朕獸醫免許規則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十七日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋

法律第七十六號

農商務大臣

陸奥宗光

獸醫免許規則

- 第一條 獸醫ノ開業ハ農商務大臣ヨリ獸醫免狀ヲ受ケタル者ニ限ル
- 第二條 獸醫免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

一 獸醫免許試験ニ合格シ其ノ證書ヲ有スル者

一 官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ニ於テ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 外國ニ於テ官立府縣立ノ獸醫學校若ハ農學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ獸醫免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試験及第證書又ハ卒業證書ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條 獸醫免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ獸醫籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條 獸醫廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 獸醫免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金一圓ヲ納ムヘシ

第七條 獸醫免狀ヲ毀損亡失シ若ハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第八條 獸醫業ニ關シ犯罪若ハ不正ノ行為アリタルトキハ農商務大臣ハ情狀ヲ參酌シ五日以上五十日以下ノ範圍内ニ於テ其ノ業ヲ停止シ情狀ノ最モ重キモノハ之ヲ禁止スルコト

アルヘシ

禁止ノ處分ヲ受ケタル者ハ十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ獸醫免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第九條 第八條ノ禁止ノ處分ヲ爲シタル者ト雖モ三年ヲ經過シタル後情狀ニ依リ其ノ禁止ヲ解クコトアルヘシ

禁止ヲ解ケレタル者ニシテ再ヒ獸醫免狀ヲ受ケント欲スル者ハ第三條及第六條ニ依ルヘシ

第十條 免狀ヲ受ケヌシテ獸醫ノ業ヲ爲シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 獸醫業停止中其ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 獸醫正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ミタルトキハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十三條 獸醫免許試験規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十四條

獸醫ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歴ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ獸醫假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十五條 第十四條ニ依リ獸醫假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十六條 明治十八年第十七號布達獸醫開業試驗規則其ノ他此ノ法律ニ抵觸スル規定ハ總テ廢止ス

〔一〕獸醫免許試験規則 明治二十三年九月二日 農商務省令第十一號

明治二十三年八月法律第七十六號第十三條ニ據リ獸醫免許試験規則左ノ如ク定ム

獸醫免許試験規則

第一條 試験ノ科目ハ左ノ如ク

- 一 家畜解剖學
- 一 同 生理學
- 一 同 藥物學
- 一 同 內科學及其ノ實地
- 一 同 外科學及其ノ實地
- 一 同 蹄鐵學及其ノ實地

第二條 試験法ハ筆記及實地ノ二種トシ實地試験ハ筆記試験ヲ終ハリタル後之ヲ行フ但時宜ニ依リ口述試験ヲ以テ實地ニ代フルコトアルヘシ

第三條 試験ハ毎年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ

第四條 農商務大臣ハ試験主事及委員ヲ選定シテ試験ヲ行ハレム

第五條 試験ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験地名ヲ願書ニ記載シ修學履歷書ヲ添ヘ一月若クハ七月中其ノ居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ送付スヘシ

第六條 受験者ハ試験期日三日前受験地ノ宿處ヲ其ノ地方廳ニ届出ヘシ

第七條 試験及第者ニハ試験主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ

第八條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス

附則

第九條 第十回獸醫免許試験ニ限リ家畜ノ解剖學生理學藥物學內科學外科學ニ就キ筆記試験ヲ行フ

(二) 獸醫假免許手續ヲ定メ假開業獸醫免許手續ヲ廢止ス 明治二十三年九月二日 農商務省訓令第四十四號北海道廳府縣

明治二十三年八月法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ノ獸醫假免許手續左ノ條項ニ依リ取扱フヘシ

但明治十九年^{十二} 常省訓令第二十一號假開業獸醫免許手續ハ廢止ス

獸醫假免許手續

第一條 獸醫假免許ノ下付ヲ願出ル者アルトキハ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一 營業區域ノ廣表及地勢ノ險夷

一 區域内牛馬ノ頭數

一 營業年限

第二條 獸醫假免許區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許

年限中ト雖假免許ヲ返納セシムルコトヲ得

第三條 獸醫假免許下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府縣知事之ヲ定ムヘシ

(三) 獸醫開業受驗人心得ヲ廢ス 明治二十三年九月二日 農商務省告示第七號

明治十八年八月當省告示第十九號受驗人心得廢止ス

(四) 獸醫及蹄鐵工免許規則第二條ニ依リ學則認可請求方 明治二十三年十一月一日 農商務省令第十八號

本年^八 法律第七十六號獸醫免許規則第二條第三項及同年^四 法律第三十一號蹄鐵工免許規則第二條第三項ニ依リ學則ノ認

可ヲ請ハント欲スルトキハ左ノ條件ヲ具備シタル願書ニ學校名學校ノ位置及地方廳ヨリ學校設立ヲ認可シタル年月日ヲ

記入シ教員ノ族籍氏名年齢及履歷ヲ認メタル書類學則及學科授業時間表ヲ添付シ其ノ校長又ハ校主名ヲ以テ地方廳ヲ經

由シ農商務大臣ニ呈出スヘシ

但學則ノ認可ヲ受ケタル學校ノ校長又ハ校主ハ其ノ學校ノ卒業試驗終了ノ後十五日以内ニ地方廳ヲ經由シ卒業生ノ族

籍氏名年齢及最終學期ノ試驗成績ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

一 教員ノ員數及資格

一 獸醫學校教員ハ三名以上トシ内少クモ一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸

醫學本科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

一 蹄鐵學校教員ハ二名以上トシ内一名ハ農科大學獸醫學本科元東京農林學校獸醫學本科若クハ元駒場農學校獸醫學本

科ヲ卒業シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者

二 學科目

一 獸醫學校學科

動植物學及理化學

病理學通論

解剖學及其ノ實習

生理學

藥物學

內科學

外科學

一 蹄鐵學校學科

撰鐵鍛鍊蹄鐵及造鐵釘

法實習

產科學

動物疫論及警察法

病體解剖學及其ノ實習

家畜飼養法排泄法及衛生論

蹄鐵學及其ノ實習

治療法實習

蹄ノ解剖生理及病理論

家畜衛生論

蹄鐵學及其ノ實習

三修學年限

一 蹄鐵學校滿三年以上

一 蹄鐵學校滿一年以上

〔五〕 蹄鐵開業免狀及試驗願書等ハ副本差出ニ不及 明治二十二年十一月二日 農商務省訓令第三十九號北海道廳府縣

蹄鐵開業免狀同假開業免狀下付願書及開業試驗願書ハ自今副本差出スニ及ハス

〔六〕 開業蹄鐵轉居届出方 明治二十二年十一月三十日 農商務省告示第十五號

開業蹄鐵(假開業蹄鐵ヲ除ク)ニシテ明治二十二年十二月一日以後轉居セシ者ハ其都度直ニ當省農務局ニ届出ツヘシ

● 伺指令

● 蹄鐵ノ剪蹄ニ關スル件ニ付伺指令 明治二十三年九月十九日 長崎縣伺

牛馬ノ蹄剪刺絡等ハ從來蹄鐵ノ業ニ之レアリ候處本年四月法律第三十一號蹄鐵工免許規則實施後ハ正格ノ開業蹄鐵

タリトモ蹄鐵工免狀ヲ有セサル者ハ人民ノ依頼ニ應ジ剪蹄ノ儀相成ラサル哉

農商務省指令 明治二十三年九月二十四日

伺ノ通

〔第百八十四〕 獸類傳染病豫防規則中改正 明治二十二年五月十三日 農商務省令第六號

明治十九年省令第十一號獸類傳染病豫防規則中左ノ通改正ス

第十四條中管内以下ニ告示シ且ノ五字ヲ及ニ但書「告示」ノ二字ヲ「報告」ニ改ム

第十六條中報告ヲ得タルトキハ以下「農商務大臣」ノ允許ヲ得テ「ノ」ノ一字ヲ刪除ス

十九年省令第十一號ハ初編第百二十三號

第十七條中府縣知事ニ於テ以下「農商務大臣」ノ允許ヲ經タル後「ノ」十三字ヲ刪除ス
第十八條中府縣知事ハ以下「農商務大臣」ノ允許ヲ得タル後「ノ」十三字ヲ刪除ス

○ 第三章 商工

〔第百八十五〕 商業會議所條例 明治二十三年九月十二日公布 法律第八十一號

朕商業會議所條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月十一日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
農商務大臣 陸奥宗光

法律第八十一號

商業會議所條例

第一條 此條例ニ商業者ト稱スルハ商法第四條ニ掲ケタル商取引ノ各部類ニ屬スル商人及作業人ヲ謂フ

第二條 商業會議所ヲ設立セントスルトキハ其地ノ商業者中此條例ニ依リ會員タルヲ得ヘキ者發起人ト爲リ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但發起人ノ數ハ定款ヲ以テ定ムヘキ會員ハ半數以上ナルコトヲ要ス

地方長官ハ前項ノ申請ヲ受ケタルトキハ郡若クハ市參事會ニ諮問シ其意見ヲ徵シ尙ホ自
己ノ意見ヲ添ヘ農商務大臣ニ進達スヘシ

第三條 會議所設立地ノ境界ハ市町村ノ區域ニ依ルヘシ但土地商業ノ情況ニ由リ數市町村
ノ區域ヲ互ニ聯合シテ其地ニ一會議所ヲ設立スルコトヲ得

第四條 會議所ノ事務權限左ノ如シ

- 一 商業ノ發達ヲ圖リ若クハ其衰退ヲ防クニ必要ノ方案ヲ議定スルコト
 - 二 商業ニ關スル法律規則ノ制定改正廢止及施行方法其他商業上ノ利害ニ關スル意見ヲ
官廳ニ開申スルコト
 - 三 商業ノ實況及其統計ヲ官廳ニ報告スルコト
 - 四 商業ニ關スル事項ニ付官廳ノ諮問ニ應答スルコト
 - 五 法律命令若クハ官ノ委任ニ依リ其地ノ公設營業所仲立人組合及商業ニ關スル諸營造
物ヲ管理スルコト
 - 六 仲立人ノ資格員數及手数料ヲ審查スルコト
 - 七 關係人ノ請求ニ依リ其地ノ商業ニ關スル紛議ヲ仲裁スルコト
- 第五條 會議所設立地ノ商業者ニシテ所得稅ヲ納ムル者ハ會員ノ選舉權ヲ有ス
- 第六條 會議所設立地ニ於テ所得稅ヲ納ムル商業者ニシテ年齡二十歲以上ノ男子及商事會
社ハ會員ノ被選舉權ヲ有ス

商事會社ヲ代表スヘキ者ハ法律上其會社ノ代理權ヲ有スル者一員ニ限ル

第七條 第五條及第六條ノ規定中會員ノ選舉權及被選舉權ニ關スル財産上ノ資格ニ付テハ
農商務大臣ハ地方ノ情況ニ依リ省令ヲ以テ特ニ其所得稅ノ等級ヲ定メ又ハ他ノ國稅ヲ加
フルコトヲ得

第八條 左ニ掲クル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ有セス

- 一 瘋癲白癡ノ者
 - 二 重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレ又ハ商業及農工ノ業ヲ妨害スル罪、財産ニ對スル罪、
風俗ヲ害スル罪及信用ヲ害スル罪ヲ犯シ刑ニ處セラレ滿期後又ハ赦免後三箇年ヲ經
サル者
 - 三 公權剝奪若クハ停止中ノ者
- 第九條 會員ノ數ハ十五名以上五十名以下各會議所ノ定款ヲ以テ定ムヘシ
- 第十條 會員ハ無給トス其任期ハ四箇年トシ毎二年其半數ヲ改選ス初同ノ解任者ハ抽籤ヲ
以テ定ムヘシ
- 第十一條 會員當選者ハ左ニ掲クル者ヲ除クノ外會議所ノ議決ヲ經スシテ其就職ヲ辭シ又
ハ任期中辭職スルコトヲ得ス
- 一 疾病若クハ老衰ニ依リ職務ニ堪ヘサルコトヲ證明スル者
 - 二 營業ノ爲メ常ニ會議所設立地ニ住居スル能ハサルコトヲ證明スル者

第十二條 前條ノ規定ニ依ルニ非スシテ會員ノ職ヲ辭スル者ハ會議所ノ議決ヲ以テ二百圓以下ノ過怠金ヲ課スルコトヲ得

第十三條 會員ノ選舉ハ郡長若クハ市長委員ヲ命シ日時及場所ヲ定メテ施行セシム其費用ハ會議所ノ負擔トス

第十四條 會議所ノ會議ハ第四條第二項第四項及第七項ノ事件ニ係ル會議ハ公開スルコトヲ得ス

前項ノ外農商務大臣ノ命令又ハ會議所ノ議決ヲ以テ公開ヲ禁スルコトヲ得

第十五條 會議所ハ第四條第七項ノ場合ニ於テ其關係人ヨリ相當ノ手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條 會議所ハ法人トシテ財産ヲ所有スルモノトス

第十七條 會議所ハ其議決ニ依リ會員定數ノ五分一ヨリ多カラサル特別會員ヲ置キ會議ニ參列セシムルコトヲ得但特別會員ハ其議決ニ加フルコトヲ得ス

特別會員ノ資格ハ學術技藝若クハ商業上ノ經驗アル者タルヘシ

第十八條 會議所經費ノ豫算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

豫算ノ決算ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ報告スヘシ
第十九條 會議所ノ經費ハ會員ノ選舉權ヲ有スル者ヨリ徵收ス其徵收方法ハ會議所ノ議決ヲ以テ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

經費ヲ納期ニ納メサル者アルトキハ其地ノ地方稅收入役ニ囑託シテ之ヲ徵收スルコトヲ得

收入役ノ督促ヲ受クルモ經費ヲ納メサル者ハ會員ノ選舉權及被選舉權ヲ四箇年以上八箇年以下停止シ尙ホ二百圓以下ノ過料ニ處ス

第二十條 會議所ノ定款ハ會議所ノ議決ヲ以テ左ノ事項ヲ規定シ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 會員選舉規則
 - 二 議事規則
 - 三 庶務規程
 - 四 役員職務權限
 - 五 仲裁規則
 - 六 會計規則
 - 七 公設ノ營造物若クハ其營業所ノ管理規則
- 第二十一條 農商務大臣ハ會議所其權限ヲ犯シ又ハ商業上有害ノ行爲アリト認メタルトキハ會議ヲ停止シ尙ホ其情況ニ依リ役員若クハ會員ノ幾部又ハ全部ノ改選ヲ命スルコトアルヘシ
- 第二十二條 農商務大臣ハ此條例施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發スヘシ

〔一〕商業會議所條例施行規則 明治二十三年九月十八日

農務省令第十二號

商業會議所條例施行規則

第一條 商業會議所設立ノ申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ會員選舉規則及ヒ設立費用ノ豫算ヲ添ヘ認可ヲ請クヘシ

一 會議所ノ名稱

二 設立地ノ區域

三 設立地ノ商業者中會員ノ選舉權ヲ有スル者及被選舉權ヲ有スル者ノ概數

四 會員ノ定數

第二條 設立認可ヲ得タルトキハ發起人ニ於テ其旨公告シ商會所條例第五條及ヒ第六條ニ依リ會員選舉人及被選舉人ノ名稱ヲ六十日以内ニ調製シ認可ニ係ル書類ヲ添ヘ其地ノ郡長若クハ市長ニ會員選舉ノ施行ヲ求ムヘシ

但設立地ノ區域數市町村ニ亘ルトキハ會議所ヲ建設スヘキ地ノ郡長若クハ市長ニ請求スヘシ

第三條 會議所設立發起人又ハ會議所ヨリ會員選舉施行ノ請求ヲナシタルトキハ郡長若クハ市長ハ十五日以内ニ選舉委員五名ヲ命シ少クトモ十五日以上ノ豫告ヲナシ其選舉ヲ施行セシムヘシ

第四條 第一條ノ申請書ニ依リ認可ヲ得タル會員ノ定數會員選舉規則及第二條ニ依リ調製シタル會員選舉人及被選舉人名簿ハ會議所定款認可ノ日マテ効力ヲ有スルモノトス

第五條 會議所又ハ其ノ設立發起人ニ於テ會員選舉人及被選舉人名簿ヲ調製スルトキ其ノ納税額並年齢ノ調査ニ付テハ地方長官ノ證明ヲ受クヘシ

第六條 會議所ノ定款ハ會員選舉ノ後六十日以内ニ確定シテ認可ヲ請クヘシ

第七條 第二條及第六條規定ノ期限內ニ其手續ヲ爲シ能ハサルトキハ事由ヲ詳記シ其期限內ニ延期ヲ請フコトヲ得二十年三月省令第三號ヲ以テ追加ス

〔二〕東京市ニ於テ商業會議所條例中所得稅ノ等級 明治二十三年十月三十一日

農務省令第十七號

東京市ニ於テハ商業會議所條例第五條及第六條中所得稅ノ等級ヲ明治二十年三月勅令第五號所得稅法第四條ノ第四等以上トス

〔三〕商業會議所條例施行規則ニ依リ會員選舉施行ノ手續 明治二十三年十二月二十二日

農務省令第六十八號 府縣沖繩ヲ除ク

明治二十三年九月 農務省令第十二號 商業會議所條例施行規則第三條ニ依リ會員ノ選舉ヲ終リタルトキハ選舉ヲ施行シタル郡長若クハ市長ヲシテ左ノ手續ヲ執行セシムヘシ

一 會員當選者ニ當選ノ通知書ヲ交付スヘシ但商會社ニハ通知書ヲ交付スルト同時ニ其代表人ノ氏名ノ届出ヲ命スヘシ

二 選舉ニ關スル書類物件ハ會議所ニ引續クヘシ

三 最初ノ選舉ヲ施行シタルトキハ其選舉ヲ終リタル日ヨリ十五日以内ニ時日場所ヲ指定シ會員當選者ヲ召集シ初回ノ會議ヲ開カシムヘシ

第百八十六 特許條例

〔一〕特許條例施行細則第四十九條中追加 明治二十二年十月二十八日

農務省令第九號

明治二十二年一月 農務省令第一號 特許條例施行細則第四十九條ハ「特許局ニ差出シタル雛形又ハ見本ハ保管中亡失毀損スルモ賠償ノ責ニ任セス」ノ一項ヲ追加ス

〔二〕特許條例施行細則第三十八條中追加 明治二十三年四月八日

農務省令第五號

明治二十二年一月 農務省令第一號 特許條例施行細則第三十八條第二項中登記印紙ヲ貼用シノ下「明細書ニ通圖面ニ通ヲ添ヘ」ノ十二字ヲ加フ

省令第一號
初編第二百三
十一ノ二項ニ
掲ク

〔三〕特許條例細則第十條以下諸條及書式中ヲ改正ス

明治二十三年八月二十九日 農商務省令第十號

第十條第一項中「審査部」ヲ「審査官」ト改メ第二項中「部」ニ於テ「ノ」四字ヲ削除シ「其審査」ヲ「之」ニ改メ

第十二條「審査官ニ於テ明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ

日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サレムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス」ト改

第三十五條第三項中「ノ」方又ハ「」ノ五字ヲ削除ス

第二十七條第一項中「特許局長ハ之ヲ審判部ニ配付シ」ノ十四字ヲ削除ス

第四十一條第一項中「爲ス」ヲ「爲シ」ト改メ其下ニ「改訂特許証ハ第十號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス」

ノ三十字ヲ加ヘ第二項中又ハ第二十六條「ノ」七字ヲ削除ス

第四十三條第一項中「第十號及第十一號」ヲ「第十一號及第十二號」ト改メ

書式第九號中「改訂特許証」ノ五字ヲ削除シ同書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加ヘテ第十號トナス

第十號 改訂特許証書式

第何號

改訂特許証

何々(發明ノ名稱)

本籍(及現住所)

氏 名

特許條例ニ據リ前記發明ノ請求區域ニ對シ(何某ニ)明治何年何月何日何年間特許ヲ與ヘタ

ル明細書(圖面)ノ改訂ヲ許可スルヲ以テ本証ヲ下付スルモノ也

年月日

農商務大臣 氏

名印

〔四〕特許意匠及商標登記方 第二百六ノ五項ニ掲ク

〔五〕特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續第三條中改正 明治二十三年三月三十一日 農商務省令第二號

明治二十二年一月農商務省令第一號第三條中「金壹圓」ヲ「金五圓」ニ第七條「代價及手数料ハ現金又ハ爲換券ヲ以テ當

省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ」ト改正ス

〔六〕特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並書類謄本圖面調製ノ手数料及請求手續第四條第五條第七條ヲ改正ス 明治二十四年四月二日 農商務省令第三號

明治二十二年一月農商務省令第一號第四條第五條第七條左ノ通改正ス

第四條 印刷書類ノ拂下ヲ望ム者ハ賣捌人東京市京橋區八官町十三番地彦根正三ニ就テ購入スヘシ

第五條 書類ノ謄本又ハ特許條例第二十三條ニ依リ圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ請求書ヲ差出スヘシ但圖面ノ調製ヲ請求スル者ハ其發明ノ輪形見本又ハ粗圖ニ明細書ヲ添ヘテ差出スヘシ尤モ審査用ノ爲メ既ニ其發明ノ輪形見本又ハ粗圖並

明細書ヲ差出シタルモノハ之ヲ添フルニ及ハス

第七條 手数料ハ現金又ハ爲換券ヲ以テ當省會計局ヘ納ムヘシ但東京市内ニ限リ納入告知書ヲ發送スヘシ

第百八十七 意匠條例

〔一〕意匠條例施行細則中加除改正 明治二十三年八月二十九日
 農商務省令第八號
 明治二十二年一月農商務省令第二號意匠條例施行細則中左ノ通り加除改正ス
 第七條ヲ「審査官ニ於テ願書明細書圖面等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正圖面又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス」ト改ム
 第十二條第一項中「爲ス」ヲ「爲シ」ト改メ其下ニ「改訂意匠登錄證ハ第九號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス」ノ三十二字ヲ加ヘ第二項中「又ハ第十六條」ヲ「第六字ヲ削除ス」
 第十四條中「第九號及第十號」ヲ「第十號及第十一號」ト改ム
 第十九條中特許條例施行細則ノ下「第十三條」ノ四字ヲ加ヘ「第四十九條ノ下」及「ノ字ヲ削除シ第五十條ノ下」及「第五十條」ノ六字ヲ加フ
 書式第八號中「改訂意匠登錄證」ノ七字ヲ削除シ同書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加ヘテ第九號トス
 第九號 改訂意匠登錄證書式

第何號

改訂意匠登錄證

本籍(及現住所)

氏 名

何々(意匠ノ名稱)

意匠條例ニ據リ(何某ニ)明治何年何月何日何年間ノ專用權ヲ與ヘタル登錄意匠ニ對シ本證

附屬明細書圖面ノ通改訂ヲ許可スルモノ也

年 月 日

農商務大臣 氏 名印

特許局長 氏 名印

書式第九號「ヲ」第十號「ト」第十號「ヲ」第十一號「ト」ス
 〔二〕特許意匠及商標登記方 第五項ニ掲ケ

第百八十八 商標條例

〔一〕商標條例施行細則第十五條ニ一項ヲ追加ス 明治二十二年十月二十八日
 農商務省令第十號
 明治二十二年一月農商務省令第三號商標條例施行細則第十五條ヘ「特許局ニ差出シタル商標ノ印版ハ保管中亡失毀損スルモ辨償ノ費ニ任セス」ノ一項ヲ追加ス
 〔二〕商標條例施行細則第六條第十一條第十二條及書式中加除改正 明治二十三年八月二十九日
 農商務省令第九號
 明治二十二年一月農商務省令第三號商標條例施行細則中左ノ通り加除改正ス
 第六條ヲ「審査官ニ於テ願書明細書見本等ニ關シ訂正又ハ照會ヲ要スルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ訂正書訂正見本又ハ回答書ヲ差出サシムヘシ此期限内ニ差出サハルトキハ出願ヲ無効トス」ト改ム
 第十一條第一項中「爲ス」ヲ「爲シ」ト改メ其下ニ「改訂商標登錄證ハ第七號書式ニ依リ調製シ許可ノ日ヲ以テ其日附ト爲ス」ノ三十二字ヲ加ヘ第二項中「又ハ第十六條」ノ六字ヲ削除ス
 第十二條中「第七號」ヲ「第八號」ト改ム
 書式第六號中「改訂商標登錄證」ノ七字ヲ削除シ同書式ノ次ニ左ノ書式ヲ加ヘテ第七號トス
 第七號 改訂商標登錄證書式

改訂商標登録証

本籍(及現住所)	氏名
登録名	氏名
農商務大臣	氏名
特許局長	氏名
名印	名印

商標條例ニ據リ明治何年何月何日(何某ニ)登録ヲ許可シタル商標ニ對シ本証附屬明細書
見本ノ通改訂ヲ許可スルモノ也
年月日

書式「第七號」ヲ「第八號」トス

〔三〕特許意匠商標登記方 第二百六ノ五項ニ掲ク

〔四〕特許發明ノ明細書特許公報商標公報ノ拂下代價並書類原本圖面調製ノ手数料及請求手續第三條中及第四條第五條第七條改正 第百八十六ノ五項及六項ニ掲ク

〔第百八十九〕度量衡法 明治二十四年三月二十四日公布 法律第三號

朕帝國議會ノ協賛ヲ經タル度量衡法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム 御名 御璽

明治二十四年三月二十三日

内閣總理大臣 伯喬山縣有朋 農商務大臣 陸奥宗光

法律第三號

度量衡法

第一條 度量ハ尺、衡ハ貫ヲ以テ基本トス

第二條 度量衡ノ原器ハ白金、イリヂウム、合金製ノ棒及分銅トス其ノ棒ノ面ニ記シタル標線間ノ攝氏〇、一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ尺トシ分銅ノ質量四分ノ十五ヲ貫トス

第三條 度量衡ノ名稱命位ヲ定ムルコト左ノ如シ 度

- 毛尺ノ萬分ノ一
- 厘尺ノ千分ノ一
- 分尺ノ百分ノ一
- 寸尺ノ十分ノ一
- 尺
- 丈十尺
- 間六尺
- 町三百六十尺(六十間)
- 里一萬二千九百六十尺(三十六町)

地積

- 勺歩ノ百分ノ一
- 合歩ノ十分ノ一
- 步或ハ坪六尺平方
- 畝三十步
- 段三百步
- 町三千步

量

- 勺升ノ百分ノ一
- 合升ノ十分ノ一
- 升六萬四千八百二十七立方分
- 斗十升
- 石百升

衡

毛貫ノ百萬分ノ一

- 厘貫ノ十萬分ノ一
- 分貫ノ萬分ノ一
- 匁貫ノ千分ノ一

斤百六十匁

第四條 從來慣用ノ鯨尺ハ布帛ヲ度ルトキニ限り之ヲ用井ルコトヲ得

鯨尺一尺ハ一尺二寸五分トシ其ノ十倍ヲ鯨尺一丈、十分ノ一ヲ鯨尺一寸、百分ノ一ヲ鯨尺一分トス

第五條 「メートル」法度量衡ハ左ニ掲クル比較ニ依リ之ヲ適法ノモノトシ本條以下ノ規定ヲ適用ス

度

毛	「メートル」	〇、〇〇〇三三〇
厘	「センチメートル」	〇、〇〇三三〇〇
分	「デシメートル」	〇、〇三三〇〇〇
寸	「メートル」	三三三〇〇〇〇

尺	間	町	里	地積	合	歩或ハ坪	畝	段	町	畧	斗	石	毛	厘	分	匁	斤		
「デカメートル」	「ヘクトメートル」	「キロメートル」	「センチメートル」	「アール」	「ヘクタール」	「センチアール」	「アール」	「ヘクタール」	「センチリットル」	「リットル」	「デカリットル」	「ヘクトリットル」	「ミリグラム」	「センチグラム」	「デシグラム」	「グラム」	「デカグラム」	「ヘクトグラム」	「キログラム」
〇、三〇三〇三	三、〇三〇三〇	三、〇三〇三〇	三、〇三〇三〇	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三
(三萬三千分ノ一萬)	(三萬三千分ノ十萬)	(一八一分ノ一八)	(十一分ノ二)	(十一分ノ九〇九一)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)

尺	間	町	里	地積	合	歩或ハ坪	畝	段	町	畧	斗	石	毛	厘	分	匁	斤		
「デカメートル」	「ヘクトメートル」	「キロメートル」	「センチメートル」	「アール」	「ヘクタール」	「センチアール」	「アール」	「ヘクタール」	「センチリットル」	「リットル」	「デカリットル」	「ヘクトリットル」	「ミリグラム」	「センチグラム」	「デシグラム」	「グラム」	「デカグラム」	「ヘクトグラム」	「キログラム」
〇、三〇三〇三	三、〇三〇三〇	三、〇三〇三〇	三、〇三〇三〇	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三	〇、〇〇〇三三
(三萬三千分ノ一萬)	(三萬三千分ノ十萬)	(一八一分ノ一八)	(十一分ノ二)	(十一分ノ九〇九一)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)	(三九二七、二七二七三)

第六條 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之ヲ保管ス
農商務大臣ハ度量衡ノ原器ニ依リ副原器二組ヲ製作セシメ原器ノ代用ニ供ス
副原器ノ一組ハ農商務大臣之ヲ保管シ他ノ一組ハ文部大臣之ヲ保管ス
第七條 農商務大臣ハ副原器ニ依リ地方原器ヲ製作セシムヘシ

地方原器ハ地方長官之ヲ保管シ度量衡器檢定ノ標準ニ供スルモノトス

第八條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ販賣セント欲スル者ハ地方長官ヲ經由シ農商務大臣ニ願出免許ヲ受クヘシ

製作ノ免許ヲ得タル者ハ修覆及販賣ヲナスコトヲ得

免許ニ關スル年限、身元保證金其ノ他必要ナル制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 度量衡器ヲ製作シ修覆シ若ハ輸入シテ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用スル者ハ豫メ其ノ檢定ヲ受クヘシ

營業ノ目的ニ使用スル度量衡器ハ前項檢定ノ外之ヲ修覆シタルトキ及定期間ニ於テ檢定ヲ受クヘシ

官廳、公署、官立、公立ノ諸建設場又ハ貧醫院、病院其ノ他之ニ類スル建設場ニ於テ賣買、授受及證明ノ爲ニ使用スル度量衡器ハ營業ノ目的ニ使用スルモノニ準ス

第十條 度量衡器ノ種類、形狀、物質、檢定ノ定期及公差、檢定スヘキ目盛及分銅ノ最小制限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 度量衡器ノ檢定及取締ハ地方長官之ヲ管理ス

地方長官ハ市長、町村長ヲシテ其ノ市町村内ニ於ケル度量衡器ノ取締ヲ行ハシメ及其ノ檢定ニ關スル事務ヲ補助セシムルコトヲ得

第十二條 度量衡器ノ製作者、修覆者、販賣者及使用者ハ取締ノ爲ニ行フ當該吏員ノ臨檢ヲ

拒ムコトヲ得ス但シ吏員ハ主任タルノ證書ヲ携帯シテ之ヲ示スヘシ

第十三條 度量衡器ノ製作、修覆及販賣ノ免許ヲ受クル者ハ免許料ヲ、檢定ヲ受クル者ハ檢定料ヲ納ムヘシ

免許料及檢定料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 度量衡器ノ製作者、修覆者若ハ販賣者ニシテ度量衡ニ關スル法律命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ營業免許ヲ取消スコトヲ得

第十五條 免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ製作シ若ハ修覆シテ販賣シタル者ハ二十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

免許ヲ受ケスシテ度量衡器ヲ販賣シ又ハ檢定ヲ受ケサル度量衡器ヲ販賣シ若ハ之ヲ營業ノ目的ニ使用シ及吏員ノ臨檢ヲ拒ミタル者ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

差狂アル度量衡器ナルコトヲ知テ之ヲ販賣シ又ハ營業ノ目的ニ使用シタル者亦前項ニ同シ

第十六條 本法施行ノ細則ハ農商務大臣之ヲ定ム
附則

第十七條 本法ハ明治二十六年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條 度量衡器ノ製作ニ限リ本法施行前六箇月以内ニ之ヲ免許スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本法中製作ニ關スル條項ハ之ヲ適用ス

第十九條 從來度量衡製作及賣捌ノ免許ヲ受ケタル者ハ更ニ免許ヲ受クルコトヲ要セス本法ノ規定ニ從ヒ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得

第二十條 從來ノ度量衡器ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年以内ニ本法ノ規定ニ依リ其ノ檢定ヲ受クヘシ檢定ヲ經サルモノハ其ノ期限ヲ過クル後之ヲ販賣シ若ハ營業ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第二十一條 從來ノ度量衡器ニシテ修覆シタルモノ、檢定ハ本法施行ノ日ヨリ七箇年ヲ限リ從來ノ檢査規則ニ依ル

第二十二條 明治八年太政官第三百二十五號達度量衡取締條例並檢査規則同九年第十七號布告度量衡改定規則及西洋形權衡ニ係ル從來ノ法令ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス但シ度量衡取締條例附屬檢査規則ハ前條ノ場合ニ限り明治三十二年十二月三十一日マテ其ノ効力ヲ有ス

第百九十一 日本坑法中改正

明治二十三年七月三十日公布
法律第五十五號

朕日本坑法中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣 伯耆山縣有朋
農商務大臣 陸奥宗光

明治二十三年七月二十九日

法律第五十五號

日本坑法中左ノ通改正ス

第二章

第五 試掘ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ試掘願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添へ農商務大臣ニ差出スヘシ

試掘ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル若シ試掘セント欲スル地ノ全部ヲ所有スル者ノ出願ト同地ニ係ル他人ノ出願ト同時ナルトキハ其土地所有者ニ許可スルモノトス

第三章

第九 借區ノ許可ヲ得ント欲スル者ハ借區願書ニ坑區圖ヲ添へ農商務大臣ニ差出スヘシ

借區願書及坑區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ坑區圖ハ願書ノ日附ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此期限内ニ差出サハルトキハ其出願ヲ無効トス

借區ノ許可ハ出願日時ノ先後ニ依ル

出願ノ試掘地ト出願ノ坑區ト互ニ抵觸スルトキハ試掘出願ヲ無効トス

坑區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限リトス其坑區ノ面積ハ石炭ハ壹萬坪以上其他ノ礦物ハ三千坪以上トシ共ニ六拾萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第十 借區出願人ハ其出願地ニ於テ採掘セントスル礦物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ其證明ヲナス能ハサルトキハ其出願ヲ無効トス

農商務大臣鑛物ノ存在ヲ認メヌ又ハ試掘若ハ採製ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ其出願ヲ許可セヌ
試掘若ハ採製ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得

試掘人又ハ借區人前項ノ處分ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區ノ許可詐偽又ハ錯誤ニ由リタルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其許可ヲ取消スヘシ若シ其許可ニ就キ利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ發見シタルトキハ之ヲ農商務大臣ニ申立テ其取消ヲ請求スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ指令ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第五章

第二十二 試掘又ハ借區ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲損害ヲ生シタルトキハ之ヲ賠償スヘシ
左ノ場合ニ於テ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トスルトキハ其土地ノ所有者又ハ關係人ト協議シ其承諾ヲ受クヘシ若シ協議調ハサルトキハ農商務大臣ノ裁定ヲ請フヘシ

一 坑口ヲ開穿スル爲

一 坑物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲

一 坑道、道路、鐵道馬車、鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲

一 坑業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

前項ノ場合ニ於テ農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ其土地ノ所有者又ハ關係人ハ其貸渡ヲ拒ムコトヲ得ス

試掘人又ハ借區人ハ貸渡ヲ受クヘキ土地ニ對シ土地所有者及關係人ニ協議ヲ遂ケ相當ノ補償金ヲ支拂フヘシ

試掘人又ハ借區人三箇年以上土地ヲ使用スル目的アルカ又ハ使用ノ爲土地ノ形質ヲ變更スルカ又ハ建物アル土地ハ所有者ノ請求ニ依リ之ヲ收用スヘシ

此他土地ノ使用及收用ニ關シテハ土地收用法第十八條第十九條第二十條第二十一條第二十二條第二十三條第二十四條第二十五條第二十六條第一項第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條ノ例ニ依ル

〔一〕鑛業條例 明治二十三年九月二十六日公布
法律第八十七號

朕鑛業條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月二十五日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋

法律第八十七號

鑛業條例

第一章 總則

第一條 鑛業トハ鑛物ノ試掘採掘及之ニ附屬スル事業ヲ謂フ

第二條 鑛物ノ未タ採掘セサルモノハ國ノ所有トス

此ノ條例ニ於テ鑛物トハ金鑛(砂金ヲ除ク)銀鑛、銅鑛、鉛鑛、錫鑛(砂錫ヲ除ク)安質母尼鑛、水銀鑛、亞鉛鑛、鐵鑛(砂鐵ヲ除ク)硫化鐵鑛、滿奄鑛、砒鑛、黑鉛、石炭、石油及硫黃ヲ謂フ

第三條 帝國臣民ニ非サレハ鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主トナルコトヲ得ス

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖瘂ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

第四條 農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中鑛業人トナリ又ハ鑛業ニ關スル組合員又ハ會社ノ株主若ハ役員トナルコトヲ得ス

第五條 此ノ條例ニ依リ鑛業特許取消ノ處分ヲ受ケタル鑛業人ハ同鑛區ニ付一箇年間採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 二人以上共同シテ鑛業ヲ爲ストキハ總代一名ヲ選定シ豫シメ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

總代ハ鑛業上ニ關シ政府ニ對シテ共同鑛業人ヲ代表スルモノトス

第七條 共同鑛業人ノ變更、採掘權ノ賣買、讓與、書入及廢業届等ニハ總代ノ外少クモ共同鑛業人過半数ノ連署ヲ要ス

第二章 試掘及採掘

第八條 試掘ヲ爲サント欲スル者ハ其ノ願書ニ試掘地ノ圖面ヲ添ヘ所轄鑛山監督署長ニ差出シ其ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 試掘ハ認可ノ日ヨリ一箇年ヲ限トス

試掘人前項ノ期限内ニ於テ其事業ヲ竣ヘ難キ事實アルトキハ所轄鑛山監督署長ニ延期ヲ出願スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ハ其ノ事實ヲ調査シ已ムヲ得サルモノト認ムルトキハ一箇年以内ノ延期ヲ認可スルコトヲ得

第十條 試掘ニ依リ採取シタル鑛物ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ得テ之ヲ販賣スルコトヲ得

第十一條 前條ニ依リ鑛物ヲ販賣シタルトキハ三十日以内ニ其販賣代價百分ノ一ヲ所轄鑛山監督署ニ納ムヘシ

前項ノ金額ヲ其ノ期限内ニ納メサル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ處分ス

第十二條 採掘ノ特許ヲ得ント欲スル者ハ採掘願書ニ鑛區圖ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所

轉鑛山監督署ニ差出スヘシ

採掘願書及鑛區圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ノミヲ差出シ置キ鑛區圖ハ願書ノ日附ヨリ五十日以内ニ之ヲ差出スコトヲ得此ノ期限内ニ差出サハルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第十三條 採掘ヲ出願スル者ハ出願地ニ其ノ採掘セントスル鑛物ノ存在スルコトヲ證明スヘシ

第十四條 鑛山監督署長ハ鑛物ノ存在ヲ認定スル爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ採掘出願人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ
採掘出願人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メサルトキハ其出願ヲ無効トス

第十五條 鑛山監督署ニ於テハ試掘及採掘出願登録簿ヲ備ヘ置キ出願日時ノ先後ニ依リ之ヲ登録ス

第十六條 試掘又ハ採掘ノ出願同一ノ地ニ付二人以上アルトキハ出願日時ノ先後ニ依リ其許否ヲ定ム

出願ノ日時同一ナルトキハ鑛山監督署長ハ其ノ旨ヲ各出願人ニ通知スヘシ各出願人ハ通知書ノ日附ヨリ六十日以内ニ協議ヲ遂ケ出願人ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ其出願ヲ無効トス

出願ノ日時同一ニシテ試掘ト採掘トニ係ルトキハ先ツ採掘ノ出願ニ付其許否ヲ定ム
第十七條 農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フヘキモノト認メタルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ

第十八條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣其ノ出願ヲ許可セズ

第十九條 試掘若ハ採掘ノ事業公益ニ害アルトキハ試掘ニ就テハ所轄鑛山監督署長採掘ニ就テハ農商務大臣既ニ與ヘタル認可若ハ特許ヲ取消スコトヲ得

鑛業人前項取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十條 特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ハ賣買讓與又ハ書入ヲ爲スコトヲ得

採掘權ヲ賣買讓與スルトキハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ヲ經農商務大臣ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クヘシ此ノ手續ニ依ラサル賣買讓與ハ法律上其ノ効ナキモノトス

採掘權ノ書入ハ雙方連署シ所轄鑛山監督署ノ登録ヲ受クヘシ其ノ登録ヲ受ケサルモノハ法律上其ノ効ナキモノトス

第二十一條 他人試掘ノ年限中ハ其ノ試掘地内ニ於テ同一ノ鑛物ニ付採掘ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 他人ノ認可ヲ得タル試掘地内ニ於テ其ノ試掘人ノ未タ認可ヲ得サル鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ試掘人ノ承諾ヲ經ヘシ
試掘人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ認可ヲ得タル鑛物ノ試掘ニ妨害アルトキノ外ハ試掘人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十三條 他人所屬ノ鑛区内ニ於テ其ノ鑛業人ノ未タ試掘ノ認可又ハ採掘ノ特許ヲ得サル鑛物ニ付試掘若ハ採掘ヲ出願セント欲スル者ハ鑛業人ノ承諾ヲ經ヘシ
鑛業人自ラ試掘又ハ採掘ヲ出願セント欲スルカ若ハ其ノ試掘又ハ採掘ノ爲ニ鑛業ニ妨害アルトキノ外ハ鑛業人ハ前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十四條 宮城、離宮、神宮、皇陵、陸海軍所轄城堡、軍港、要港、火藥製造所、火藥庫及彈藥庫ノ周圍三百間以内ノ場所ハ試掘又ハ採掘若ハ鑛業上使用スルコトヲ得ス但軍港、要港ハ其ノ鎮守府司令長官ノ許可ヲ得タル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第二十五條 鐵道、馬車鐵道、公道、河川、堤防、沼池、社寺、墓地、公園地及建物ヨリ地表地下トモ其周圍三十間以内ノ場所ニ於テハ所轄官廳若ハ所有者ノ承諾ヲ經ルニアラサレハ試掘又ハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス但危險ノ虞ナキモノハ其ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十六條 鑛業人ハ毎年ノ鑛業施業案ヲ調製シ其ノ前年十月三十日限其ノ初年ニ係ルモノハ採掘特許ノ日ヨリ三箇月以内ニ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ
前項ノ施業案ニシテ坑内ノ保安ニ害アリ又ハ其ノ鑛區ニ相當スル鑛業ヲ爲サルモノ

ト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ理由ヲ鑛業人ニ示シ期限ヲ定メ之ヲ改正セシムヘシ

第二十七條 鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受ケタル鑛業施業案ニ依ルニアラサレハ採掘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條 鑛業人鑛業施業案又ハ其ノ改正案ヲ期限内ニ差出サ、ルトキハ農商務大臣ハ其ノ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第二十九條 鑛業人一箇年以上休業シ又ハ採掘ノ特許ヲ得タル日ヨリ一箇年以内ニ鑛業ニ著手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

第三十條 前二條ノ場合ニシテ其ノ自己ノ過失ニ由ラサルモノハ特許取消ノ達ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其ノ理由ヲ農商務大臣ニ申立テ再願ヲ爲スコトヲ得若シ農商務大臣ニ於テ之ヲ拒ムトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十一條 鑛業人ハ坑内實測圖ニ葉ヲ調製シ一葉ハ所轄鑛山監督署ニ差出シ一葉ハ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

前項坑内實測圖ハ事業ノ進歩ニ從ヒ六箇月毎ニ追補スヘシ
鑛業人若シ他人ノ所屬ニ係ル隣接鑛區ノ坑内實測圖ニ付證明ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ニ於テ右證明ノ爲ニ吏員ノ實地臨檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘシ

第三十二條 鑛業人鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

第三十三條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ試掘ノ認可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ認可ヲ取消スヘシ若シ其ノ認可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ認可ノ日ヨリ三箇月以内ニ試掘認可ノ取消ヲ前項所轄鑛山監督署長ニ訴願スルコトヲ得

第三十四條 詐偽又ハ錯誤ニ由リ採掘ノ特許ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ特許ヲ取消スヘシ若シ其ノ特許ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ其ノ關係ヲ有スル者ハ特許ノ日ヨリ三十日以内ニ採掘特許ノ取消ヲ農商務大臣ニ訴願スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ不服アル者ハ其ノ裁定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第三十五條 第二十二條第二項及第二十三條第二項ノ場合ニ於テ理由ナクシテ承諾ヲ拒

ミタルトキハ關係人又第二十五條但書ノ場合ニ於テ危險ノ虞ナクシテ承諾ヲ拒ミタルトキハ鑛業人ハ所轄鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スルコトヲ得

第三十六條 前條ノ判定ニ不服アル者ハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 鑛業人廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署ニ届出テ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第三十八條 第十九條第二十八條第二十九條第三十四條第四十三條及第七十六條ニ依リ農商務大臣ニ於テ採掘ノ特許ヲ取消シ又ハ第三十七條ニ依リ廢業ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ特許ヲ得タル鑛物ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主ハ其ノ抵當權ヲ失フモノトス但第十九條及第三十四條ノ場合ヲ除クノ外債主ニ於テ六十日以内ニ其ノ鑛區ノ採掘ヲ願出ルトキハ出願ノ先後ニ拘ハラズ特許ヲ與フヘシ

第三十九條 鑛業人ハ毎年一月前年ニ採取シタル鑛物ノ量數、製產物、其ノ販賣高、販賣代價、行業日數及工數ヲ所轄鑛山監督署ニ届出ツヘシ

第四十條 鑛業人ハ農商務大臣定ムル所ノ書式ニ依リ帳簿ヲ調製シ製產物ノ量數及販賣代價等ヲ記載スヘシ

第三章 鑛區

第四十一條 鑛區トハ鑛物ノ採掘ヲ爲ス土地ノ區域ヲ謂フ

第十四類 第三章 商工

鑛區ノ境界ハ直線ヲ以テ之ヲ定メ地表境界線ノ直下ヲ限トス其ノ一鑛區ノ面積ハ石炭
ハ一萬坪以上其ノ他ノ鑛物ハ三千坪以上トシ共ニ六十萬坪ヲ超ユルコトヲ得ス

第四十二條 出願ニ係ル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノ
ト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ出願人ニ通知シ訂正セシムヘシ
出願人前項ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ三十日以内ニ訂正シテ差出サハルト
キハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十三條 特許ヲ得タル鑛區ノ位置形狀、鑛床ノ位置形狀ト相違シ鑛利ヲ損スヘキモノ
ト認メタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ農商務大臣ノ認可ヲ經六十日以内ノ期限ヲ定
メ訂正セシムヘシ若シ訂正セサルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル特許ヲ取消スコト
ヲ得

鑛業人ハ前項特許取消ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ
行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第四十四條 鑛業人鑛床ノ形狀ニ由リ鑛區ノ境界若ハ位置ノ訂正ヲ要スルトキハ其ノ願
書ニ理由書、訂正鑛區圖及鑛業特許證ヲ添ヘ農商務大臣宛ニテ所轄鑛山監督署ニ差出
スヘシ

農商務大臣ニ於テ訂正ヲ必要ト認メタルトキハ更ニ鑛業特許證ヲ下付スヘシ
第四十五條 鑛業人鑛區ノ訂正ヲ出願シタル場合ニ於テ所轄鑛山監督署長吏員ノ實地臨

檢ヲ必要ト認ムルトキハ鑛業人ヲシテ出張吏員ノ爲ニ制規ノ旅費日當ヲ前納セシムヘ
シ
鑛業人前項旅費日當納付ノ通知ヲ受ケ其ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ納メ
サルトキハ其ノ出願ヲ無効トス

第四十六條 鑛區ヲ合併シ又ハ分割セント欲スル者ハ合併又ハ分割鑛區圖及鑛業特許證
ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ヲ經テ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ採掘權ヲ抵當ニ取リタル債
主アルトキハ其ノ承諾書ヲ添フヘシ

鑛區ノ分割ハ第四十一條ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

第四章 土地使用

第四十七條 試掘又ハ採掘ヲ出願スル爲他人ノ土地ヲ測量スルコトヲ必要トスルトキハ
所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之
ヲ拒ムコトヲ得ス若シ測量ノ爲ニ損害ヲ生シタルトキハ其ノ測量ヲ請求シタル者ニ於
テ之ヲ賠償スヘシ

測量請求者他人ノ所有地ニ入ルトキハ豫メ其ノ土地所有者ニ通知シ且測量認可證ヲ携
帶スヘシ

第四十八條 左ノ場合ニ於テ鑛業上他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ鑛業人其ノ貸
渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地ノ所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

- 一 坑口ヲ開穿スル爲
- 一 鑛物及土石ノ堆積場ヲ設置スル爲
- 一 坑道、道路、鐵道、馬車鐵道、運河、溝渠及溜池ヲ開設スル爲
- 一 鑛業上必要ノ製鍊場及建物ヲ建設スル爲

第四十九條 左ノ場合ニ於テハ土地所有者又ハ關係人ハ土地貸渡ノ請求ヲ拒ムコトヲ得

- 一 貸渡請求ノ土地第二十五條ニ記載シタル場所ニ係ルトキ
- 一 土地借受人ニ於テ第五十條ノ保證金ヲ差出サ、ルトキ

第五十條 土地借受人ハ貸渡ヲ受ケタル土地ニ對シ其ノ土地貸渡人ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ

土地貸渡人ハ借地料ノ保證金トシテ土地借受人ニ豫メ土地臺帳ニ記載シタル地價以內ノ金額ヲ差出サシムルコトヲ得
其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料及保證金ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス

土地使用ニ依リ所有者又ハ關係人ニ損害ヲ與フルトキハ鑛業人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ

土地借受人土地ノ使用ヲ終リ其ノ使用中ノ借地料ヲ完納シタルトキハ土地貸渡人又ハ質取主ハ土地ト引換ニ保證金ヲ返還スヘシ

第五十一條 土地借受人貸渡ヲ受ケタル土地ノ使用ヲ終リタルトキハ土地貸渡人ノ要求ニ應ジ其ノ土地ヲ原形ニ復シ返還スヘシ若シ原形ニ復シ難キトキハ土地借受人ニ於テ其ノ損害ヲ賠償スヘシ

第五十二條 土地借受人借地料ノ仕拂ヲ延滞シタルトキハ土地貸渡人ハ其ノ延滞借地料ニ相當スル金額ヲ保證金中ヨリ差引キ土地ヲ取戻スコトヲ得

前項土地ヲ取戻スニ當リ地上ニ建物等アルトキハ六十日以上ノ期限ヲ定メテ土地借受人ニ其ノ取除ヲ請求スヘシ若シ土地借受人ノ所在不分明ナルトキハ其ノ地方ノ新聞紙ヲ以テ其ノ旨ヲ公告スヘシ

土地借受人右期限内ニ取除ヲナサ、ルトキハ其ノ建物等ハ土地貸渡人ノ所有ニ歸スヘシ

第五十三條 鑛業人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ鑛業人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十四條 鑛業人ニ於テ貸渡ヲ受ケタル土地ヲ三箇年以上使用スル目的アルカ又ハ三箇年以上之ヲ使用スルトキハ土地貸渡人ハ鑛業人ニ其ノ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十五條 土地ノ所有者及關係人ト測量請求人又ハ鑛業人トノ間ニ於テ土地貸渡、借

地料、保證金、損害賠償金又ハ土地賣買代價ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其判定ヲ請求スルコトヲ得

所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ借地料、保證金、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第五十六條 所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟入費ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第五十七條 鑛業人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル借地料、保證金、損害賠償金又ハ賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若シ之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預ケ置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第五章 鑛業警察

第五十八條 鑛業ニ關スル警察事務ニシテ左ニ掲グルモノハ農商務大臣之ヲ監督シ鑛山監督署長之ヲ行フ

- 一 坑内及鑛業ニ關スル建築物ノ保安
- 一 鑛夫ノ生命及衛生上ノ保護
- 一 地表ノ安全及公益ノ保護

第五十九條 鑛業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ニ其ノ豫防ヲ命シ又ハ鑛業ヲ停止スヘシ
所轄鑛山監督署長ニ於テ鑛業ヲ停止セントスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ

第六十條 前條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人直ニ其ノ豫防ニ著手セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ鑛業人ノ使用スル役員及鑛夫ヲ指揮シ其ノ豫防ヲ執行スヘシ
此ノ場合ニ於テ鑛業人ハ其ノ使用スル役員及鑛夫ヲ豫防ノ用ニ供シ且一切ノ費用ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第六十一條 第五十九條ニ依リ鑛業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ直ニ鑛業ノ停止ヲ解キ其ノ旨ヲ農商務大臣ニ具申スヘシ

第六十二條 農商務大臣ニ於テ此ノ條例ニ依リ採掘ノ特許ヲ取消シタルトキ又ハ鑛業人廢業シタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ノ期限ヲ定メ鑛業ノ爲建設シタル家屋及其ノ他ノ建物等ヲ除去セシムヘシ若シ右期限内ニ除去セサルトキハ其ノ建物等ハ土地所有者ノ所有ニ歸ス但所轄鑛山監督署長ニ於テ坑内保安ノ爲ニ必要ト認ムル坑内及坑口ノ構造物ハ之ヲ除去スルコトヲ得ス
前項ノ場合ニ於テ鑛業人ノ所在不分明ナルトキハ第五十二條第二項ノ手續ニ依ルヘシ

第六十三條 農商務大臣ハ此ノ條例ノ範圍内ニ於テ省令ヲ以テ鑛業警察規則ヲ定ムルコトヲ得

第六章 鑛夫

第六十四條 鑛夫トハ鑛物ノ採掘及之ニ附屬スル業務ニ従事スル男女ノ職工ヲ謂フ

鑛業人ハ其ノ使役スル鑛夫ノ使役規則ヲ定メ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第六十五條 鑛業人ト鑛夫トノ間ニ特別ノ約定ナキ場合ニ於テ雙方トモ十四日以前ニ通知スルトキハ雇役ノ解約ヲナスコトヲ得

第六十六條 左ノ場合ニ於テハ鑛業人ハ何時タリトモ鑛夫ヲ解雇スルコトヲ得

- 一 輕罪以上ノ刑ニ處セラレタルカ又ハ不行狀ノ所爲アルカ若ハ命令ヲ遵守セザルトキ

- 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ對シ粗暴ノ所爲アリタルトキ
- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
- 一 鑛業ヲ禁止セラレ又ハ廢業シタルトキ

第六十七條 左ノ場合ニ於テハ鑛夫ハ何時タリトモ其ノ雇役ヲ罷ムルコトヲ得

- 一 身體虛弱ニシテ業務ニ堪ヘザルトキ
- 一 鑛業人又ハ其ノ使用スル役員ニ於テ虐待シタルトキ
- 一 約定ノ賃錢又ハ報酬ヲ給與セザルトキ

第六十八條 鑛業人又ハ其ノ代理人ハ解雇スル鑛夫ノ請求ニ依リ從來ノ業務年限、本人

ノ技能、賃錢及解雇ノ事由ヲ記載シタル證明書ヲ與フヘシ

鑛業人證明書ヲ與フルコトヲ拒ムカ又ハ鑛夫ニ於テ證明書中不當ト認ムル事項アルトキハ所轄鑛山監督署員若ハ警察官ニ申告スルコトヲ得

第六十九條 鑛業人ハ鑛夫ノ賃錢ヲ通貨ニテ仕拂フヘシ鑛夫ノ請求アルニアラサレハ物品ヲ以テ仕拂フ爲スコトヲ得ス

第七十條 鑛業人ハ鑛夫名簿ヲ備ヘ置キ氏名、年齢、本籍、職業、雇入及解雇ノ年月日ヲ記入スヘシ

第七十一條 農商務大臣ハ左ニ記載スル制限内ニ於テ省令ヲ以テ鑛夫工役規則ヲ定ムルコトヲ得

- 一 一日十二時間以上ノ就業時間ヲ制限スルコト
- 一 女工ノ工役ノ種類ヲ制限スルコト
- 一 十四年以下ノ男女職工ノ就業時間及工役ノ種類ヲ制限スルコト

第七十二條 鑛業人ハ左ノ場合ニ於テ其ノ雇入鑛夫ヲ救恤スヘシ其ノ救恤規則ハ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 鑛夫自己ノ過失ニ非スシテ就業中負傷シタル場合ニ於テ診察費及療養費ヲ補給スルコト

一 前項の場合ニ於テ鑛夫ニ療養休業中相當ノ日當ヲ支給スルコト
一 前項ノ負傷ニ由リ鑛夫ノ死亡シタルトキ埋葬料ヲ補給シ及遺族ニ手當ヲ支給スルコト

一 前項ノ負傷ニ由リ痙疾トナリタル鑛夫ニ期限ヲ定メ補助金ヲ支給スルコト
第七章 鑛業税及鑛區税

第七十二條 鑛業人ハ鑛業税トシテ鑛業製産物ノ價格百分ノ一鑛區税トシテ鑛區一千坪毎ニ一箇年金三十錢ヲ納ムヘシ但一千坪未滿ノ端數ニ對スル鑛區税ハ之ヲ免除ス
鑛鑛ヲ採掘スル者ニハ鑛業税ヲ課セス

第七十四條 前條鑛業製産物ノ價格ハ主要ナル市場ノ平均相場ヲ標準トシ農商務大臣ノ告示スル所ニ依ル但市場ノ相場ナキモノハ其ノ販賣代價ニ依ル

第七十五條 鑛業税ハ前年分ヲ毎年三月三十一日限ニ又廢業ノ年ニ係ルモノハ廢業ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ
鑛區税ハ一箇年分ヲ其ノ前年十二月十五日限ニ又初年ニ係ルモノハ月割ヲ以テ採掘出願特許ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ其ノ廢業ノ年ニ係ルモノハ之ヲ返付セス

第七十六條 鑛業人納税期限内ニ鑛業税及鑛區税ヲ納メサルトキハ農商務大臣ハ採掘ノ特許ヲ取消スコトヲ得其ノ取消ニ不服アルトキハ其ノ違ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第八章 罰則

第七十七條 第二十四條第二十五條ヲ犯シタル者ハ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十八條 特許ヲ得スシテ採掘ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ特許ヲ得タル者ハ五十圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條 認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐偽ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尙ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條 第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ五十圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條 第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條 第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條 第三十九條ニ依リ届出ツヘキ事項ヲ詐テ述稅シタル者ハ其ノ述稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ述稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二十圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條 第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二十圓以下ノ罰金ニ處ス

上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條 第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條 第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條 第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徴シ其ノ罪ヲ問ハス

第八十八條 此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス 鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章 附則

第八十九條 此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條 此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尙ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此ノ條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條 此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條 此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九

號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

(二)坑業ニ關スル手数料徵收方 明治二十三年七月三十日公布

朕坑業ニ關スル手数料徵收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十九日

農商務大臣陸奥宗光

勅令第五百一十一號

第一條 坑業ニ關シ次ニ掲ケタル出願ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ

一 試掘ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金三圓

一 借區ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金拾五圓

一 試掘ノ讓與、延期、加除名ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金壹圓

一 借區ノ繼年期、讓與、加除名、訂正、合併若ハ分割ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金五圓

一 借區外製煉所建設又ハ借區外ノ坑道、通洞ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金貳圓

第二條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條 本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行ス

(三)鑛山借區更正ノ爲メ坪數ニ増減ヲ生シタルトキ税金徵收方 明治二十二年十二月二十六日農商務省令第十二號

十九年省令第
五號八初編第
二百二十八ノ
二二二項ニ掲
ク
六年五號達第
十七年第五號
達十八年第三
號達ハ初編第
二百二十八ノ
十三項十五項
ニ掲ク

鑛山借區更正ノ爲メ坪數ニ増減ヲ生シタルトキハ自今更正許可ノ月ヨリ其坪數ニ據テ税金ヲ徵收ス
但減坪ニ屬スル既納税金ハ明治十九年當省令第五號ニ據ル

〔四〕坑業ニ關スル諸達廢止ノ件 明治二十三年二月十四日 農商務省令第二號

明治六年工部省第五號達同十七年同省第五號達及同十八年同省第三號達ヲ廢ス

〔五〕鑛業ニ關スル出願手續 明治二十三年七月三十一日 農商務省令第七號

今般法律第五十五號發布ニツキ鑛業ニ關スル出願手續等左ノ通相定ム

第一條 試掘若クハ借區ノ許可ヲ受ケント欲スル者ハ願書ニ勅令第五百五十一號第一條ノ手数料ニ相當スル登記印紙ヲ貼
用シ必要ノ圖面ヲ添ヘ書留郵便ヲ以テ直ニ農商務大臣ニ差出スヘシ

但シ試掘及借區願書ハ第一號及第二號書式ニ坑區圖ハ第一號雛形ニ依ルヘシ

第二條 坑法第九款第三項ニ依リ願書ノミヲ差出ストキハ府縣國郡市町村大字小字及概略ノ坪數ヲ記シタル見取圖ヲ添
フ可シ

第三條 鑛業ニ關スル願書及附屬圖ニハ地主隣ノ借區人ノ連署及市町村長郡長地方長官ノ奥書ヲ要セズ

第四條 試掘借區通河、借區外坑道及借區外製煉所建設等ニ係ル願書ヲ農商務大臣ニ差出シタルトキハ同時ニ其ノ願書
及圖面ノ寫ヲ添ヘ試掘地又ハ借區地ノ市長村長ヲ經由シ地方長官ニ届出ツヘシ

地方長官ニ於テ前項ノ届書ヲ受理シタルトキハ圖面ノ正否公益上ノ利害並ニ其ノ出願地ニ於テ他ニ鑛業ヲ營ム者ノ有
無ヲ調査シ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ其ノ御料地若クハ官有地ニ係ルモノハ地方長官主管ノ官廳ニ協議ヲ遂
クヘシ

第五條 新ニ發見シタル鑛物ニ就テ借區ヲ出願スル者ハ其ノ鑛物ノ標品ヲ農商務省鑛山局長宛ニテ差出スヘシ

舊坑ニ就テ借區ヲ出願スル者其ノ舊坑ヨリ出願鑛物ヲ採製シタルノ事蹟ヲ證明シ得ルトキニ限り標品ヲ要セズ

前項ノ標品及證明書ハ借區願書ト同時ニ差出スヘシ

但シ標品ヲ借區願書ト同時ニ差出スコトヲ得サルトキハ日限ヲ定メ借區願書ヲ差出ストキ其ノ旨ヲ届出ヘシ
第六條 試掘又ハ借區出願ノ爲メ必要ナル土地ノ測量ニ就キ地方長官ヘ其ノ認可ヲ出願シタル場合ニ於テハ地方長官ハ
五百以内ニ認可狀ヲ下付スヘシ
若シ認可狀ヲ下付スヘカラサルモノト認メタルトキハ出願ノ日ヨリ十日以内ニ其ノ理由ヲ具シ農商務大臣ノ指揮ヲ請
フヘシ

（第一號書式）（用紙美濃紙ニツ折正副二通）
此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ

試掘願

名稱 何（地名） 試掘地

何府何國何市何町何村何大字何

小字 何全地

但 官地 何々

民地 何々

小字 何ノ内

但 官地 何々

民地 何々

右之箇所ニ於テ何鑛含有致シ候見込ニ付試掘許可相成度此段相願候也
年 月 日

何府何國何市何町何村何番地

華士族平民

何 某

但シ組合人アラハ外何名

農商務大臣(爵)(姓名)殿
(第三號書式)(用紙美濃紙ニツ折正副二通)
此處ニ登記印紙ヲ
貼用シ消印スヘシ
借區願

願人 何 某 印
但シ組合人アラハ連名連
印スヘシ

何府何國何郡何町何番地
華土族平民

何 某
但シ組合人アラハ外何名

名稱 何 (地名) 鑛山

何府何國何郡何町何番地

小字 何空地

但 官地 何々
民地 何々

小字 何ノ内

但 官地 何々
民地 何々

右之箇所ニ於テ何鐵存在致シ候ニ付借區許可相成度此段相願候也

年月日

願人 何

某 印
但シ組合人アラハ連名連
印スヘシ

農商務大臣(爵)(姓名)殿

(第二條ノ場合ニ於テハ左ノ但書ヲ加フヘシ)

但シ抗區圖ハ何年何月何日迄ニ差出シ可申候間見取圖添附仕候也

(備考)

(第二條ニ依リ別ニ圖面ヲ差出ストキハ圖面ノ右側ニ左ノ通り認メ置ク可シ)

(何)年(何)月(何)日發送仕置候借區出願ニ對スル借區圖差出シ申候也

何府何國何郡何町何番地

華土族平民

何 某

但シ組合人アラハ連名連
印スヘシ

住所族籍

何 某 印

但組合人アラハ連名連印
スヘシ

何(地名)鑛山出願抗區實測圖 尺度 千二百分一(二間五厘)又ハ
三千分一(二間二厘)又ハ
六千分一(二間一厘)

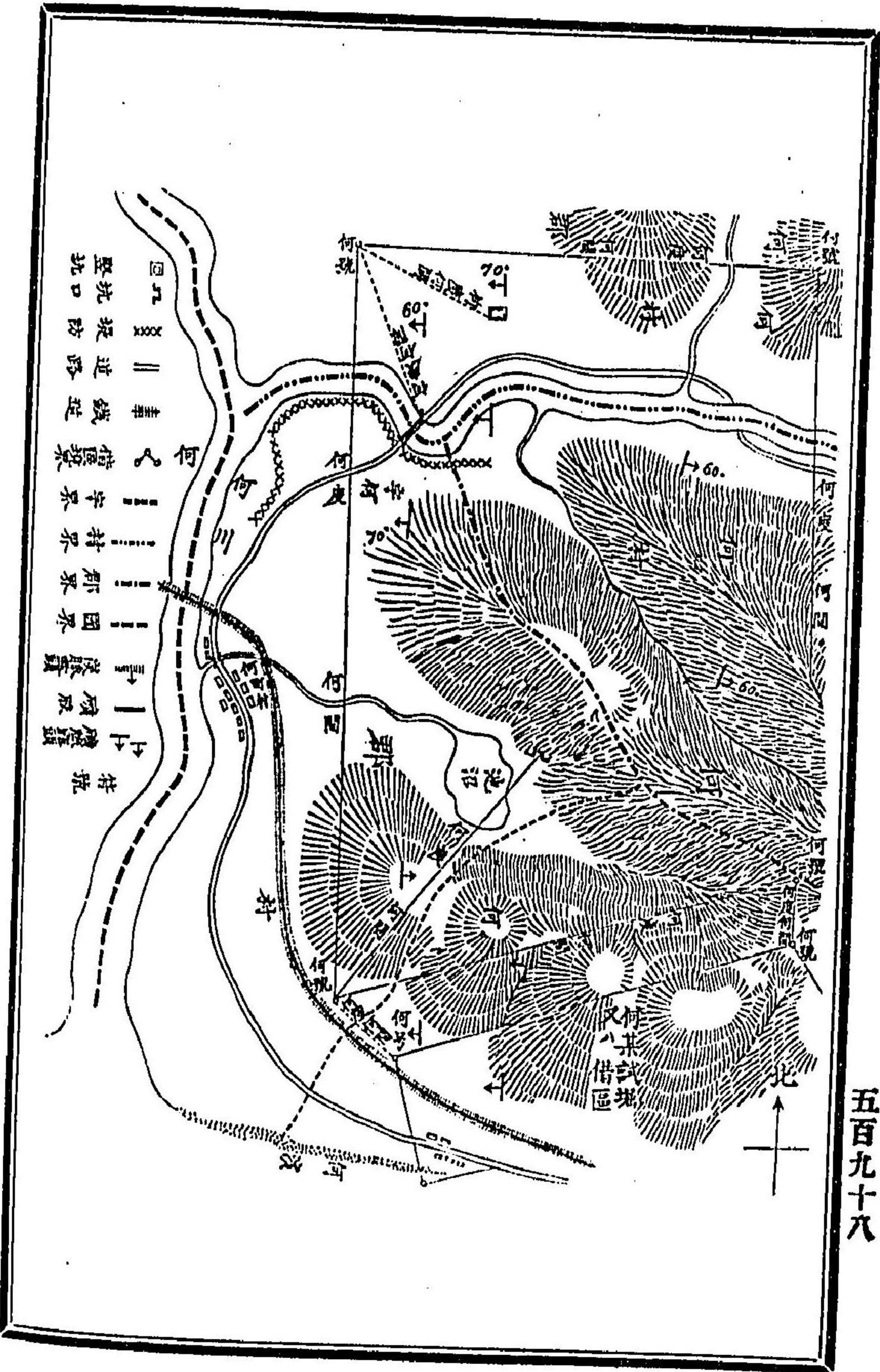
第一號地形

何府何國何郡何町何番地 小字何空地官地(地種地目)何坪
何縣何市何村何大字何 小字何ノ内官地(地種地目)何坪

合計何坪

測量者

何 某 印



圖中山ハ綠色水ハ青色坑區ノ境界線ハ赤ヲ以テ顯スヘシ

- 一 (二箇以上ノ坑區アルトキハ甲乙等ノ號ヲ付シ一區毎ニ村字坪數ヲ番別ケ別々ニ記載スヘシ) 二十三年十月省令第十四號ヲ以テ削除ス
 - 二 坑區ハ成ルヘク隅角ノ少キ様區畫スヘシ
 - 三 坪數ハ四捨五入シテ坪ニ止ムヘシ
 - 四 基點ハ家屋橋梁大石及大木等ノ如キ容易ニ動カス可カラサルモノタルヘシ若シ近傍基點ト爲スヘキモノナキトキハ大ナル標木ヲ設置シ之レヲ基點トナスヘシ
 - 五 百間以内ノ地ニ於テ自他ノ坑區アラハ其距離ヲ測定シテ圖上ニ掲クヘシ
 - 六 礦脈ノ方向判然タルモノハ坑區内及近傍礦脈露頭ノ走向傾斜ヲ揭示スヘシ
 - 七 増設借區ノトキハ原圖ヲ製シ若干ノ増設前同様圖ノ式ニ依ルヘシ區域ハ無彩色ニ製スヘシ
- 〔六〕借區試掘證券引揚ノ處分ヲ受ケタル者ハ借區及試掘ヲ許サス** 明治十九年三月三十一日 農商務省令第四號
- 鐵山借區稅息納又ハ一箇年以上休養及ヒ試掘期限經過ノタメ證券引揚處分ヲ受ケタルモノニハ同一村内ニ於テ(滿三年間)新ニ試掘又ハ借區ヲ許可セス 二十二年九月省令第八號ヲ以テ(滿三年間)ノ四字ヲ加フ
- 〔七〕試掘地坪數制限** 明治二十三年十月十一日 農商務省令第十三號
- 試掘地ノ坪數ハ日本坑法第九款第五項ノ制限ニ據ルヘシ

〔八〕日本坑法ニヨリ試掘借區ノ取消及土地使用上ニ關スル裁定請求者出願手續 明治二十三年十一月十五日 農商務省令第十九號

日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘若ハ借區ノ取消ヲ請求スル者及第二十二款第三項ニ依リ土地使用上ニ關スル裁定ヲ請求スル者出願手續左ノ通相定ム

第一條 日本坑法第十款第五項ニヨリ試掘人又ハ借區人ノ得タル試掘若ハ借區許可ノ取消ヲ請求セント欲スル者ハ其ノ其ノ理由ヲ記載シタル請求書ニ關係書類ヲ添ヘ各正副二通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ提出スヘシ

第二條 第二十二款第二項ニヨリ試掘人又ハ借區人坑業上他人ノ土地ヲ使用セントスルトキ其ノ所有者又ハ關係人ト協
議ハサル場合ニ於テハ裁定請求書ニ其ノ土地ヲ必要トスル理由書建設スヘキ工事ノ設計書詳細ノ實測圖面其ノ他關
係書類ヲ添ヘ各正副三通ヲ農商務大臣宛ニテ地方長官ニ差出スヘシ

第三條 地方長官ニ於テ第一條又ハ第二條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ五日以内ニ副書ヲ對手人ニ送附スヘシ

第四條 坑業人土地所有者又ハ關係人第三條ニ依リ請求書ヲ受理シタルトキハ其到達ノ日ヨリ十五日以内ニ農商務大臣
宛ニテ辨明書若クハ理由書ヲ作リ其請求書ト共ニ地方長官ニ差出スヘシ若シ此期限ヲ過クルトキハ意見ヲ申立ルコト
ヲ得ス

第五條 地方長官ニ於テ第四條ノ辨明書若クハ理由書ヲ受理シタルトキハ十五日以内ニ雙方申立ノ事實圖面等ヲ調査シ
書類ヲ添ヘ意見ヲ附シ農商務大臣ニ具申スヘシ

〔九〕 鐵山試掘又ハ借區願書ニ圖面添付方 明治二十四年三月十七日
農商務省令第四號
明治二十四年五月一日以後鐵山試掘若クハ借區ノ願書ニハ圖面三葉ヲ添フヘシ

〔十〕 試掘人試掘權喪失シタル指令書返納 明治二十三年六月九日
農商務省訓令第三十號府縣
試掘人其許可ヲ得タル試掘權ヲ喪失(廢業讓渡期限經過借區願換等)シタルトキハ農二下附シタル指令書ヲ返納セシム
ヘシ

〔十一〕 試掘願書ニ添付ノ圖面記載方 明治二十三年八月四日
農商務省告示第六號
試掘願書ニ添付スル圖面ニハ試掘地ノ府縣郡市町村大字小字及境界坪數等ヲ明記スルモノトス

〔十二〕 北海道廳管内試掘借區其他鐵業ニ關スル願書差出方 明治二十三年十月二十三日
農商務省告示第八號
北海道廳管内ニ於ケル試掘借區其他鐵業ニ關スル願書ハ本年七月當省令第七號ニ據リ自今直チニ當省ヘ差出スヘシ

〔十三〕 坑業ニ係ル伴道廳府縣ニ於テ處分後報告方 第二十七項ノ
二項ニ掲ク

〔十四〕 試掘借區等ニ關スル出願届出アリタルトキ取扱方 明治二十四年三月二十七日
農商務省訓令第十三號北海道廳府縣
明治二十三年七月當省令第七號第四條第二項ニ依リ試掘借區等ニ關スル出願届出アリタルトキハ市町村役場受理ノ日ヨリ
三十日以内ニ本大臣ニ具申スヘシ但シ御料地若クハ官有地ニ係リ主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘキモノ其他特別ノ調査ヲ要
スヘキモノハ此限リニアラス

〔十五〕 現在試掘地借區地原圖寫差出方 明治二十四年三月二十七日
農商務省訓令第十二號北海道廳府縣
明治二十四年四月三十日現在ノ試掘地借區地原圖寫一葉宛鐵業人ヨリ差出サシメ來ル八月三十一日限リ取廻メ當省
ニ差出スヘシ

但本文ノ圖面ニハ府縣郡市町村大小字坪數及區別ヲ記入シ鐵業人ヲシテ記名調印セシムヘシ

● 同指令

● 鐵山借區稅取扱ノ件ニ付問合回答 明治二十二年四月二日(電報)
兵庫縣稅收局長問合

鐵山借區稅ハ稅收部ニ於テ取扱フヘキ儀ナルヤ
大藏省主稅局回答 明治二十二年四月十二日

稅收部ニテ取扱フヘキモノニアラス

● 鐵山借區稅徵收手續ノ件同指令 明治二十二年四月二十七日
福島縣同

本年四月農商務省訓令第二十三號ヲ以テ二十二年度以降鐵山借區稅徵收方ハ徵稅令書ヲ以テシ其他ハ總テ從前ノ第
二部歲入取扱順序ニ據リ整理スヘキ旨訓令相成候ニ付其取扱方同省會計局長(及照會候處從前ノ通リ會計主務官ニ
於テ取扱可然旨回答有之候得共其徵稅令書ノ儀ハ法律第九號國稅徵收法中ノ書式ナルヲ以テ納稅人ニ對シテハ郡長
ニ於テ徵稅令書ヲ發シ納稅人ハ其令書ト納印トヲ金庫ヘ拂込其別符附領收證書ヲ得之ヲ收入官吏ニ差出ス等ノ手續
ニシテ會計主務官ニ於テ可取扱モノニ無之候ト存候得共會計局同答ノ通リ會計主務官ニ於テ可取扱モノニ有之候ハ

其徵收手續ハ國稅徵收法ニ依ラスシテ單ニ徵稅令書ノミ同官記名ヲ以テ發付シ納人ハ該令書下納額トヲ金庫ニ持
參シ金庫ニ於テハ徵稅令書ヲ止メ領收證書ノ内半片ハ納人ニ下付シ殘ル半片ハ納先廳ヘ送付スルノ手續ニ可有之
歟

農商務省指令 明治二十二年五月二十八日(大藏省連帶)

- 一 徵稅令書ハ國稅徵收法施行細則第三號樣式ニ據リ發スヘシ
- 一 收入官吏ノ職務ニ關スル取項ハ會計主務官ヲシテ取扱ハシムヘシ
但便宜郡役所ニ委任スルコトヲ得
- 一 計算書報告書ノ樣式ハ總テ從前ノ第三部樣式ノ例ニ據リ調成スヘシ

●隣借區人連署ノ件ニ付伺指令 明治二十二年六月十七日
靜岡縣伺

借區開坑出願ノ節ハ明治十六年十一月工部省第四號達納圖面雖形ニ據リ隣借區人ノ連署ヲ要スル儀ニ有之處右隣
借區トハ村字名ヲ問ハス距離ノ遠近ヲ以テ連署ノ制限ヲ立ル儀ニ有之乎果シテ然ラハ幾間以内トシ可然ヤ該納圖
面ニ據ルトキハ同村同字ハ遠近ヲ問ハス連署ノ同村他字他村ハ其儀ニ不及據被存疑發ヲ生シタルニ付何分ノ指揮有
之度

農商務省指令 明治二十二年十月一日

●鐵山試掘出願ノ件ニ付伺指令 明治二十二年九月三十日
佐賀縣伺

鐵山試掘出願ノ者隣借區人調印ノ儀ハ未タ進據スヘキ一定ノ成規無之右ハ借區開坑同樣圖面ハ隣借區人ノ連署ヲ
要スル儀ニ有之ヤ將タ試掘ノ儀ハ期限モ續ニ一箇年ニ有之借區ヲ出願スル場合ニ至リテハ更ニ成規ニ依ラシムヘキ
ハ勿論ノコトニテ其面積坪數等モ亦多少變更アルヲ免レス就テハ試掘面積ノ如キハ假ニ其區域ヲ定ムルモノニ付キ
地主ニ於テ承諾セシ以上ハ隣借區主ノ調印ヲ要セス出願致サセ可然ヤ

農商務省指令 明治二十二年十月二十二日(電報)
試掘出願ハ借區出願同條ノ儀ト心得ヘシ

第百九十一 蹄鐵工免許規則 明治二十三年四月五日公布

法律第三十一號

朕蹄鐵工免許規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年四月三日

內閣總理大臣 伯耆山縣有朋
農商務大臣 岩村通俊

法律第三十一號

蹄鐵工免許規則

第一條 蹄鐵工ハ農商務大臣ヨリ蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ニ限ル

蹄鐵工トハ他人ノ依頼ニ應シ蹄鐵ヲ裝シ又ハ蹄ヲ剪ルヲ以テ其ノ業ト爲ス者ヲ謂フ

第二條 蹄鐵工免狀ヲ受クルコトヲ得ル者左ノ如シ

- 一 蹄鐵工免許試驗ニ合格シ其及第證書ヲ有スル者
- 一 官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校又ハ陸軍部内ニ於テ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ
其ノ卒業證書ヲ有スル者
- 一 公立又ハ私立學校ニ於テ農商務大臣ノ認可シタル學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專

二十三年農商
務省令第十八
號(第百八十
三ノ四項)參
看

修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 外國ニ於テ官立府縣立ノ農學校若クハ獸醫學校ト同等以上ノ學則ニ依リ獸醫學又ハ蹄鐵學ヲ專修シ其ノ卒業證書ヲ有スル者

一 獸醫開業免狀ヲ有スル者但獸醫假開業免狀ヲ有スル者ヲ除ク

第三條 第二條ノ資格ヲ有スル者ニシテ蹄鐵工免狀ヲ受ケント欲スルトキハ試驗及第證書又ハ卒業證書若クハ獸醫開業免狀ノ寫ヲ添ヘ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第四條 蹄鐵工免狀ヲ受ケタル者ノ氏名本籍ハ農商務省ノ蹄鐵工籍ニ登錄シ之ヲ公告スヘシ

第五條 蹄鐵工廢業シタルトキハ本人ヨリ死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ親戚ヨリ三十日以内ニ地方廳ヲ經由シテ其ノ免狀ヲ農商務省ニ返納スヘシ

第六條 蹄鐵工免狀ヲ受クル者ハ其ノ免狀下付ノトキ手数料トシテ金壹圓ヲ納ムヘシ

第七條 蹄鐵工免狀ヲ毀損亡失シ若クハ氏名本籍ヲ變換シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ地方廳ヲ經由シテ免狀ノ書換ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

書換ノ免狀ヲ受クル者ハ免狀下付ノトキ手数料トシテ金五拾錢ヲ納ムヘシ

第八條 蹄鐵工ハ正當ノ事由ナクシテ其ノ業ニ關シ他人ノ依頼ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條 免狀ヲ受ケスシテ蹄鐵工ノ業ヲ爲シタル者ハ二圓以上二十五圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 第八條ヲ犯シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第十一條 蹄鐵工免許試驗規則ハ農商務大臣之ヲ定ム

附則

第十二條 蹄鐵工ニ乏シキ地ニ於テハ當分ノ内北海道廳長官府縣知事ノ具狀ニ依リ農商務大臣ハ第二條ノ資格ナキ者ト雖モ出願者ノ履歷ニ依リ營業區域及年限ヲ定メ蹄鐵工假免狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條 第十二條ニ依リ蹄鐵工假免狀ヲ受ケタル者ニモ亦此ノ規則ヲ適用ス

第十四條 此ノ規則施行以前免許ヲ受ケタル獸醫ニシテ蹄鐵工ヲ兼セント欲スル者ハ第三條ニ依リ蹄鐵工免狀ノ下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ其ノ免狀ヲ受クル者ハ第六條ノ手数料ヲ要セス

第十五條 此ノ規則ハ明治二十三年十月一日ヨリ施行ス

〔一〕蹄鐵工免許試驗規則 明治二十三年七月十九日 農商務省令第六號

蹄鐵工免許試驗規則ヲ定ムルコト左ノ如シ

蹄鐵工免許試驗規則

第一條 蹄鐵工免許試驗ハ蹄鐵ノ學術ニ就キ筆記口述及實地ヲ以テ之ヲ行フ

第二條 試驗ハ毎年二回之ヲ行ヒ其ノ場所及期日ハ六月十二月告示スヘシ

第三條 農商務大臣ハ試驗主事及委員ヲ選定シテ試驗ヲ行ハシム

第四條 試驗ヲ受ケント欲スル者ハ住所族籍生年月及受験ノ地名ヲ願書ニ記載シ一月若クハ七月中其居住ノ地方廳ヲ經由シテ農商務大臣ニ提出スヘシ

第五條 受験者ハ試験期日三日尙交驗地ノ宿處ヲ其地方廳ニ届出ヘシ

第六條 試験及第者ニハ試験主事ヨリ及第證書ヲ附與スヘシ

第七條 不正ノ方法ヲ以テ及第シタルトキハ及第ノ効ナキモノトス

〔二〕蹄鐵工免狀規則第二條ニ依リ學則認可請求方 第四百八十三ノ

〔三〕蹄鐵工假免狀下付出願手續 明治二十三年七月十九日 農商務省訓令第三十八號北海道府廳

明治二十三年四月法律第三十一號蹄鐵工免狀規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ左ノ手續ニ依リ取扱フヘシ

蹄鐵工假免狀手續

第一條 蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ蹄鐵工之シキ地ニ限リ左ノ事項ヲ取調本人ノ願書及履歷書ヲ添ヘ具狀スヘシ

一 區域、廢棄地勢及馬匹頭數

一 營業年限

第二條 假免狀下付ノ出願ニ係ル細則ハ北海道廳長官府廳知事之ヲ定ムヘシ

〔四〕蹄鐵工免狀同假免狀下付願書及免狀試驗願書副本ニ及ハス 明治二十三年九月十九日 農商務省訓令第五十二號北海道府廳

蹄鐵工免狀同假免狀下付願書及免狀試驗願書ハ副本提出スニ及ハス

○第十五類

○第一章 郵便 電信 電話

〔第九十二〕郵便條例中改正 明治二十二年八月八日公布 法律第二十一號

朕郵便條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月七日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆 遞信大臣伯爵後藤象二郎

法律第二十一號

郵便條例中左ノ通改正シ明治二十二年十月一日ヨリ施行ス

第一條中

四 書籍、帳簿、各種ノ印刷物、寫真、書畫、縮圖、野紙、營業品ノ見本及雛形、農産物種子

第十四條 營業品ノ見本及雛形ハ一箇ノ重量百匁ニ超過スヘカラス

第十七條中

第三種郵便物

一號一箇重量十六匁毎ニ 十六匁未滿亦同シ

五匁

第四種郵便物

重量三十匁毎ニ 三十匁未滿亦同シ

一錢

〔二〕小包郵便外國輸出品關稅免除 明治二十三年九月十三日公布 法律第八十二號

朕小包郵便ヲ以テ外國へ輸出スル物品關稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十三年九月十二日

內閣總理大臣伯耆山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義
逓信大臣伯爵後藤象二郎

法律第八十二號

小包郵便ヲ以テ外國へ輸出スル物品ハ總テ關稅ヲ免除ス

(二)外國通航ノ郵船下ノ關福江ニ廻船 明治二十三年十月二十三日公布
勅令第二百六十二號

朕外國通航ノ郵船ヲ下ノ關福江兩港ニ廻船スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月二十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第二百六十二號

大藏大臣ハ郵便物、内地廻漕品及旅客運送ノ爲メ外國通航ノ郵船ヲ長門國下ノ關肥前國福江ノ兩港ニ廻船スルノ特許ヲ與ルコトヲ得

(三)地方逓信官官制ヲ廢シ郵便及電信局官制制定ニ付郵便電信條例中心得方 明治二十二年七月二十日
逓信省告示第百四十六號

今般地方逓信官々制ヲ廢シ郵便及電信局官制制定相成候ニ付テハ郵便條例第三十六條ノ逓信管理局ハ一等郵便電信局一

等郵便局第三十二條第百六十條ノ逓信管理局長ハ一等郵便電信局長一等郵便局長電信條例第二十五條ノ逓信管理局ハ一等郵便電信局一等電信局ト心得ヘシ

(四) 濫種郵便物取扱方 明治二十三年三月十三日
逓信省告示第四十九號

郵便條例第十六條ニ依リ郵便局ノ承認ヲ經テ郵便ニ差出シ得ヘキ濫種ヲ箱其他相當ノ器物ニ納メ閉緘スルモ其閉緘前ニ現品ヲ郵便電信局郵便受取所取扱者ニ明示シ其目前ニ於テ之ヲ閉緘シ差出スモノハ第一種郵便物トナサズ第四種郵便物ト認メ取扱フヘシ

(五) 郵便切手賣下人心得改定 明治二十三年三月十三日
逓信省告示第五十號

明治二十一年三月告示第二十六號郵便切手賣下人心得來四月一日ヨリ左ノ通改定施行ス

郵便切手賣下人心得

第一條 郵便切手賣下人ハ其免許ヲ受ケ免許證札賣下所掛札及此心得書ヲ受取リタルトキハ請書第一號ヲ一等又ハ二等郵便電信局郵便局三等郵便電信局郵便局區內ハ同局ヲ經テニ差出スヘシ

第二條 郵便切手賣下人ハ郵便切手郵便封皮郵便袋郵便封筒以下之ヲ需用者ニ賣捌クモノトス

第三條 郵便切手賣下所ハ其免許ヲ受ケタル場所ニ限ルヘシ出張所ヲ設ケ之ヲ賣捌キ又ハ行商ヲ爲スヲ得ス

第四條 郵便切手賣下所ハ衆人ノ見認メ易キ場所ニ一等又ハ二等郵便電信局郵便局ヨリ下渡シタル切手賣下所ノ掛札ヲ掲出スヘシ

第五條 郵便切手賣捌方ハ簡便ニシテ可成速ニ需用者ノ請求ニ應スヘシ其賣捌時刻ハ少クトモ三月乃至十月八午前五時ヨリ午後十時迄十一月乃至翌年三月八午前六時ヨリ午後十時マテハ之ヲ附絶スルヲ得ス

第六條 郵便切手ハ豫メ日々ノ賣捌高ヲ見積リ缺乏ヲ來タサ、ル様當ニ相當ノ日數及種類ヲ備置クヘシ

第七條 郵便切手ハ其額面ノ金高ヨリ高價又ハ低價ヲ以テ賣捌クヘカラス又些少タリトモ毀損汚斑アルカ又ハ謄謄糊稀薄其他切手ノ効用ヲ缺クヘキ慮アルモノハ賣捌クヘカラス

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

第八條 買受ケタル郵便切手汚損毀損アルカ又ハ醜態糊糊薄其他切手ノ効用ヲ缺クヘキ思アルモノハ引換ヲ請求スヘシ
 第九條 賣捌ヲナス郵便切手ハ所轄郵便電信局郵便局ヨリ買受クヘシ
 第十條 一二等郵便電信局郵便局郵便切手賣下所ハ何區内郵便受取所ト共ニ申合セ切手類買受組合ヲ設ケ總代ヲ立
 テ各所需用ノ切手類ハ其總代ヲシテ買受ヲサシムヘシ
 前項組合ハ東京ハ百箇所以上大阪ハ五十箇所以上其他ハ二十五箇所以上ヲ以テ一組合トシ五十箇所ニ滿タサルモノハ
 總テ一組合トスヘシ

但郵便區市内郵便切手賣下所及郵便受取所三箇所ニ滿タサルモノ及郵便區市外ニアル郵便切手賣下所及郵便受取所
 ハ便宜組合ヲ設ケサルモ妨ケナシ

三等郵便電信局郵便局郵便切手賣下所及郵便受取所多數アリテ三等郵便電信局郵便局ノ事務上其組合ヲ必要ト認
 ムルトキハ總信大臣ハ特ニ命シテ組合ヲ設ケ一二等郵便電信局郵便局内ノ例ニ依ラシムルコトアルヘシ

第十一條 郵便切手賣下所及郵便受取所ニ於テ組合ヲ設ケ總代ヲ立テタルトキ及之ヲ變更シタルトキハ連署シ其旨所轄
 郵便電信局郵便局ニ届出ヘシ

第十二條 郵便切手類買受度數ハ一二等郵便電信局區内ニアリテ組合ヲ設ケ總代ヲ立タルモノハ毎日一回組合ヲ設ケサ
 ルモノハ一月一回若クハ二回ヲ越ユルヲ得ス

第十三條 切手類買受ノ手續ハ郵便切手賣下所及郵便受取所ニ於テ組合ヲ設ケ總代ヲ立テタルモノハ各自切手類ノ需用
 アル毎ニ其種類買取ヲ書シ記名捺印シタル需用証ヲ其總代ニ交付シ買受ヲ求ムヘシ總代者ハ其需用高ヲ取纏メ第二號
 書式ノ切手類買取請求書及第三號書式ノ切手類賣下手数料請求書ヲ作り代金ト共ニ所轄郵便電信局郵便局ニ差出し切
 手類及賣下手数料ヲ受取ルヘシ

但總代タル郵便切手賣下所又ハ郵便受取所ニ於テ其賣下見積高ノ外豫メ餘分ノ切手類ヲ買受ケ組合各所臨時至急ノ
 需用者ニ立替交付スルモ妨ケナシ

組合ヲ設ケサルモノハ免許證札ヲ持參シ第二號書式切手類買取請求書及第三號書式ノ切手類賣下手数料請求書ヲ代金
 ト共ニ差出し切手類及賣下手数料ヲ受取ルヘシ

三等郵便電信局郵便局ニ於テ切手類買取ニ差支フルトキハ買取請求書ニ其局ノ印ヲ受ケ他ノ三等郵便電信局郵便局
 ヨリ買取クヘシ此場合ニ於テハ前項免許證札持參ニ及ハス

第十四條 郵便切手賣下手数料ハ其賣下切手高百分ノ五トス

郵便切手賣下手数料ハ郵便局ヨリ郵便切手賣下ノ都度現金ヲ以テ下渡スヘシ

但三等郵便電信局郵便局ニ於テハ其局ノ便宜ニヨリ郵便切手ヲ以テ下渡スコトアルヘシ

第十五條 郵便切手賣下所及郵便受取所ト其總代トノ間ニ係ル切手類代金賣下手数料金及切手類ノ受取手續並ニ組合
 ニ關シ要スル費用ノ支辨方等ハ各自ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムルモノトス

第十六條 切手賣下免許證札切手賣下所掛札及切手賣下人心得書ハ常ニ保存スヘシ若シ水火盜難等ニ罹リ紛失又ハ毀損
 シタルトキハ一等又ハ二等郵便電信局郵便局三等郵便電信局郵便局ニ届出更ニ其代品ノ下渡ヲ受クヘシ

但毀損ノモノハ所轄郵便電信局郵便局ニ送納スヘシ其代品ノ下渡ヲ受ケタルトキハ請書第四號ヲ同局ニ差出スヘシ
 第十七條 賣下人轉任改姓名ヲナシタルトキ又ハ賣下所ヲ移轉セントスルトキハ一等又ハ二等郵便電信局郵便局三等郵
 局郵便局區内ニ届出免許證札ノ書換ヲ受クヘシ其書換證札ノ下渡ヲ受ケタルトキハ請書第五號ヲ一等又ハ二等郵便電
 信局郵便局三等郵便電信局郵便局ニ差出スヘシ

但賣下所ヲ移轉セントスルトキ其移轉地他ノ一等郵便電信局郵便局區區ニ屬スルトキハ一旦廢業ノ上其移轉地ニ
 於テ更ニ免許ヲ受クヘシ

第十八條 賣下人自ラ廢業スルカ一等又ハ二等郵便電信局郵便局ヨリ廢業ヲ命セラレタルトキハ免許證札及心得書ヲ所
 轄郵便電信局郵便局ニ送納スヘシ

但賣下人自ラ廢業ノトキハ届書ヲ一等又ハ二等郵便電信局郵便局(三等郵便電信局郵便局)ニ差出スヘシ

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

第十九條 賣下人死亡又ハ逃亡スルカ或ハ廢業スルモ自ラ届出ヲナスコト能ハサルトキハ其家族又ハ親族ニ於テ前條ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 賣下人廢業ノ時賣殘ノ切手買戻ヲ請求スルトキハ其原價ノ内ヨリ賣下手数料ヲ扣除シタル金額ヲ以テ買戻スヘシ

(第一號書式)

御請書

一郵便切手賣下免許證札

一郵便切手賣下所掛札

一郵便切手賣下人心得

右ハ今般郵便切手賣下御免許ノ上御下渡相成正ニ奉交取候也

道府縣國郡區市町村番地

郵便切手賣下人

何 誰印

年月日

何郵便電信局(郵便局)

御中

(第二號書式)

郵便切手買戻請求書

一郵便切手何錢形何枚

此代金何圓

一郵便切手何錢形何枚

- 此代金何圓
- 一郵便葉書何枚
- 此代金何圓
- 一郵便往復葉書何枚
- 此代金何圓
- 一長形郵便封皮何錢何枚
- 此代金何圓
- 一角形郵便封皮何錢何枚
- 此代金何圓
- 合計金何圓

右買受仕度此段請求候也

道府縣國郡區市町村番地

郵便切手賣下人
郵便買取所取扱人

何 誰印

年月日

何郵便電信局(郵便局)

御中

(第三號書式)

切手類賣下手数料請求書

一金何圓

切手類賣下手数料

但何年何月買下切手類代金何圓ニ對スル百分ノ五

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

右請求候也

年月日

何郵便電信局(郵便局)

御中

(第四號書式)

御請書

一郵便切手費下免許證札

一郵便切手費下所掛札

一郵便切手費下人心得

但流失(又ハ燒失紛失毀損若クハ盜難)ニ付更ニ御下渡ノ分

右正ニ奉受取候也

六百十四

道府縣國郡區市町村番地

郵便切手費下人
郵便受取所取扱人

何 誰印

道府縣國郡區市町村番地

郵便切手費下人

何 誰印

何郵便電信局(郵便局)

御中

(第五號書式)

御請書

年月日

一郵便切手費下免許證札
右ハ轉任(又ハ改姓名若クハ賣下所移轉)ニ付書換御下渡相成正ニ奉受取候也

道府縣國郡區市町村番地

郵便切手費下人

何 誰印

何郵便電信局(郵便局)

御中

〔六〕第三種郵便物遞信省認可ノ文字表出方 明治二十三年四月二十二日 遞信省告示第七十九號

第三種郵便物ヲ差出す者ハ郵便局ニ於テ其檢査ヲ容易ナラシメシカ爲メ本紙ニ印刷シタル「遞信省認可」ノ文字ハ卷封又ハ包裏スルモ外部ニ表出スル様注意スヘシ

〔七〕第三種郵便物遞信省認可願出方 明治二十二年四月二十四日 遞信省告示第九十七號

第三種郵便物遞送認可願書ハ副本ヲ要セズ

〔八〕郵便爲替料納付方 明治二十三年三月八日 遞信省告示第四十一號

内外郵便爲替電信爲替及内地ノ清國上海間ニ施ノ爲替料ハ來ル四月一日ヨリ郵便切手ヲ以テ納ムヘシ其切手ハ左ノ區別ニ從ヒ爲替願書小爲替證書原符及再度爲替證書請求書等ニ貼附スヘシ

一内國通常爲替電信爲替願書小爲替證書原符再度爲替證書請求書ハ各其裏面

一外國爲替願書ハ裏面本邦文字印 空白ノ位置

〔九〕郵便爲替細則中改正 明治二十三年三月八日 遞信省告示第四十三號

明治十八年農商務省告示第二十號郵便爲替細則中左ノ通改正來ル四月一日ヨリ施行ス

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

六百十五

第五條及第二十三條ノ但書ヲ删除シ並ニ第五條第二項中「其爲替料及」ノ五字ヲ删除ス

六百十六

第百九十三 郵便貯金條例 明治二十三年八月十三日

法律第六十三號

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

ヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月十二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

遞信大臣伯爵後藤象二郎

法律第六十三號

郵便貯金條例

第一條 郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ證トス

第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾

圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條 郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セス

郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公債證書ハ額面五拾圓又ハ五拾圓ヲ遞加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得

郵便貯金預ケ人貯金全額ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求スヘシ

第八條 郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以內ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セシテ拂戻ヲ爲サシム

第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シ其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併

テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除クノ外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其實ヲ免カルモノトス

第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便税ヲ免除ス

第十六條 郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印税ヲ免除ス

第十七條 本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第五百十七條乃至第二百二條及第二百四十二條

第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

〔一〕郵便貯金利息割合 明治二十三年十一月二十七日公布 勅令第二百七十八號

朕郵便貯金利息割合ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十一月二十六日

逓信大臣伯耆後藤象二郎

勅令第二百七十八號

郵便貯金ノ利息ハ來明治二十四年一月ヨリ一箇年元金百分ノ四分貳厘ト定ム
但本年十二月三十一日以前ノ貯金ニシテ一人ノ預ケ金額千圓ヲ超過シタルモノハ一箇年元金百分ノ三分トス

〔二〕郵便貯金條例施行細則 明治二十三年十一月二十六日 逓信省令第二百三十三號

郵便貯金條例施行細則左ノ通相定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

郵便貯金條例施行細則

第一款 貯金預入

第一條 郵便貯金ノ預入ヲ爲サントスル者ハ貯金ヲ取扱フ郵便電信局郵便局又ハ郵便貯金預所ニ到リ貯金預入申込書用紙ヲ申交ケ式ノ如ク記入シ記名調印ノ上之ヲ其局所ニ差出シ通帳ヲ受領スヘシ

第二條 貯金預ケ人通帳ヲ受領シタルトキハ其通帳ニ氏名住所居所身分職業ヲ記入シ且其印鑑ノ部ニ捺印ノ上預ケ金ヲ添ヘテ局所ノ主務者ニ差出シ預ケ金ノ記入ヲ受ケ之ヲ所持スヘシ

第三條 貯金預ケ人再度以後ノ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ既ニ所持セル通帳ニ預ケ金ヲ添ヘテ貯金取扱局所ニ差出シ

其記入ヲ受クヘシ

第四條 貯金取扱局所ノ主務者預ケ金及通帳ヲ受領シタルトキハ通帳ニ其金額及預年月日ヲ記載シ記名調印ノ上日附印ヲ押捺シテ預ケ金ノ領收ヲ證シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第五條 貯金預ケ人利息記入等ノ爲メ通帳ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ差出中預ケ金ヲナサントスルトキハ貯金取扱局所ニ通帳受取證書ヲ示シ自己ノ氏名ヲ陳述シ預ケ金ヲ差出其假領收證書ヲ領置スヘシ

前項ノ預ケ人通帳ノ返戻ヲ受ケタルトキハ之ニ假領收證書ヲ添ヘテ其預ケ金ヲ爲シタル局所ニ差出シ其預ケ金ノ轉記ヲ受クヘシ

貯金取扱局所ノ主務者前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ假領收證書ヲ引揚ケ第四條ノ手續ニ準シ其預ケ金ヲ通帳ニ轉記シ之ヲ預ケ人ニ交付スルモノトス

第六條 貯金預ケ人預ケ金記入済ノ通帳ヲ受領シタルトキハ其場ニ於テ通帳記入ノ金額其他ニ相違遺漏等ナキヤヲ點檢シ若シ之アルトキハ直ニ訂正ヲ求ムヘシ

第七條 貯金ノ預入アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其原簿ニ登記シ貯金登記簿通知書ヲ預ケ人ニ送達スルモノトス

貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル日ヨリ三十日(國慶又ハ交通不便ノ地ハ相當ノ時日ヲ加フ)以内ニ貯金登記簿通知書到達セサルトキハ其期日ノ翌日ヨリ又通知書到達セルモ其記載ノ金額年月日等相違アルトキハ到達ノ翌日ヨリ十日以内ニ其事故ヲ郵便爲替貯金局長ニ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲シタル貯金預ケ人本條ノ申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第八條 貯金預ケ人ハ一ノ貯金取扱局所ニ於テ受領シタル通帳ヲ以テ他ノ貯金取扱局所ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第九條 印形ヲ所持セサル者預ケ金ヲ爲サントスルトキハ引受人一名ヲ定ムヘシ
町村學校病院社會社(組合)等ニ於テ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ擔當人一名ヲ定ムヘシ

二人以上共同シテ預ケ金ヲ爲サントスルトキハ總代人一名ヲ定ムヘシ但共同者中ノ一名ヲ加印者ト爲スコトヲ得
第十條 町村學校病院社寺會社組合及共同ノ貯金ハ其町村學校病院社寺會社組合若クハ總代人ヲ以テ一個ノ預ケ
人ト見做スヘシ

第十一條 印形ヲ所持セサル者ノ貯金ニ關シ調印ヲ要スル書類ニハ本人記名シ尙引受人記名調印スヘシ
町村學校病院社寺會社組合等ノ貯金ニハ町村學校病院社寺會社組合等ノ名稱ヲ記シ其印ヲ捺シ尙擔當人記名調
印スヘシ

共同者ノ貯金ニハ總代人記名調印シ加印者アルトキハ尙加印者連署スヘシ

第十二條 郵便爲替貯金局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通報ヲ受領シタル貯金預ケ人郵便爲替貯金分局受持區内ニ移
轉シ又ハ同分局受持區内ノ貯金取扱局所ニ於テ通報ヲ受領シタル預ケ人郵便爲替貯金局若クハ他ノ分局受持區内ニ移
轉シタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ所持ノ通報ヲ差出シ其引換ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ場合ニ於テ通報
ノ引換及交付ノ手續ハ第五款ノ各條ニ準據スルモノトス

第二款 貯金拂戻

第十三條 貯金預ケ人ハ何レノ貯金取扱局所ニ於テモ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得但郵便貯金預所ニ於テハ拂戻金ノ
拂渡ヲ取扱ハス

第十四條 貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ要スルトキハ貯金取扱局所ニ設ケアル拂戻請求書用紙ヲ申交ケ之ニ金額及拂戻金ヲ
受取ラント欲スル局名其他式ノ如ク記入シ記名調印ノ上通報ヲ添ヘ之ヲ其局所ニ差出シ通報受取證書ヲ受領スヘシ
第十五條 貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ其請求書到達ノ日ヨリ五日以内ニ拂戻證書
ヲ調製シ之ヲ請求人ノ居所ニ發送スヘシ

若シ相當ノ期限内ニ拂戻證書到達セサルカ又ハ到達セルモ金額其他ニ相違アルトキハ拂戻請求人ニ於テ郵便爲替貯金
局長ニ宛テ其事故ヲ申告スヘシ但郵便爲替貯金分局受持區内ノ貯金取扱局所ヨリ通報ヲ受領シタル貯金預ケ人本條ノ

申告書ヲ差出ストキハ同分局長ヲ經由スヘシ

第十六條 貯金拂戻請求人拂戻書ヲ受領シタルトキハ其證書ニ記名調印シ通報受取證書ト共ニ之ヲ拂渡局ニ差出シ拂戻
金ヲ受領シ且通報ノ返戻ヲ受ケヘシ但貯金全額拂戻通報ハ返付セサルモノトス

第十七條 代人ヲ以テ拂戻金ヲ受取ラントスル者ハ拂戻證書ノ裏面ニ委任ノ證明ヲ爲スカ又ハ拂戻證書ニ代人届書ヲ添
ヘテ之ヲ拂渡局ニ差出サシメ其代人ハ其拂戻證書ニ代人ノ肩書ヲ爲シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十八條 貯金預ケ人預ケ金ヲ爲シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其局所ニ預入ヲ爲シタル預ケ金高ノ内
金十圓迄又再度通報ヲ所持スル者其再度通報ヲ受領シタル局所ニ貯金拂戻ヲ請求スル場合ニ於テハ其繰越金高ノ内金
十圓迄ヲ限リ即時拂戻取扱ヲ請求スルコトヲ得但本條ノ請求ヲ爲ストキハ一回以上ノ預ケ金ヲ殘シ置クヘキモノト
ス

前項即時拂戻請求ハ一箇月一回ヲ超ルコトヲ得ス

第十九條 貯金即時拂戻請求ヲ受ケタル局所ニ於テ其請求人ノ正當預ケ人タルコトヲ調査シ能ハサル場合ニ於テハ其請
求ヲ拒ムコトアルヘシ

第二十條 即時拂戻要スル貯金ノ拂戻證書ハ其拂渡局ニ於テ之ヲ調製シ其請求人ノ居所ニ送達スルモノトス

第二十一條 郵便爲替貯金局及同分局所在地ノ貯金取扱局所ニ於テハ貯金即時拂戻取扱ヲ爲サハルモノトス

第三款 貯金預ケ人異動

第二十二條 貯金預ケ人氏名住所居所印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但改
印ニ係ル届書ニハ其印鑑ヲ添フヘシ

引受人擔當人加印者アル預ケ人前項ノ變更ヲ生シ又ハ其引受人、擔當人、加印者ニ異動ヲ生シ若クハ此等ノ氏名住所
居所印形ニ變更ヲ生シタルトキハ其引受人擔當人、加印者連署ヲ以テ前項同様届出ヘシ但引受人擔當人、加印者ノ變
更ノ場合ニ於テハ前任者モ亦届書ニ連署スヘシ若シ連署シ能ハサルトキハ証人ヲ立テ其實ヲ證明スヘシ

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

第二十三條 共同者ニ於テ總代人ノ變更ヲ要スルトキハ前任後任ノ總代人及加印者連署ヲ以テ後任總代人ノ印鑑ヲ添ヘ其旨ヲ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ届出ヘシ但前任者連署シ能ハサルトキハ證人ヲ立テ其實ヲ證明スヘシ
第二十四條 貯金預ケ人第二十二條及第二十三條ノ届書ヲ差出シタルトキハ同時ニ通報ノ氏名、住所、居所、印鑑等ノ諸項ニ就キテ其變更ノ願ヲ訂正スヘシ

第四款 貯金通帳利子記入

第二十五條 貯金預ケ人利子記入ノ爲メ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ通報ヲ差出ストキハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ
郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ通報利子記入ノ手續ヲ了リタルトキハ通報差出人ニ其通報書ヲ送達シ通報ハ其經由局所ニ返付スヘシ
通報差出人前項ノ通報書ヲ受ケタルトキハ發シ領置セル通報受取證書ヲ經由局所ニ返納シ利子記入済通報ヲ受領スヘシ

第二十六條 貯金通報差出人利子記入済通報ヲ前條ノ經由局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ通報ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第五款 貯金再度通報

第二十七條 貯金預ケ人所持ノ通報除白ナキニ至リタルトキ又ハ毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキハ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ其通報ヲ差出シ再度通報ノ交付ヲ請求スヘシ但請求書及通報ハ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ

通報亡失ノ爲メ再度通報ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ證人ヲ立テ其實ヲ證明シ前項ノ手續ヲ爲スヘシ但再度通報ノ交付ヲ請求シタル後前ノ通報ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ
第二十八條 郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ再度通報交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通報發行通知書ヲ請求書經由ノ局所ニ送達シ其告知書ヲ請求人ニ送達スルモノトス

第二十九條 貯金再度通報ヲ請求シタル者前條ノ告知ヲ受ケタルトキハ該告知書及通報受取證書ヲ請求書經由ノ局所ニ差出シ新規通報ノ交付ヲ受クヘシ但請求人新規通報ヲ請求書經由ノ局所外ニ於テ受取ラント欲スルトキハ初メ請求書ヲ差出ストキ其局所ヲ指定シテ申出ヘシ

第三十條 貯金再度通報發行通知書ヲ受ケタル局所ハ請求人ノ求メニ從ヒ該通知書ニ依リ再度通報ヲ調製シ前條ノ告知書及通報受取證書ト引換ヘ之ヲ其請求人ニ交付スルモノトス

第三十一條 貯金通報毀損汚斑又ハ亡失ノ爲メ再度通報ヲ交付スル場合ニ於テハ通報一冊ニ付手数料金十錢ヲ徴收スヘシ

手数料ハ再度通報請求書ニ郵便切手ヲ貼附シテ前納スヘシ

第六款 貯金相續

第三十二條 貯金預ケ人其家督相續人ニ貯金ヲ譲與セントスルトキハ預ケ人相續人連署ノ書面ヲ以テ通報並相續人ノ印鑑ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ名前書換ヲ請求スヘシ

第三十三條 貯金預ケ人死亡シタルトキハ其家督相續人ニ於テ相續人タルコトヲ證明セル書面ヲ以テ通報ヲ添ヘ貯金取扱局所ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ貯金ノ拂戻ヲ請求スルカ又ハ名前書換ヲ請求スヘシ但名前書換ヲ請求スルトキハ同時ニ相續人ノ印鑑ヲ差出スヘシ

第三十四條 第三十二條及第三十三條ノ名前書換ヲ要スル場合ニ於テ相續人既ニ自己ノ貯金通報ヲ所持セルトキハ其ニ其通報ヲ差出シ其相續シタル貯金ノ郵便ヲ請求スヘシ

第三十五條 前三條ノ場合ニ於テ通報ヲ貯金取扱局所ニ差出シタルトキハ通報受取證書ヲ領置スヘシ

第三十六條 家督相續人ナキ貯金預ケ人死亡シタルトキハ其貯金ヲ相續シタル者ニ於テ證人ヲ立テ其實ヲ證明シ第三十三條ノ手續ニ由リ貯金ノ拂戻ヲ請求スヘシ

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

- 第三十七條 郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ於テ貯金ノ贖取又ハ相續ニ關スル請求書ヲ受ケタルトキハ正當相續人タルコトヲ認ムル爲メ其請求人ヲシテ市町村長又ハ區長ノ與書證明ヲ要メシメ若クハ其他ノ證明ヲ爲サシムルコトアルヘシ
- 第七款 貯金拂戻證書ノ亡失、毀損汚損
- 第三十八條 貯金拂戻證書毀損汚損シテ不判明トナリタルトキハ拂戻請求人ニ於テ貯金拂渡局ヲ經テ郵便爲替貯金局又ハ同分局ニ證書ヲ差出シ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スヘシ
- 第三十九條 貯金拂戻證書亡失ノ爲メ貯金拂渡認可證書ノ交付ヲ請求スル場合ニ於テハ拂戻請求人ニ於テ証人ヲ立テ其實ヲ證明シ前條ノ手續ヲ爲スヘシ但拂渡認可證書ヲ請求シタル後前ノ證書ヲ發見シタルトキハ之ヲ返納スヘシ
- 第八款 公債證書ノ購入、保管、下渡
- 第四十條 貯金ヲ以テ購入スヘキ公債證書ハ整理公債證書トシ總テ無記名トス
- 第四十一條 公債證書ハ時價ニ依リ購入スルモノトス
時價トハ東京ニ於ケル購入當日ノ賣買價格ニ購入口錢ヲ加ヘタルモノトス
- 第四十二條 公債證書ノ購入ヲ爲ストキハ左ノ手数料ヲ徴收スヘシ
公債證書金額五十圓マテ 金二十錢
同 百圓マテ 金三十錢
以上五十圓ヲ加フル毎ニ金十錢ヲ加フ
- 第四十三條 公債證書ノ購入ヲ請求スル者ハ其請求書ニ通帳ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ通帳受取證書ヲ領置スヘシ
- 第四十四條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書購入請求書ヲ領收シタルトキハ其到達ノ日ヨリ七日以内ニ公債證書ヲ購入スルモノトス
- 第四十五條 公債證書購入ノ代金及手数料ハ郵便爲替貯金局ニ於テ請求人ノ貯金ヨリ拂出し且其金額ヲ通帳ニ記入スヘシ

- 第四十六條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書ヲ購入シタルトキハ之ヲ公債證書保管原簿ニ登記シ其保管證書及通帳ヲ請求書經由ノ局所ヲ經テ請求人ニ交付スヘシ
- 保管證書ニハ公債證書ノ記號番號金額購入代價及購入年月日ヲ記載スルモノトス
- 第四十七條 保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ郵便爲替貯金局ニ於テ之ヲ受取リ其預ケ人ノ貯金ニ受入ルヘシ
- 第四十八條 保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スル者ハ其請求書ニ保管證書ヲ添ヘ之ヲ貯金取扱局所ニ出シ其受取證書ヲ領置スヘシ
- 下渡請求書ニハ其請求人ニ於テ公債證書ヲ受取ラント欲スル貯金取扱局ヲ指定スヘシ但郵便貯金預所ニ於テハ公債證書ノ渡方ヲ取扱ハス
- 第四十九條 郵便爲替貯金局ニ於テ公債證書下渡請求書ヲ領收シタルトキハ請求人ノ指定シタル貯金取扱局ニ公債證書ヲ廻付シ且請求人ニ下渡證書ヲ送達スヘシ
- 請求人前項ノ下渡證書ヲ受ケタルトキハ其證書受領ノ部ニ記名圖印シ前ニ受領シタル受取證書ト共ニ下渡局ニ差出し之ヲ引換ヘ公債證書ヲ受領スヘシ
- 第九款 雜則
- 第五十條 貯金預ケ人貯金事務ニ關シ郵便爲替貯金局又ハ同分局又ハ貯金取扱局所ニ差出ス書面ニハ所持ノ通帳ノ記號番號ヲ記載シ又之ヲ郵送スルトキハ其封皮ノ表面ニ貯金事務ト明記スヘシ

第百九十四 電信條例

(一) 壹岐對馬ニ發著スル電報料金納額 明治二十三年二月八日公布
 法律第十六號
 股登岐對馬電報料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年三月七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

法律第十六號

本年四月以降ニ於テ壹岐對馬ニ發著スル電報ノ料金ハ内國普通ノ納額ニ依ルヘシ

〔二〕壹岐對馬及朝鮮國ニ發著スル電報料金並海外電報ノ國內傳送料布達中改正刪除明治二十三年三月十四日

四年四月一日

遞信省令第二號

明治十八年五月第九號布達本文中「壹岐對馬及」ノ五字ヲ刪除シ及別紙第一第二第三第六第七ノ五項ヲ左ノ通り改正刪除

レ本日ヨリ施行ス

第一項ヲ左ノ如ク改ム

一本邦ヨリ朝鮮國ニ發著スル金山迄ノ電報一管信料四拾錢トス但對馬金山間ハ三拾錢トス

第二項及第三項中

「壹岐對馬及朝鮮國」トアルヲ「本邦ヨリ朝鮮國金山」ト改ム

第六項中

「壹岐對馬」ノ七字ヲ刪除

第七項中

「壹岐對馬及」ノ五字並對馬ノ浦長崎間ノ浦長崎間ノ料金ヲ刪除

〔三〕電信取扱規則第十八條以下諸條中ヲ改正加除ス明治二十三年三月十四日

電信取扱規則中左ノ通り改正レ本年三月二十八日ヨリ施行ス

遞信省令第二號

十八年第九號
布達ノ諸項ハ
初編第二百三
十ノ五項ニ掲
ク

電信取扱規則
ハ初編第二百
三十ノ三項ニ
掲ク

一 電信取扱規則第十八條へ左ノ但書ヲ追加ス

但歐文電報ニ略號ヲ常用スルトキハ略號常用料ヲ納ムヘシ其金額及納付手續ハ別ニ之ヲ定ム

一同第四十六條 削除

一同第五十三條 左ノ通り改正ス

電報料手数料ヲ還付スルトキハ都テ郵便切手ヲ以テスヘシ

一同第五十五條 削除

一同第五十六條 左ノ通り改正ス

追徴電報料及手数料ハ之ニ相當スル郵便切手ヲ貼附シタル追徴証書ヲ發スルニ依リ發信人又ハ受信人ニ於テ其金額ヲ追納スヘシ

一同第八十九條 左ノ通り改正ス

追徴電報ヲ發信局ヨリ一里ヲ超エタル地ニ發送スルトキハ前掛郵便ヲ用ヒ其郵便税額ハ追徴証書ニ合記シ之ヲ追徴スヘシ

一同第一百十二條 左ノ通り改正ス

前納返信料ハ著信局ニ於テ郵便切手ヲ以テ電報ト共ニ受信人ニ交付スヘシ

〔四〕電信取扱規則第二十七條中ヲ刪除シ歐文電報課金表ヲ示ス明治二十三年三月十四日

本年四月一日以降電信取扱規則明治十八年五月第七號布達第三十七條中國内ノ下測註及壹岐對馬ノ五字ヲ刪除ス但「歐文電報」ニ限リ

當分ノ内左記金額ヲ課スレテ以テ但書ヲ刪除ス二十四年四月一日省令第三號

自	歐文 每一語料	内地 各所	對	馬
至				

第十五類 第一章 郵便 電信 電話

壹	岐	金拾錢	金拾錢
貳	馬	金拾五錢	

〔五〕電報局渡規則 明治二十三年八月二十五日
逓信省令第十七號

電報局渡規則左ノ通相定メ來十月一日ヨリ施行ス

電報局渡規則

- 第一條 凡ソ電報ノ受信人ニシテ其電報ノ配達ヲ待タズ郵便電信局又ハ電信局ニ就キ直ニ之ヲ受領セント欲スル者ハ豫メ書面ヲ以テ其配達ヲ受ケヘキ局ニ其旨申出ツヘシ
- 第二條 郵便電信局又ハ電信局ハ其申出ニ對シ電報局渡證券ヲ交付スヘシ
- 第三條 電報ノ受信者郵便電信局又ハ電信局ニ於テ電報ヲ受領スルトキハ其時々電報局渡證券ヲ當該局員ニ示スヘシ其電報受領ノ爲メ出頭シタルトキ及立去ルトキハ其旨ヲ當該局員ニ陳告スヘシ
- 第四條 郵便電信局又ハ電信局ニ於テハ電報局渡證券持帶者ヲ正當受信人ト見做シテ其電報ヲ交付スヘシ
- 第五條 電報局渡證券ヲ所持スル者宛タル電報著信スルモ其證券持帶者出頭セサルトキハ之ヲ配達ニ付スヘシ
- 第六條 電報局渡證券不用ニ屬スルトキハ之ヲ當該局ニ還納スヘシ
- 第七條 電報局渡證券ヲ亡失シタル者ハ速ニ其旨ヲ當該局ニ報告スヘシ此證券ハ當該局ニ其報告ヲ受ケタル時ヨリ無効トス但此場合ニ於テハ當該局ヨリ更ニ證券ヲ交付スヘシ
- 第八條 電報局渡證券ヲ受領シタル者ハ電報局渡料トシテ一箇年六回ヲ納ムヘシ
 其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ依リ一期分毎ニ之ヲ當該局ニ前納スヘシ但特ニ納期ヲ定ムルモノハ此限ニアラス

- 第一期 一月ヨリ三月マテ
- 第二期 四月ヨリ六月マテ
- 第三期 七月ヨリ九月マテ
- 第四期 十月ヨリ十二月マテ

第九條 一期ノ中途ニ於テ電報局渡證券ヲ交付シタルトキ其期ノ料金ハ年額ヲ十二分シ證券交付ノ月ヨリ其期ノ未月マテノ月收ニ應シテ之ヲ即納スヘシ

第十條 料金ノ既納ニ係ルモノハ一期ノ中途ニ於テ證券ヲ還納スルト雖之ヲ還付セズ

第十一條 電報局渡料金ハ一等郵便電信局又ハ二等郵便電信局ニ於テハ通貨ヲ以テ之ヲ當該局ニ納付シ二等電信局又ハ三等郵便電信局ニ於テハ郵便切手ヲ以テ之ヲ納付スヘシ

第十二條 電報局渡證券ヲ受領シタル者其料金ヲ納付期限ニ完納セサルトキハ其證券ハ之ヲ無効トス

〔六〕電報配達人ニ電報差出方依託規程 明治二十三年十一月十日
逓信省令第二十一號

- 一 逓信料前納ノ電報ノ局待指定ノ電報及郵便電信局又ハ電信局ヨリ一里以外ニ配達スル電報ヲ受取リタル者ハ其電報配達人ニ依リテ電報ヲ差出スコトヲ得但左ニ掲クル電報ハ此限ニアラス
 - 二 英國電信條約書ニ據リ發送スヘキ電報
 - 三 豫算ヲ以テ料金ヲ納付スヘキ電報
 - 四 受領證ヲ要スル電報
- 二前項ニ據リ電報ヲ依託スル者ハ配達ヲ受ケタル電報ノ受取紙ニ電報依託ノ文字及其料金額ヲ記載シ之ヲ配達人ニ交付スヘシ

二十一年勅令
第六號(初編
第二百三十ノ
二項)參看

其電報ニシテ秘密ヲ要スルモノハ切手貼附ノ部分ヲ配達人ニ示シ後之ヲ封緘スヘシ

三 電報ヲ依託スル者電報ノ交付ヲ遅延シ五分時間ヲ超過スルトキハ電報配達人ハ其依託ヲ待タズシテ去ルコトアルヘシ

四 電報配達人ニ依託シタル電報ハ其配達人當該郵便電信局又ハ電信局ニ持歸リタル時ヲ以テ受付時刻トナス但閉局後ニ持歸リタルトキハ閉局後交付ヲナスヘキ電報ヲ除クノ外翌日開局ノ時ヲ以テ受付時刻トナスヘシ

〔七〕 電信切手ノ使用ヲ禁止シ所持ノモノ郵便切手ト引換方 明治二十二年十二月九日 逓信省令第七號

明治二十三年二月二十八日限リ電信切手ノ使用ヲ禁止ス所持ノモノハ同年三月三十一日迄ニ郵便切手ト引換方一等郵便電信局一等郵便局ニ請求スヘシ

〔八〕 萬國電信條約書ニ依リ二等三等電信局ニ依頼シテ發送スル電信料ニ郵便切手貼用方 明治二十三年三月十四日 逓信省令第一號

英國電信條約書ニ據リ二等電信局三等郵便電信局ニ依頼シテ發送スル電報料ハ本年三月二十八日以降郵便切手ヲ其電報紙面ニ貼附シテ之ヲ納ムヘシ

〔九〕 歐文電報客號常用料金額及其納付手續 明治二十三年三月十四日 逓信省令第三號

歐文電報略號常用料金額及其納付手續左ノ通相定メ本年三月二十八日ヨリ施行ス 但明治二十年六月省令第三號ハ本件施行ノ日ヨリ廢止ス

歐文電報略號常用料金額及其納付手續

- 一 略號常用料ハ一箇年拾圓トス其料金ハ年額ヲ四分シ左ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ一期毎ニ之ヲ前納スヘシ 但二期以上ノ分ヲ一時ニ前納スルモ妨ケナシ 第一期 一月ヨリ三月マテ

- 第二期 四月ヨリ六月マテ
- 第三期 七月ヨリ九月マテ
- 第四期 十月ヨリ十二月マテ

二 略號常用料ハ略號常用料約定スル郵便電信局又ハ電信局ニ通貨ヲ以テ納付スヘシ 但二等電信局及三等郵便電信局ニハ郵便切手ヲ以テ納付スヘシ

三 一人ニシテ二種以上ノ略號ヲ常用スルトキハ一種毎ニ略號常用料ヲ納付スヘシ

四 同一ノ略號ヲ内國電報及外國電報ニ通シ用フルトモ各別ニ略號常用料ヲ納ムルニ及ハス

五 第二項ニ掲クル一期ノ中途ヨリ略號常用料約定スルトキハ年額金ノ月割ヲ以テ約定ノ月ヨリ其期末月マテノ月數ニ應ジテ略號常用料ヲ前納スヘシ

六 常用スル略號無用ニ屬シ取消ヲ請求スルトモ前納シタル略號常用料ヲ還付セス 但取消ヲ請求シタル次期以下ニ屬スル略號常用料前納アルトキハ其次期以下ノ分ヲ還付スヘシ

七 略號常用料ヲ還付スルトキハ前ニ通貨ヲ以テ納メタルモノハ通貨ニテ還付シ郵便切手ヲ以テ納メタルモノハ郵便切手ニテ還付スヘシ

〔十〕 朝鮮國京城ヨリ歐羅巴及其以西各國へ發著スル電報料金額額ヲ示ス 明治二十三年三月十四日 逓信省令第五號

本年四月一日以降朝鮮國京城ヨリ釜山ヲ經テ歐羅巴及其以西各國へ發著スル電報ノ釜山長崎間經行料金ハ一圓ニ付正貨三拾貳錢ヲ課ス

〔十一〕 電信爲替ノ爲替料改正 明治二十三年三月八日 逓信省令第四十二號

電信爲替ノ爲替料左ノ通改正シ來ル四月一日ヨリ徵收ス 但本文施行ノ日ヨリ別ニ電信料ヲ納ムルニ及ハス

訓令第三號ハ
初編第二百三
十ノ五項ノ内
ニ掲ク
告示第百二十
一號ハ同十
ニ掲ク

爲替金高 爲替料
五圓迄 貳拾八錢 爲替金高
拾圓迄 參拾圓迄 參拾五錢
爲替料
四拾錢

〔十二〕地方遞信官官制ヲ廢シ郵便及電信局官制制定ニ付郵便電信條例中心得方第百九十二ノ
三項ニ掲ク
〔十三〕二十年遞信省訓令第三號其他遞信管理局長ヲ遞信省工務局長ニ改ム明治二十二年七月
二十日
遞信省訓令第二號北海道
廳府縣(洞)細則ヲ除ク)

明治二十年四月遞信省訓令第三號其地遞信管理局長ヲ遞信省工務局長ト改ム
〔十四〕二十年遞信省告示第百二十一號中改正明治二十二年七月二十日
遞信省告示第百四十七號

明治二十年七月遞信省告示第百二十一號所轉遞信管理局ヲ遞信省工務局ト改ム
〔十五〕電信柱敷地手當仕排取扱順序明治二十三年四月四日
遞信省訓令第二號北海道廳府縣

明治二十三年度以降電信柱敷地手當金ノ仕排ハ明治二十二年七月勅令第八十九號ニ據リ仕排命令ヲ北海道廳長官府縣知
事ニ委任シ其取扱方法左ノ通り之ヲ定ム

- 第一條 電信柱敷地手當仕排取扱順序
新明細書ヲ調製シ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ
- 第二條 遞信大臣ハ第一號ノ明細書ニ據リ北海道廳長官府縣知事ニ其仕排ヲ委任ス
- 第三條 北海道廳長官府縣知事ハ第二號ノ仕排委任ヲ受ルトキハ會計規則第三十二條ヨリ第三十五條マテノ手續ニ據リ
仕排命令ヲ廢シ會計主務官ハ同則第三十六條ヨリ第三十八條マテノ手續ニ據リ仕排ヲ取扱フヘシ
- 第四條 電信柱敷地手當金ノ仕排ヲ爲シタルトキハ會計主務官ハ會計規則第四十九條ノ支出報告ニ第二號書式ノ支給金

- 新明細書ヲ添ヘ遞信大臣ニ差出スヘシ
- 第五條 電信柱敷地手當金中會計規則第六十條ニ據リ過年度ノ支出ヲ要スルモノアルトキハ亦前各條ニ準シ取扱フヘシ
- 第六條 電信柱敷地手當金仕排以前ニ於テ減額スヘキモノアルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ第三號書式ノ減額報告書
ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ
- 第七條 電信柱敷地手當金中誤排又ハ過渡金アルトキハ北海道廳長官府縣知事ハ第四號書式ノ放入調書ヲ調製シ遞信大
臣ニ差出シ同大臣ノ承認ヲ受クヘシ
- 第八條 會計主務官ハ毎年度經過後會計規則第九十五條ニ照シ電信柱敷地手當金ノ計算書及證書類ヲ遞信大臣ニ差出
スヘシ
- 第九條 北海道廳長官府縣知事ハ前條計算書ト支出簿トノ符合ヲ認タル保證書ヲ調製シ之ヲ遞信大臣ニ差出スヘシ二十
六年訓令第四號ヲ
以テ本條ヲ改正ス
(書式略ス)

〔十六〕電信柱敷地手當金誤排過渡金收納取扱手續明治二十三年九月三十日
遞信省訓令第三號北海道廳府縣

- 一 電信柱敷地手當金ノ誤排及過渡金ノ收納ハ明治二十二年大藏省訓令第六十六號諸收入收納取扱順序ニ準據取扱フ
ヘシ
- 二 但此收入金ハ其廳府縣ヲ取扱應ト爲スヘシ
- 三 會計規則第三十條ノ收入報告書ハ翌月七日同則第九十五條ノ計算書ハ翌年度九月三十日同則第九十七條ノ計算書
ハ翌年度五月十日迄ニ當省ヘ差出スヘシ二十四年二月訓令第二號ヲ以テ
本項ヲ改正シ次ノ二項ヲ追加ス
- 四 稅外諸收入證明規程第五條ノ鑑定額明細書ハ翌年度九月三十日迄ニ當省ヘ差出スヘシ
- 五 北海道廳長官府縣知事ハ收入官吏ヨリ會計検査院ヘ提出スル收入計算書ハ收入辨現金出納計算書ハ現金出納簿ト

照合シ其符合ヲ認メタル保證書ヲ調製シ該計算書ニ添ヘ之ヲ逓信大臣ニ提出スヘシ

〔十七〕私設電信電話線其他電機ニ係ル工事ノ執行委託手續

明治二十三年五月七日 逓信省告示第八十七號

- 一 私設電信電話線ノ架設及臨時ノ修理其他總テ電機建設ニ係ル工事ノ執行方ヲ逓信省ニ請求シ其許可ヲ得タルトキハ其工事ニ要スル物品ハ電信建築官ノ承認ヲ經テ工事委託者ヨリ之ヲ電信建築官ニ交付スヘシ
- 二 工事ニ關スル官吏ノ旅費、工夫及雇人ノ賃金、電柱代價又ハ工事現場ニ於テ臨時ニ購入スヘキ物品代價ハ委託者ヨリ直ニ電信建築官ノ指定スル請求人ニ交付スヘシ但諸費支拂場所及支拂人名ハ豫メ電信建築官ニ通知シ置クヘシ
- 三 電信建築官工事現場ニ於テ諸費ノ支拂ヲ必要ト認メ之ヲ委託者ニ通知スルトキハ支障ナキ機取掛フヘシ
- 四 私設電信電話線ヲ逓信省所屬電信柱ニ添架シタル後其線路維持ニ係ル費用ハ逓信省ニ於テ別ニ定ムル手續ニ依リ之ヲ納付スヘシ

〔十八〕電信柱敷地手當金ニ係ル規則中逓信大臣ノ職務取扱方

第百三ノ三ノ二項ニ掲ク

〔十九〕電信柱敷地手當金請求申出期限及書式

明治二十三年四月四日 逓信省告示第六十八號

民有地ニ建設セル電信柱敷地手當金請求方ハ自今前年四月ヨリ次年三月マテノ分ハ其年七月三十一日マテニ交付候條該敷地手當金ヲ受領スヘキ者ハ左ノ書式ニ據リ其年四月五日迄ニ管轄地方廳ヘ交付方申出ツヘシ但受領者ハ最寄協議ノ上便宜代理人ヲ定メ交付方申出ツルモ妨ケナシ

一 金何程

但明治何年何月ヨリ何月マテ電信本柱 第何號 何本及支柱 第何號 何本合何本手當金内何本ハ一本ニ付金何錢宛何本ハ一本ニ付金何錢宛 (注意)柱一本ノ金額ハ厘位ニ止ムヘシ

右手當金交付相成度候也

年月日

北海道廳長官府縣知事宛

何縣何郡何町何番地

何 某

● 伺指令

● 電信柱敷地手當金ノ件ニ付問合回答

明治二十三年九月二十日 高知縣會計主務官問合

電信柱敷地手當金ノ備運輸道官不便ノ地ハ現金前渡ヲ爲シ其仕拂ヲ取扱ハシムル見込ニ有之候處右前渡ヲ受ケタル官吏ヨリ送付スル會計規則第九十八條ノ計算書及証憑書類提出期限ノ儘ハ如何心得可然哉

逓信省書記官回答 明治二十三年九月三十日(電報)

會計規則第九十八條ノ計算書類提出期限ハ翌月十日以内又該官吏ヲ命セラレタル場合ハ貴知事ヨリ當大臣ヘ官民名御届アレ

● 電信柱敷地手當金支給方ノ件ニ付照會回答

明治二十三年十一月十日 愛媛縣照會

客月三十日電三乙發第三一九六號ヲ以テ電信柱敷地手當金新設若クハ廢止シタル分ハ本年度内總テ月割計算スヘキ旨御回答ノ趣了承然ル處右御回答面ニ據レハ本年八月法律第五十八號發布ノ前後ニ拘ハラズ總テ月割計算ヲ爲スモノ、如ク倍々疑團ヲ生シ候ニ付再應左ニ及御問合候

一 法律第五十八號第六條中一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ストアリテ新設廢止ニ係ルモノ、明交無之右ハ從前

ノ通六箇月以上五箇月以下ノ區別ヲ以テ半年分若クハ全年分給與可相成哉將又總テ月割給與ノ儀ニ候哉

二 前項末段ノ通總テ月割給與ナリトスルモ個ハ法律第五十八號ノ發布ニ依リ改正セラレタルモノナレハ此月ヲ以テ分界セサルヘカラス然ルニ今般御回答ノ如ク本年八月以前ニ屬スル新設廢止ノモノヲ月割ト爲ストキハ該法律

ノ既往ニ過ル嫌ヒ有之候間本年八月以前新設ノモノハ一箇年分(舊例ノ類五箇月分)八月以前廢止ノモノハ半箇年分(六箇月分)給與シ九月以降新設ノモノハ總テ新法ニ據リ月割給與可然哉

三法第五十八號第六條中一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ストアルハ從前ノ通支柱線共各四錢宛給與セラルヘキ精神ナル歟若シ然ラサルトキハ本柱官有地ニアリテ支柱線而已民有地ニ建設アル場合ハ此支柱線ニ對シ一箇年四錢給與可然哉

遞信省電務局長回答 明治二十三年十一月二十八日

一 法第五十八號第六條中一本毎ニ一箇年四錢給與スル手當金ハ新設廢止等ノ場合ハ其月數ニ不拘總テ一箇年分金四錢ヲ給與ノ儀ト御承知有之度候

二 本年度内新法月割計算方ノ儀ハ左ノ通御承知有之度候

一 二十三年四月ヨリ二十四年三月迄繼續異動ナキモノ本年八月迄ハ舊法ニ依リ五箇月又九月以降ハ新法ニ依リ七箇月ノ月割併セテ十二箇月分給與

一 新法發布以前(即チ四月以降)ニ新設シタルモノ前同斷

一 二十三年四月ヨリ繼續シテ新法發布以前ニ廢止シタルモノ舊法ニ依リ六箇月分給與

一 新法發布以後新設シタルモノ新法ニ依リ一箇年分即チ金四錢給與

● 電信柱敷地手當金支給方ノ件ニ付上申指令 明治二十三年十二月十二日 北海道廳上申

民有地内ニ建設シアル電信柱敷地手當金支給方ノ義ハ明治二十一年九月御省訓令第九號及本年八月法律第五十八號第六條ニ依リ取扱來候處右金員受渡シニ付テハ道路ノ邊近ニ拘ハラス人民概ネ戸長役場ヘ往來セサルヲ得サルノミナラス一丁字ヲ解セサルノ徒ハ若干ノ金員ヲ以テ敷地手當金ノ請求書及領收證書ヲ代書シ費ヒ候義ニシテ却テ之ヲ

迷惑ニ感スルノ向不尠旁以無代價使用方出願候者陸續有之折角ノ御支給金員モ其旨趣ニ相悖リ候様被存候ニ付尚皆下各郡區長及戸長ヲシテ一般受領者ヘ諮問ヒシメ候處何レモ手當金ヲ要求セサル應答申有之本道内田畑及郡村宅地ハ客年六月法律第十八號ヲ以テ地租免除相成居候ニ付無代價使用相成候テモ敢テ不當ノ義ニハ有之間敷様被存候儀テ右敷地手當金支給方當道ニ限リ御施行不相成候御改正相成候様被存候

遞信省指令 明治二十四年一月十二日

● 電信柱敷地手當金支出報告書進達期限ノ件ニ付問合回答 明治二十三年九月八日 函島縣會計主務官問合

電信柱敷地手當金ノ仕拂取扱順序本年訓令第二號ヲ以テ御制定相成候處同令第四條ニ依リ費省大臣ヘ毎月可差出支出報告書進達期限ハ如何相心得可然哉

遞信省會計局回答 明治二十三年九月十五日

翌月七日迄ニ御發送相成可然ト存候

第百九十七 電話交換規則 明治二十三年四月十七日 遞信省令第七號

電話交換規則左ノ通之ヲ定ム

電話交換規則

第一條 遞信省ハ必要ト認ムル市町ニ電話交換局及電話所ヲ置キ電話交換加入者ノ使用ニ供スル電話線及電話所ノ電話線ヲ電話交換局ニ湊合シ又甲乙地間ニ電話線ヲ架設シテ電話交換ノ媒介ヲ爲スヘシ但加入者ノ請求ニ依リ其市町接近ノ地ニ電話線ヲ延長スルコト

アルヘシ

第二條 加入者ノ使用ニ供スル電話線及電話器ノ設置並其維持ハ遞信省之ヲ負擔スルモノトス但加入者ノ過失ニ由リ毀損シタルトキハ遞信省之ヲ修補シ其費用ハ加入者ヲシテ辨償セシムヘシ

第三條 加入者ハ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得

一 市町ノ内外ヲ問ハス晝夜ノ別ナク加入者相互直接ノ電話通信

二 市町ノ内外ヲ問ハス規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到ルモノト直接ノ電話通信

三 規定ノ時間ニ於テ和文電報送受ノ爲メ郵便電信局又ハ電信局ト直接ノ電話通信 二十十一月省令第二十號ヲ以テ改正

第四條 何人ト雖規定ノ時間ニ於テ電話所ニ到リ左ノ電話通信ヲ爲スコトヲ得但其時間ハ遞信省ニ於テ之ヲ定メ時々廣告スヘシ

一 加入者ト直接ノ電話通信

二 他ノ電話所ニ到ル者ト直接ノ電話通信

第五條 左ノ電話通信ハ總テ五分時間迄ヲ以テ一通信時トス

一 甲乙市町間相互直接ノ電話通信

二 電話所ニ到ル者相互及電話所ニ到ル者ト加入者ト直接ノ電話通信

第六條 加入者ハ報酬ヲ受ケテ其使用ニ屬スル電話器ヲ他人ニ貸與シ又ハ之ヲ自家所用外

ノ目的ニ使用スルコトヲ得ス

第七條 電話交換局ハ時々加入者ノ住居ニ技術員ヲ派遣シテ電話器故障ノ有無ヲ點檢セシムヘシ

第八條 加入者ハ其使用ニ屬スル電話線又ハ電話器ニ障害アリト認ムルトキハ直ニ其旨ヲ電話交換局ニ報告スヘシ

第九條 加入者ノ加入約定期限ハ其使用ニ屬スル電話線及電話器ヲ交付シタル日ヨリ起算シ滿二箇年トシ爾後ノ繼續ハ滿一箇年以上トス(一箇年未滿ノ端數ヲ加フルヲ得ス)但左ニ掲クル一期ノ中途ニ於テ之ヲ交付シタルトキハ尙ホ該期ノ末日ニ至ルマテノ日數ヲ加ヘタルモノヲ以テ約定期限ノ一箇年ト看做スヘシ

第一期 一月ヨリ三月マテ

第二期 四月ヨリ六月マテ

第三期 七月ヨリ九月マテ

第四期 十月ヨリ十二月マテ

第十條 加入者其加入約定期限ノ繼續ヲ望マサルトキハ約定期滿期三箇月以前ニ其旨ヲ電話交換局ニ通知スヘシ若シ此通知ヲナサハルトキハ更ニ一箇年繼續スルモノト看做スヘシ

第十一條 加入者ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル電話線及電話器ノ使用料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ

但特ニ納期ヲ定ムル者ハ此限ニアラス

一 使用料ハ第九條ニ掲クル四期ノ別ニ從ヒ年額ヲ四分シ毎年一月四月七月十月ノ四回ニ通貨ヲ以テ其期ノ分ヲ電話交換局ニ納付スヘシ

二 一期ノ中途ニ於テ加入シタルトキハ其期ノ分ハ年額金ノ日割ヲ以テ電話線及電話器ノ交附ヲ受ケタル日ヨリ一週日以内ニ通貨ヲ以テ電話交換局ニ納付スヘシ

第十二條 加入者納期ニ至リ其使用料ヲ納付セザルトキハ其電話通信ヲ停止スヘシ

第十三條 電話交換局アル市町外ニ電話器ヲ設置スルモノ及一人ニシテ同一ノ家屋又ハ地所内ニ於テ同一ノ回線中ニ二箇以上ノ電話器又ハ電話器ノ外ニ電鈴ヲ設置スルモノハ第十一條使用料ノ外左ノ料金ヲ增加スヘシ同上省令ヲ以テ全條ヲ改正ス

一 市町外ノ地ニ電話器ヲ設置スルトキハ其市町ノ境界ヲ去ル三町迄毎ニ一箇年料金參圓

二 二箇以上ノ電話器ヲ設置スルトキハ一箇ヲ除キ其他一箇毎ニ一箇年料金八圓

三 別ニ電鈴ヲ設置スルトキハ一箇毎ニ一箇年料金八拾錢

第十四條 加入者ニ於テ其使用ニ屬スル電話線ヲ他ニ轉架シ若クハ其電話器ヲ同一ノ家屋又ハ地所内ニ轉置センコトヲ望ムトキハ之ヲ電話交換局ニ請求スヘシ其轉架ニ要スル費用ハ(線條柱木其他器械物品ノ代價ヲ除ク)請求者ノ支辨トス但電話線ノ轉架ニ依リ使用料額ニ異動ヲ生スルトキハ轉架工事竣工ノ日ヨリ其料額ヲ改定スヘシ

第十五條 電話所ニ到リテ電話通信ヲ爲スモノ及加入者ニシテ他ノ市町ノ加入者又ハ其電話所ニ到ル者ト電話通信ヲナス者ハ遞信省ニ於テ別ニ定ムル電話料ヲ左ノ規定ニ據リテ納付スヘシ但加入者ニシテ其市町内ノ電話所ニ到ルモノト電話通信ヲナス場合ハ電話料ヲ支拂フヲ要セス

一 電話所ニ到ルモノハ郵便切手ヲ以テ電話料ヲ其電話所ニ納付スヘシ

二 加入者ハ通貨ヲ以テ其月分ノ電話料ヲ翌月十日迄ニ電話交換局ニ納付スヘシ省令第一號ヲ以テ改正ス 年一十月二十四

第十六條 加入者ニシテ第三條第三項ニ據リ電報ヲ各地ニ發送スル爲メ郵便電信局又ハ電信局ニ電話通信ヲナシタルトキハ其月分ノ電報料ヲ通貨ヲ以テ翌月十日迄ニ其郵便電信局又ハ電信局ニ納付スヘシ同上省令ヲ以テ改正ス

第十七條 加入者ノ使用ニ屬スル電話線又ハ電話器ニ障害ヲ生シ三日以上電話通信ヲ休止シタルトキハ第四日ヨリ電話通信休止ノ日數ニ應シ年額金ノ日割ヲ以テ使用料ヲ還付スヘシ但第二條但書ノ場合ニ於テハ此限ニアラス

第十八條 凡ソ加入者タランコトヲ望ムモノハ左ノ書式ノ申込書ヲ差出スヘシ
但他人所有ノ家屋又ハ地所内ニ電話器ノ設置ヲ要スルモノハ其所有者ノ承諾書ヲ添付スヘシ

(電式)

電話交換加入者申込書

私儲電話交換規則ニ遵ヒ何地電話交換ニ加入致度仍テ電話器設置ノ場所及其員數ヲ左ニ記載シ此段申込候也

年月日

住所職禁

氏名印

逓信省工務局

御中

何市何區何町何番地

一 場所
二 電話器

何箇

〔一〕電話交換規則ニ掲クル東京市内使用料電話料ヲ定ム 明治二十三年四月十九日 逓信省令第八號

電話交換規則第十一條ニ掲クル使用料ハ東京市内ニ於テハ一箇所ニ付年額(五拾圓)同規則第十五條ニ掲クル電話料ハ東京市内ニ於テハ一人ニ付一通信時五錢ト定ム 二十三年五月省令第十號ヲ以テ五十圓ヲ四十圓ト改ム

〔二〕電話交換規則第十一條ニ掲クル使用料横濱市内電話料ヲ定ム 明治二十三年六月二十四日 逓信省令第十三號
電話交換規則第十一條ニ掲クル使用料ハ横濱市内ニ於テハ一箇所ニ付年額三十五圓同規則第十五條ニ掲クル電話料ハ横濱市内ニ於テハ一人ニ付一通信時五錢ト定ム

〔三〕電話交換規則ニ掲クル東京横濱間電話料ヲ定ム 明治二十三年六月二十四日 逓信省令第十四號
電話交換規則第十五條ニ掲クル電話料ハ東京横濱間ハ一人ニ付一通信時金十五錢ト定ム
但此電話料ハ通話請求者之ヲ納付スヘシ

〔四〕電話通信時間ヲ定ム 明治二十三年十二月六日 逓信省告示第二百六十四號
電話交換規則第四條ニ依リ電話所ニ到リ電話通信ヲ爲スコトヲ得ルノ時間左ノ通り之ヲ定ム

一 毎年三月一日ヨリ十月三十一日迄 午前六時ヨリ午後十時マテ
二 毎年十一月一日ヨリ二月末日迄 午前七時ヨリ午後十時マテ

第百九十六

電信線電話線建設條例

明治二十三年八月七日公布
法律第五十八號

朕電信線電話線建設條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
逓信大臣伯爵後藤象二郎

法律第五十八號

電信線電話線建設條例

第一條 逓信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ヲ建設スル爲民有ノ土地又ハ營造物ノ使用ヲ要スルトキハ所有者及其他ノ權利者之ヲ拒ムコトヲ得ス
官有ノ土地又ハ營造物ハ其所管應ニ通知シテ之ヲ使用スルコトヲ得
第二條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設ニ從事スル者其建築修理及線路測量ノ爲必要ナルトキハ他人ノ所有地ニ入ルコトヲ得
其邸宅構内ニ入ルヲ要スルトキハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ通知スヘシ
前三項ノ場合ニ於テハ主務者タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第三條 遞信省ハ公衆通信ノ用ニ供スル電信線電話線ノ建設又ハ通信ニ障碍アル瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ移轉セシムルコトヲ得

其建設通信ニ障碍アル竹木其他ノ植物ハ已ムヲ得サルモノニ限り之ヲ伐除シ若クハ所有者又ハ其他ノ權利者ニ命シテ之ヲ伐除又ハ移植セシムルコトヲ得

第四條 遞信省ニ於テ公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ノ測量ヲ爲シタルトキハ電柱ノ建設ヲ要スル場所ニ測標ヲ設置スルコトヲ得

第五條 公衆通信ノ用ニ供スル電信線路電話線路ヲ移轉スル必要アル者ノ請求ニ由リ遞信省ニ於テ之ヲ許可シタルトキハ其移轉費用ハ請求者之ヲ負擔スルモノトス

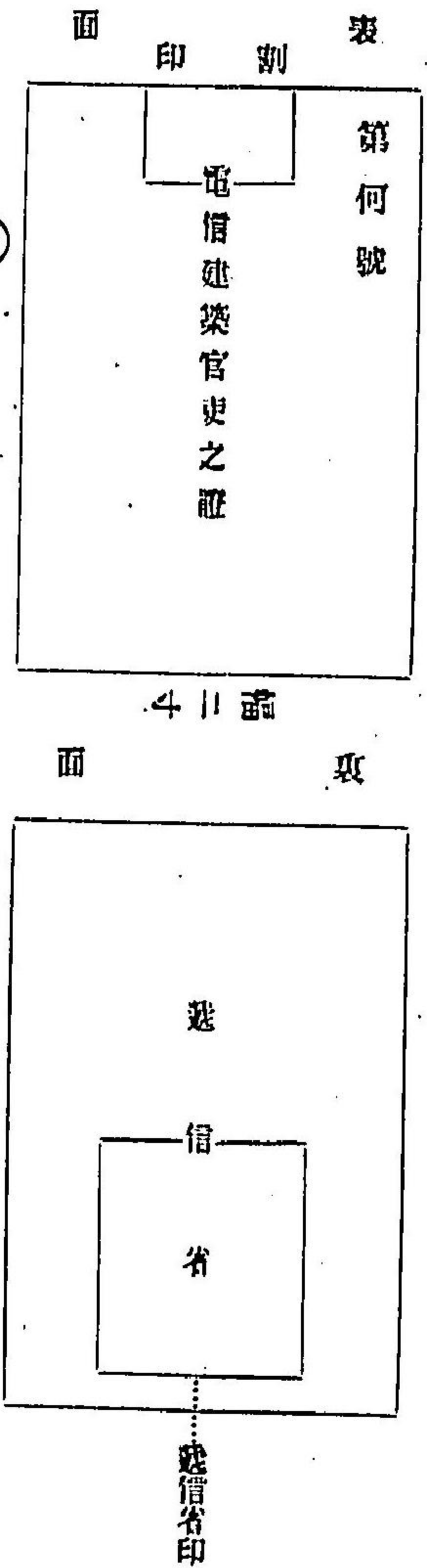
第六條 遞信省ニ於テ民有地ニ電信線電話線ノ柱木ヲ建設シタルトキハ一本毎ニ一箇年四錢ノ手當金ヲ給與ス但所有者又ハ其他ノ權利者ニ於テ手當金ヲ望マサルトキハ此限ニアラス

第七條 左ニ掲クルモノハ其要求ニ對シ遞信省之ヲ補償スヘシ

- 一 建築修理及線路測量ノ爲生シタル損害
 - 二 瓦斯支管水道支管下水支管電燈線電力線及私設電信線電話線ヲ移轉シタル費用
 - 三 伐除シタル竹木其他植物ノ代價又ハ移植ノ費用
- 第八條 第七條ノ補償金額ハ雙方協議之ヲ定メ若シ其議相協ハサルトキハ市町村長(未タ

市制町村制ヲ實施セサル地方ハ區戸長)ヲシテ之ヲ評定セシム
市町村長ノ評定ニ服セサル者ハ其評定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ一箇月以内ニ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

(二) 電信線電話線建設條例ノ證票 明治二十三年十一月二十五日
遞信省告示第百二十五號
電信線電話線建設條例第二條第二項ノ證票左ノ通相定ム
用紙厚紙 第三十



【第九十七】水底電信

(一) 筑前國遠賀郡戸畑村ト同郡石峰村トノ間へ水底電信線ヲ沈布ス 明治二十二年五月二十五日
遞信省告示第百二十八號

筑前國遠賀郡戸畑村ト同郡石峰村トノ間へ水底電信線ヲ沈布シ左圖ノ通線條ノ左右各三十間以内ヲ以テ該線路ト定ム
(圖ヲス)

(二) 伊勢國桑名郡木曾岬村ト同郡長島村トノ間水底電信線沈布 明治二十二年九月二十一日
伊勢國桑名郡木曾岬村ト同郡長島村トノ間へ水底電信線ヲ沈布シ左圖ノ通線條ノ左右各三十間以内ヲ以テ該線路ト定ム
(圖ヲス)

(三) 北海道渡島國函館區ト青森縣下北郡佐井村トノ間ニ海底電信線ヲ沈布ス 明治二十三年
十一月十三日
電信省告示
第三百四十六號

北海道渡島國函館區田郡函館區字大森濱ト青森縣下陸奥國下北郡佐井村大字佐井トノ間へ海底電信線二條ヲ沈布シ左圖線
條ノ左右各二百間以内ヲ以テ該線路ト定ム
(圖面ヲス)

(四) 北海道根室國厚別村走古潭村間遠太灣ニ海底電信線ヲ沈布ス 明治二十三年十二月十六日
北海道根室國根室郡厚別村同國同郡走古潭村間遠太灣ニ海底電信線一條ヲ沈布シ左圖ノ通線條ノ左右各五十間以内ヲ該
線路ト定ム
(圖面ヲス)

○第二章 燈標 船舶
第百九十八 航路標識

(一) 外國通航ノ郵船下ノ開及福江廻船ヲ許ス 第百九十二ノ
燈標統計表 明治二十年十月十五日
電信省訓令第六號北海道府縣

(二) 燈標統計表 明治二十年十月十五日
北海道府縣立市町村立並私設(海路)燈標統計表式本年ヨリ左ノ雖形ニ倣ヒ圖製シ翌年二月十五日迄ニ當省燈標局へ送
出スヘシ
但明治十六年元工部省第二號達廢止ス二十三年一月訓令第一號ヲ以テ(私設)ノ上(北海道府縣立市町
村立)ノ十二字ヲ加ヘ(海路)ヲ(船路)ニ改メ様式雖形ヲ更正ス

第一 北海道府縣立(北海道府縣立市町村立)(私設)燈標統計表 明治何年分	燈標通號		雜持費計		入港船舶		看守人員
	給料	燈油代	修繕費	雜費	日本形	西洋形	
何處燈臺					船數	石數	
何處燈竿					船數	石數	
合計							

備考 從前願濟ニテ燈費ヲ徵收スルモノハ「燈費收入高」ノ一項ヲ設ケ記載スヘシ

第二 北海道府縣立(北海道府縣立市町村立)(私設)燈標統計表 明治何年分	雜持費計		入港船舶		看守人員
	給料	修繕費	日本形	西洋形	
燈標通號			船數	石數	

	何處浮標	何處立標	何處陸標	何處浮標	合計
備考					
從前願濟ニテ標費ヲ收入スルモノハ〔標費收入高〕ノ一項ヲ設ケ記載スヘシ					

同指令

●北海道廳府縣及區町村立航路標識看守條規ノ件ニ付同指令明治二十二年四月十八日 宮城縣同

一條規第二條ニ看守長ハ遞信省燈臺局又ハ其燈臺ニ於テ看守ノ業務ヲ習熟シタル者ニ限ルト有之候處右ノ資格ヲ有シタル者無之地方ニ於テハ從來町村立航路標識ノ看守ニ從事シタル者ヲ以テ便宜之ニ充用スルモ不苦候哉

一前項充用スルヲ得サルモノトセハ或ハ維持ニ苦ム標識モ可有之此場合ニ於テ町村ノ請願アルトキハ相當ノ看守長ヲ派遣可相成候哉

一町村立標識看守人ニ充ツル爲メ相當人物ヲ選ミ燈臺局若クハ近傍燈臺ニ於テ看守ノ業務ヲ習熟セシメ度旨願出ツルトキハ許可相成候哉

遞信省指令 明治二十二年四月二十六日

第一項相成ラス

第二項豫シメ指令ニ及難シ

第三項何ノ通

但相當官吏ノ派遣傳習ヲ請願スルトキハ時宜ニ依リ許可スルコトアルヘシ

第百九十九 船籍規則 明治二十三年十月九日公布

朕船籍規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月九日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第二百十九號

船籍規則

- 第一條 日本船舶ハ西洋形日本形ヲ問ハス總テ船籍港ヲ定メ其地市町村役場若クハ浦役場ノ船籍ニ編入スヘシ
- 第二條 船籍ニ編入セントスルトキハ國內ニ於テハ地方官廳國外ニ於テハ領事館ニ願出テ其積量ノ測度ヲ受クヘシ
- 第三條 入籍シタル船舶ニシテ登簿噸數十五噸以上ノ西洋形船百五十石以上ノ日本形船ナルトキハ遞信省ニ船籍證書ノ交付ヲ願出ツヘシ
- 第四條 船籍證書ニハ左ニ記載シタル條件ヲ記シ且年月日ヲ記スヘシ但日本形船ニ在テハ第一項ノ信號符字及ヒ第八項乃至第十七項ヲ除キ其石數ヲ記シ西洋形帆船ニ在テハ第三項乃至第十七項ヲ除ク

- 第二項 船舶ノ番號信號符字
- 第三項 船名、原名
- 第四項 船籍港名、管轄廳名
- 第五項 甲板ノ層數、樁ノ數、索具ノ裝置、船體ノ材料、船骨ノ材料、船首ノ形狀、船尾ノ形狀
- 第六項 造船工長ノ氏名、製造年月日、製造地名
- 第七項 船主ノ氏名住所（會社其他ノ法人若クハ二人以上ノ所有ニ係ルトキハ會社名若クハ管理人ノ氏名）
- 第八項 船舶ノ長、幅及ヒ深
- 第九項 量噸甲板下部ノ噸數
- 第十項 量噸甲板上諸部ノ噸數
- 內 譚
 - 甲板間ノ噸數
 - 船尾室ノ噸數
 - 圓室ノ噸數
 - 其他諸室ノ噸數
- 第十項 總噸數
- 第十一項 登簿噸數

- 第十二項 乘組人常用室ノ噸數
- 第十三項 機關室ノ噸數
- 第十四項 機關ノ種類及ヒ數
- 第十五項 汽鐘ノ種類及ヒ數
- 第十六項 推進器ノ種類
- 第十七項 公稱馬力
- 第五條 新造若クハ改造シタル船舶又ハ外國人ヨリ取得シタル船舶ノ假證書ハ前條第一項ヲ除キ船舶ノ種類ニ從ヒ其他ノ諸件ヲ記スヘシ
- 第六條 同一ノ船舶ニシテ再度以上假證書ノ交付ヲ受ケタル場合ト雖モ其効力ハ初度ノ證書ニ記載シタル年月日ヨリ起算シ商法第八百三十條第二項ノ期限ヲ超過スルコトヲ得ス
- 第七條 船籍證書ノ交付ヲ願出ツルトキハ手数料トシテ本證書ハ壹圓假證書ハ五拾錢ヲ納ムヘシ
- 第八條 船籍證書ハ常ニ船内ニ保持シテ船長之ヲ監守シ稅關官吏、司檢官、警察官、領事其他正當職權アル者ニ於テ檢閲ヲ要スルトキハ何時ニテモ之ヲ開示スヘシ
- 第九條 船籍證書ヲ受有スル西洋形船ハ左ノ事項ヲ銘記シ且其事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其都度之ヲ改記スヘシ
- 第一項 船首兩舷ノ外部ニ船名、船尾外部ノ見易キ所ニ船名及ヒ船籍港名ヲ方三寸五

分以上ノ國字並羅馬字ヲ以テ記スヘシ

第二項 中央ノ船梁ニ船籍證書ノ番號及ヒ登簿噸數ヲ彫刻シ又ハ該番號噸數ヲ彫刻シタル板ヲ固釘スヘシ

第三項 船首材及ヒ船尾材ノ外部兩側面ヘ水脚ヲ示ス爲メ一尺毎ニ方五寸ノ羅馬又ハ亞刺比亞數字ヲ以テ其尺度ヲ記スヘシ

第十條 船籍證書ヲ受有スル日本形船ハ船尾ニ船名、船梁ニ船籍證書ノ番號及ヒ石數ヲ記スヘシ

第十一條 船舶所有者船籍港ニ居住セサルトキハ本船ニ關スル事務ヲ代辦セシムル爲メ其船籍港ニ代理人ヲ置キ之ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ届出ツヘシ

第十二條 船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ船籍面ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十三條 船籍港ヲ移轉シタルトキハ原籍ヲ削除シ移轉地ノ船籍ニ編入シ且船籍證書ノ書換ヲ申出ツヘシ

第十四條 船舶ノ所有權ヲ他人ニ移轉シタルトキハ其旨ヲ市町村役場若クハ浦役場ニ申出且船籍證書ヲ返納スヘシ

第十五條 船舶ノ破壊喪失、失踪解撤ニ歸シタルトキ若クハ日本船舶タルノ資格ヲ失ヒタルトキハ本船ノ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ返納スヘシ

第十六條 本規則第八條乃至第十五條ヲ犯シタル者ハ二回以上二十回以下ノ罰金ニ處ス

附則

第十七條 明治十二年五月第十九號布告ニ依リ付與セシ西洋形船登簿船免狀ハ此規則施行ノ日ヨリ船籍證書ト見做シ本證書ト同一ノ効力ヲ有ス

第十八條 明治三年正月布告商船規則同十二年二月第五號布告同年五月第十九號布告同十四年二月第十二號布告其他從前ノ成規中此規則ニ抵觸スルモノハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

第十九條 此規則ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

〔一〕船籍規則施行延期 明治二十三年十二月二十八日公布 勅令第二百九十六號

朕船籍規則ノ施行延期ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十二月二十七日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第二百九十六號

本年十月勅令第二百九十九號船籍規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

〔二〕船籍規則施行細則 明治二十三年十一月八日 遞信省令第二十號

船籍規則施行細則左ノ通り規定メ明治二十四年一月一日ヨリ實施ス

船籍規則施行細則

第一條 船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シタル者ハ其種類ニ從ヒ第一號若クハ第二號書式ノ件

名書ヲ作リ本船ヲ籍港所轄ノ市町村役場又ハ浦役場ヲ經テ本船ノ測度ヲ地方官廳ニ願出テ且同時に該役場へ船籍ノ編入ヲ請ヘシ

第二條 市町村役場又ハ浦役場ニ於テハ前條ノ件名書ヲ調査シ五十石未満ノ日本形船ハ其事項ヲ直チニ役場ノ船籍簿ニ登錄シ其他ノ船舶ハ件名書ヲ地方官廳ニ送達シ其積量ノ測度ヲ申請スヘシ

第三條 地方官廳ニ於テハ船舶積量測度規則ニ從ヒ之ヲ測度シ第三號若クハ第四號書式ノ測度表ニ依リ其積量ヲ算出シ第五號若クハ第六號書式ノ測度證書ヲ作り件名書ヲ照查シ前條ノ市町村役場又ハ浦役場へ送付スヘシ

第四條 前條ノ船舶ニシテ船籍證書ヲ受有スヘキモノナルトキハ更ニ市町村長又ハ浦役人ノ與書ヲ受タル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添へ地方官廳ヲ經由シテ船籍證書ノ交付ヲ遞信省ニ願出ヘシ但左記ノ船舶ハ船籍證書ヲ受有スルノ限ニアラス

一 國内水上ヲ運航スル船舶
一端舟其他構體ノミヲ以テ運轉シ又ハ主トシテ構體ヲ以テ運轉スル舟

第五條 地方官廳ニ於テハ前條ノ願書及ヒ件名書ニ測度表ヲ添へ之ヲ遞信省ニ送達スヘシ

第六條 遞信省ニ於テハ件名書及ヒ測度表ヲ調査シ其船舶ノ種類ニ從ヒ第七號第八號若クハ第九號書式ノ船籍證書ヲ作り之ヲ地方官廳ニ送付シ地方官廳ハ市町村長又ハ浦役人ヲシテ之ヲ船主ニ交付セシムヘシ但第十一條ニ係ル船舶ニ交付スヘキ船籍證書ハ遞信省ヨリ直ニ領事館ニ送付シ其旨ヲ船籍地方官廳ニ通知スヘシ

第七條 船籍港外ニ於テ船舶ヲ製造シ若クハ外國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添へ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館ニ本船ノ測度ヲ請ヒ且假證書ノ交付ヲ願出ヘシ但本船ヲ籍港ニ到著シタルトキハ更ニ第一條及ヒ第四條ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條 前條ノ願書ヲ受領シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ由リ其積量ヲ算出シ直ニ第十號第十一號若クハ第十二號書式ノ假證書ヲ作り之ヲ願人ニ交付シ且同時に其證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ヲ本船ヲ籍港地方官廳ニ送付スヘシ

第九條 假證書ノ謄本及ヒ件名書測度表ヲ送付ヲ受ケタル地方官廳ニ於テハ本船ヲ籍港ニ到著ノ上其測度ヲ願出タルトキ送付ノ測度表ヲ調査シ正確ナリト認ムルトキハ更ニ測度ヲ要セス直チニ測度證書ヲ作り件名書ト共ニ市町村役場又ハ浦役場ニ送付スヘシ

第十條 內國人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ若クハ船籍ヲ移轉シタルトキハ測度ヲ除クノ外第一條ノ手續ニ依リ其入籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ市町村長又ハ浦役人ノ與印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添へ地方官廳ヲ經由シ其證書ノ交付ヲ請フハ書換ヲ遞信省ニ願出ヘシ

第十一條 外國ニ於テ船舶ヲ製造シ又ハ他人ニ屬スル船舶ノ所有權ヲ取得シ單ニ外國地方ヲ航海シ本國ニ廻船セサル者ハ其申由ヲ具シタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添へ本船所在地ノ領事館ニ其測度ヲ願出テ同館ヨリ交付ノ測度證書ヲ本船ヲ籍港ニ送付シ第一條ニ依リ其入籍ヲ請フヘシ但船籍證書ヲ受有スヘキ船舶ナルトキハ本證書到達迄ノ間領事館ヨリ假證書ヲ願受ルヲ得ヘシ

第十二條 領事館ニ於テハ第三條ノ手續ニ依リ其積量ヲ算出シ測度證書ヲ願人ニ交付シ且同時に本船件名書測度表ヲ其籍港地方官廳ニ送付スヘシ但假證書ヲ願出タルトキハ第八條ノ手續ニ依リ之ヲ交付スヘシ

第十三條 船籍ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ市町村役場又ハ浦役場ニ船籍ノ訂正ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ市町村長又ハ浦役人ノ與印ヲ受ケタル願書ニ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添へ地方官廳ヲ經由シテ其證書ノ書換ヲ遞信省ニ願出舊證書ヲ返納スヘシ但積量ノ變更ニ係ルトキハ更ニ測度ヲ受ケタル後本條ノ手續ヲ爲スヘシ

第十四條 船籍證書又ハ假證書ヲ喪失若クハ毀損シタルトキ船籍港ニ於テハ其事由ヲ具シタル願書ニ市町村長又ハ浦役人ノ奥印ヲ受ケ地方官廳ヲ經由シテ其船籍證書ノ再渡若クハ書換ヲ電信省へ願出ヘシ
船籍港外ニ於テハ其事由ヲ具シ第一號若クハ第二號書式ノ件名書ヲ添ヘ直チニ本船所在地ノ地方官廳又ハ領事館へ假證書ノ交付ヲ願出ヘシ

第十五條 前條ニ依リ假證書ヲ交付シタル地方官廳又ハ領事館ニ於テハ其事由ヲ詳記シ件名書及證書ノ謄本ヲ添ヘ連ニ本船々籍港ノ地方官廳へ通報スヘシ

第十六條 船籍規則第十五條ノ場合ニ於テハ其事由ヲ具シ浦役場ニ除籍ヲ請ヒ且船籍證書ヲ受有シタル者ハ地方官廳ヲ經由シテ之ヲ電信省へ返納スヘシ但假證書ナルトキハ其發出ノ官廳へ返付スヘシ

第十七條 船籍證書又ハ假證書ノ交付ヲ願出ル者ハ初渡、再渡書換ヲ問ハス出願ノ際船籍規則第七條ニ掲クル手数料ヲ上納スヘシ

附則

第十八條 明治十二年五月二十一日内務省丙第五十五號達ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス
第十九條 現在ノ船舶ハ此規則施行ノ爲メ更ニ積量ノ測定ヲ要セス從來ノ噸數石數ニ依ル

(第一號) 西洋形船件名書

- 第一 船名 汽船何九帆船何九
- 第二 船籍港 何國何郡何港又ハ何町村
- 第三 本船管轄廳名 廳府縣名
- 第四 甲板ノ層數 何層
- 第五 船體ノ材料 木製又ハ鐵製
- 第六 船骨ノ材料 木製又ハ鐵製
- 第七 櫓ノ數 何本

- 第八 索具ノ裝置 シツブ、パーク、パークケン、グライク、ブソック、ブアリ、ガンタイン、スクーナー、カツター、スルーア等
- 第九 船首ノ形狀 斜形又ハ直立
- 第十 船尾ノ形狀 圓形又ハ方形
- 第十一 製造地名 何國何郡何市何町村又ハ何地何造船所 (外國ノ地名ハ外國文字ニテ記スヘシ)
- 第十二 製造年月 何年何月
- 第十三 造船工場氏名 宿所氏名(外國人ナラハ外國文字ニテ記スヘシ) 最初製造シタルトキノ名(外國ヨリ購入ノモノハ外國文字ニテ記スヘシ)
- 第十四 船ノ原名 最初製造シタルトキノ名(外國ヨリ購入ノモノハ外國文字ニテ記スヘシ)
- 第十五 船主ノ氏名 會社其他ノ法人若クハ二人以上ノ所有ニ係ルトキハ會社名若クハ管理人ノ氏名在所ヲ記スヘシ
- 第十六 船ノ長 上甲板上ニテ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ
- 第十七 船ノ幅 本船中央ノ正甲板上面ニテ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ
- 第十八 船ノ深 正甲板ノ下面ヨリ船底中央ノ内板ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ
- 第十九 最噸甲板下部ノ噸數 何噸
- 第二十 最噸甲板上部ノ噸數 何噸

内譯

- 甲板間ノ噸數 何噸
- 船尾室ノ噸數 何噸
- 圓室ノ噸數 何噸
- 船首室厨室等部ヲ蔽圍セシ場所ノ噸數 何噸
- 第二十一 總噸數 何噸

第十五類 第二章 燈標 船舶

第二十二 登簿噸數 何噸

第二十三 乘組人常用室ノ噸數 何噸

第二十四 機關室ノ噸數 何噸

第二十五 機關ノ種類及噸數 重聯成機關、聯成併動冷海機關、單動冷海機關、併動冷海機關等 何噸

第二十六 機軸ノ種類及噸數 筒形、方形等 何噸

第二十七 汽筒ノ數及內徑 高壓何箇、低壓何箇、徑何寸、英寸ニテ記スヘシ

第二十八 機關昇降ノ長 何寸(英寸ニテ記スヘシ)

第二十九 推進器ノ種類 外車、暗車又ハ雙暗車

第三十 公稱馬力 何馬力

第三十一 船價 何圓 取得シタルモノハ其代價贈與ニ係ルモノハ其見積代價

第三十二 本船ヲ取得シタル場所 何國何郡何港又ハ何町村

第三十三 本船前所有主ノ氏名

右項目中船名地名氏名ハ詳細ニ假名ヲ附スヘシ

(第二號) 日本形船件名書

第一 船名 何丸 船名ヲ付セサル小舟ハ漁船、野船、傳馬船等其所用名ヲ記スヘシ

第二 船籍港 何國何郡何港又ハ何町村

第三 本船管轄廳名 廳府縣名

第四 船ノ原名 最初製造シタルトキノ名

第五 船ノ數 何本 船ノ長 船首材ノ外部ヨリ船尾柁柄ニ至ル尺度ヲ典尺ニテ記スヘシ 船ノ幅 中央船梁ニ沿ヒ外板ヨリ外板ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ 船ノ深 中央船梁上面ヨリ船底ニ至ル尺度ヲ曲尺ニテ記スヘシ

- 第六 製造地名 何國何郡何市何町村又ハ何地何造船所
- 第七 製造年月 何年何月
- 第八 船主ノ氏名
- 第九 積石噸數 何石 五十石未滿ノモノハ積石噸數ヲ記スルニ及ハス抽梁ヲシ、抽梁ニ至ルノ尺度ヲ記スヘシ
- 第十 船價 何圓 取得シタルモノハ其代價贈與ニ係ルモノハ其見積代價
- 第十一 本船ヲ取得シタル場所 何國何郡何港又ハ何町村
- 第十二 本船前所有主氏名
- 右項目中船名地名氏名ハ詳細ニ假名ヲ附スヘシ

(第三號) (二)

第一號	} 合計=	除數(100)	噸數=
第二號			
第三號			
第四號			
機關室ノ割合100			
噸甲板下部ノ噸數			
噸甲板上部ノ噸數	} 合計	噸數=	噸數=
甲板間ノ場所			
船首室			
船尾室			
四室			
其他ノ場所			
總噸數			
除去スヘキ噸數			
乘組人常用室噸數 {	} 合計	噸數=	噸數=
機關室ノ噸數 {			
登簿噸數			
測度員官氏名			

(第三號)

等分數		同分長點間隔	
13			
分長點番號	乘數	橫截面積	積
1	1		
2	4		
3	2		
4	4		
5	2		
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
合計=			
分長點間隔} =			
三分ノ一			
噸甲板} =			
下部立方積} =			
噸數=			

噸甲板甲板上甲板間ノ噸數

甲板間ノ長 = 分長點間隔 =			
分長點番號	乘數	幅	得數
1	1		
2	4		
3	2		
4	4		
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
合計=			
分長點間隔} =			
三分ノ一			
橫截面積=			
分長點ニ於ル} =			
平均ノ高			

甲板上諸室ノ積量			機關室ノ積	
第一號	第二號	第三號	第一號	第二號
內側ノ長 = 分長點間隔 =	內側ノ長 = 分長點間隔 =	內側ノ長 = 分長點間隔 =	平均ノ長 = 同深 =	平均ノ長 = 同深 =
番號 乘數 幅 得數	番號 乘數 幅 得數	番號 乘數 幅 得數	番號 乘數 幅 得數	番號 乘數 幅 得數
1 1	1 1	1 1	1 1	1 1
2 4	2 4	2 4	2 4	2 4
3 1	3 1	3 1	3 1	3 1
合計=	合計=	合計=	合計=	合計=
分長點間隔} =	分長點間隔} =	分長點間隔} =	平均ノ長} = 六分ノ一 =	平均ノ長} = 六分ノ一 =
三分ノ一	三分ノ一	三分ノ一	平均ノ深 =	平均ノ深 =
平均ノ高 =	平均ノ高 =	平均ノ高 =		
第四號	第五號	甲板上諸室噸數	第三號	第四號
內側ノ長 = 分長點間隔 =	內側ノ長 = 分長點間隔 =	一號 = 二號 = 三號 = 四號 = 五號 = 號 =	平均ノ長 = 同深 =	平均ノ長 = 同深 =
番號 乘數 幅 得數	番號 乘數 幅 得數		番號 乘數 幅 得數	番號 乘數 幅 得數
1 1	1 1		1 1	1 1
2 4	2 4		2 4	2 4
3 1	3 1		3 1	3 1
合計=	合計=	合計=	合計=	合計=
分長點間隔} =	分長點間隔} =		平均ノ長} = 六分ノ一 =	平均ノ長} = 六分ノ一 =
三分ノ一	三分ノ一		平均ノ深 =	平均ノ深 =
平均ノ高 =	平均ノ高 =			

(第四號)

甲板測度ノ長		甲
分長	點	帶
分長	點	最大ノ深
船梁ノ矢三分ノ一		
船底内板ノ厚		
矢三分ノ一竝ニ其他減スヘキ數		
分長點ニ於ル測度深		
本船		
分深點間隔		
分深點番號	乘數	
1	1	
2	4	
3	2	
4	4	
5		
6		
7		
合數		
分深點間隔三分ノ一		
橫截面積		

船 艙 上 部		
高	1	平均ノ高=
	2	
	3	
幅	1	平均ノ幅=
	2	
	3	
平均ノ長=		
立方積=		
船艙上部石數=		
船艙下部石數=		
總石數=		
測度員官氏名		

西洋形船測度表

船名	船ノ長	船ノ幅	船ノ深
九			

板ノ厚	船首傾度ニ對スル距離	船尾傾度ニ對スル距離	船尾船梁ノ矢三分ノ一	本船測度ノ長		長
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12		

中央ノ深十六尺ニ付ニ除ス

幅	深	幅	深	幅	深	幅	深	幅	深	幅	深	幅	深	幅	深	幅	深	幅	深

本船管轄名		船籍港	船名	船
分長點番號		1	2	
分長點ニ於ル深				
分長點ニ				
分長點番號	幅	幅		
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
合數				
平均ノ幅				
船	長工船造	置装ノ具索	狀形ノ尾船	

(第五號)

日本形船測度表

名	船ノ長	船ノ幅	船ノ深	船艙下部ノ長
丸				
3	4	5	6	7
				番號
				1
				2
				3
				4
				5
				6
				7
				合數
				船艙下部ノ長=
				同上下部平均ノ深=
				立方積=

(第七號)

書證度測船形本日

度	尺	名地造製	管轄 本船	港籍船名	船名	積	主	長工船造	月年造製	何石	
										船内	船外
船ノ深	船ノ幅	船ノ長								船内ノ石數	船外ノ石數

船籍規則第二條ニ據リ本船測度ノ上此證書ヲ付與スル者也
明治年月日

廳府縣領事館測度員官氏名

(第六號)

書證度測船形洋西

度	尺	月年造製	名地造製	數ノ楫	數層ノ板甲	料材體船	積	力馬得公	類種ノ器進推	名地ノ度測	主

船籍規則第二條ニ據リ本船測度ノ上此證書ヲ付與スル者也
明治年月日

廳府縣領事館測度員官氏名

汽船 船籍證書

番本號船	信字號	船名	船籍港	本船管轄地名	甲板層數	櫓數	裝具置	船體材料	船骨材料
形船首ノ	形船尾ノ	本船原名	製造年	製造地	汽缸及種類	推進器種類	馬力	主船	
<p>尺度 上甲板ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル長 船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル幅 船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底内板ニ至ル深</p> <p>噸數 量噸甲板下部ノ噸數 量噸甲板上諸部ノ噸數 内譯 甲板間ノ場所 船尾室 回室 其他ノ場所 總噸數 除去ノ噸數 乗組人常用室 存辦噸數</p> <p>右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍原簿へ登記ノ上此證書ヲ付與スル者也 年月日 遞信省</p>									

帆船 船籍證書

番本號船	信字號	船名	船籍港	本船管轄地名	甲板層數	櫓數	裝具置	船體材料	船骨材料
形船首ノ	形船尾ノ	本船原名	製造年	製造地					
<p>尺度 上甲板ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至ル長 船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ至ル幅 船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底内板ニ至ル深</p> <p>噸數 量噸甲板下部ノ噸數 量噸甲板上諸部ノ噸數 内譯 甲板間ノ場所 船尾室 回室 其他ノ場所 總噸數 除去ノ噸數 乗組人常用室 存辦噸數</p> <p>右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍原簿へ登記ノ上此證書ヲ付與スル者也 年月日 遞信省</p>									

(第十一號)

汽船 船籍 證書

假 本船名	船籍港	船名	船首ノ 形狀ノ	船體ノ 材料ノ	裝具ノ 器具ノ	櫓ノ 數	甲板ノ 層數	本船名
本船原 名	船尾ノ 形狀ノ	船首ノ 形狀ノ	船主	公力稱	推進器 ノ種類	汽機及 ノ種類	製造年 月及日	造船工 長
尺 度 上甲板ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側 ニ至ル長 船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外 側ニ至ル幅 船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底内板ニ至ル 深 噸 數			噸 數 最噸甲板下部ノ噸數 最噸甲板上部ノ噸數 甲板間ノ場所 船尾室 圓室 其他ノ場所 噸數 除去ノ噸數 機房室 乘組人常用室 右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍規則第五條ニ 依リ此證書ヲ付與ス但此證書ハ明治二 月 日ヲ限リ無効タルヘシ					
			年 月 日 廳 府 縣 日本領事館					

(第十號)

日本 船形 本籍 船籍 證書

船籍港	船名	船主	工造 長	原本 名	製造年 月及日	櫓ノ 數	本船名	船籍港	船名
本船原 名	船尾ノ 形狀ノ								
船首材ノ外部ヨリ船尾柁柄ニ至ルノ長 中央船梁ニ沿ヒ外板ヨリ外板ニ至ルノ幅 中央船梁上面ヨリ船底ニ至ルノ深 石 噸 何 石 内 船艙上部ノ石噸 船艙下部ノ石噸 右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍原簿ヘ登記ノ 上此證書ヲ付與スル者也 年 月 日 廳 府 縣									
尺 度 上甲板ニ於テ船首ノ外側ヨリ船尾柱ノ外側ニ至 ル長 船ノ中央正甲板上面ニ於テ外板ノ外側ヨリ外側ニ 至ル幅 船ノ中央ニ於テ正甲板下ヨリ船底内板ニ至ル									

帆船 船籍證書

甲板層數	櫓ノ數	索具	材料	船體材料	船骨材料
製造年及月地名			船主		
造船工場			船舶下部ノ噸數		
母噸			右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍規則第五條ニ依リ此假證書ヲ付與ス但此證書ハ明治		
甲板上部ノ噸數			年		
甲板間ノ噸數			月		
艙室			日		
其他ノ場所			年		
總噸數			府 廳		
除去ノ噸數			日本領事館		
乗組人 常用室					
存辦噸數					

(第十二號)

假船籍證書 本日船形

船名	船籍港	本船名	船名	製造年及月地名	船主
尺 度					
船首材ノ外部ヨリ船尾柁柄ニ至ルノ長					
中央船梁ニ沿ヒ外板ヨリ外板ニ至ルノ幅					
中央船梁上面ヨリ船底ニ至ルノ深					
右ニ記載スル要件ヲ查明シ船籍規則第五條ニ					
何石					
内					
船給上部ノ石數					
船給下部ノ石數					

工造 長船	船主	依リ此假證書ヲ付與ス但此證書ハ明治
		年月日
		府 廳
		日本領事館

船籍證書ヲ要セサル船舶報告

明治二十三年十一月十五日
 逕信省訓令第六號北海道廳府縣
 來明治二十四年ヨリ船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件左ノ通定ム
 但明治十五年六月 農商務省第十一號達同十六年十月 逕信省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス
 一 船籍證書ヲ要セサル西洋形船舶日本形船(五十石未滿ハ除ク)ハ毎年十二月三十一日ノ現數ヲ第一號及第二號書式ニ依リ翌年二月十五日限リ當省ヘ報告スヘシ
 一 前項ノ船舶ニシテ新造、解撤、賣買ニ係ラタル具數ハ每一箇年分取纏メ第三號及第四號書式ニ依リ前項ト同時ニ當省ヘ報告スヘシ

(書式第一號)

船籍證書ヲ要セサル西洋形船舶表(十二月三十一日現數)

船名	船籍港	船質	櫓數	索具ノ裝置
何々丸	何國何郡何港又ハ何町村	鐵又ハ木	何本	ブルツク、スクーナー、カッタ、ネル、ブツ

尺	度	長	曲尺何尺何寸
深	幅	同	同
製造地名	何國何郡何市何町	同	同
製造年月	何年何月	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町
噸噸數	何噸	何噸	何噸
登簿噸數	何噸	何噸	何噸
公稱馬力	何馬力	何馬力	何馬力
船主氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名
船主族籍住所	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町

(風帆船ハ馬力ノ項ニ斜線ヲ施スヘシ)

(書式第二號)

船籍證書ヲ要セサル日本形船舶表(十二月三十一日現數)

石	噸	噸	噸	噸
五十石以上	五十石	噸	噸	噸
百石未満	以上石噸ヲ異ニスル毎ニ別記スヘシ	計	何噸	何噸
合計		計	何噸	何噸

百石以上	百	石	何	噸
百五十石未満	(同)	前	何	噸
百五十石以上	百五十石	計	何	噸
(船籍證書ヲ要セサルモノ)	(同)	前	何	噸
合計		計	何	噸

(書式第三號)

船籍證書ヲ要セサル西洋形船舶新造、解撤、賣買、員數表(毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル)

新造ノ部		解撤ノ部		買入ノ部	
船名	登簿噸數	船名	登簿噸數	船名	登簿噸數
何々	何噸	何々	何噸	何々	何噸
公稱馬力	製造年月	公稱馬力	製造年月	公稱馬力	解撤年月
何馬力	何年何月	何馬力	何年何月	何馬力	何年何月
何國何郡何市何町	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町	何國何郡何市何町
何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名	何ノ誰又ハ會社若クハ管理人ノ氏名
何氏	何氏	何氏	何氏	何氏	何氏
何名	何名	何名	何名	何名	何名

船名	登簿噸數	公稱馬力	賣主氏名	買入年月	船主住所	氏名
何々々々々々 (改稱シタルモノハ其舊名ヲ併記スヘシ)	何	何馬力	外國人ハ其國名氏名 內國人ハ其實姓氏名	何年何月	同前	同前
賣却ノ部	名	登簿噸數	公稱馬力	買主氏名	賣却年月	船主住所
何々々	九何	噸何馬力	外國人ハ其國名氏名 內國人ハ其實姓氏名	何年何月	同前	同前

(風帆船ハ馬力ノ項ニ斜線ヲ施スヘシ)

(書式第四號)

船籍證書ヲ要セサル日本形船(五十石未滿ヲ除ク)新造、解撤、員數表	船籍證書ヲ要セサル日本形船(五十石未滿ヲ除ク)新造、解撤、員數表
(毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル)	(毎年一月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル)

新造	解撤
船數	噸數
何	何
噸	石
何	何
石	噸
何	何
噸	石
何	何
石	噸

〔四〕船籍規則手数料收納委任其取扱手續 明治二十三年十二月二十二日 遞信省訓令第八號 北海道廳府縣
本年十月勅令第二百十九號船籍規則第七條ノ手数料收納ハ北海道廳長官府縣知事ニ委任ス其取扱手續ハ本年當省訓令第三號及左記ノ三項ニ準據スヘシ
一 手数料收納取扱ニ係ル會計規則第九十條第九十一條第一項第九十二條及第百條ノ本廳大臣ノ職務ハ北海道廳長官府

縣知事ニ於テ執行スヘシ

一 船籍證書及價證書ヲ交付セル船舶ハ其船名船主氏名記入ノ仕譯書ヲ毎月收入報告書ト同時ニ當省ヘ差出スヘシ但日本形西洋形ヲ分チ西洋形ハ汽船帆船ヲ別ツヘシ

一 收入科目ハ免許及手数料ノ款手数料ノ項船籍證書手数料ノ目ヲ以テ整理スヘシ

〔五〕船籍規則施行細則施行期限 明治二十三年十二月二十八日 遞信省令第二十四號

本年十月勅令第二百十九號船籍規則施行期限後布相成候ニ付テハ本年十一月當省令第二十號船籍規則施行細則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

〔六〕船籍證書ヲ要セサル船舶報告施行期日 明治二十三年十二月二十八日 遞信省訓令第九號 北海道廳府縣

本年十一月十五日當省訓令第六號船籍證書ヲ要セサル船舶報告ノ件ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス
但明治二十五年十二月三十一日迄ハ従前ノ通り當省ヘ報告スヘシ

第二百 西洋形商船

〔一〕西洋形船舶免狀其船内ニ保存セシム 明治二十三年十月三十一日 遞信省訓令第四號 北海道廳府縣

西洋形船舶免狀ハ明治二十二年第十九號布告ニヨリ航海公証ヲ廢シ授與スルモノ故外國航ノ船舶ハ勿論内國航通ノモノト雖モ各船其船内ニ保存スヘキモノナルニ往々船主ノ許ニ留置船内ニ所持セサルモノ有之不都合ニ付自今右等ノ所爲無之様管下西洋形船舶主ハ船檢説諭スヘシ

第二百一 西洋形船長運轉手機關手免狀

十二年第十九號布告ハ初編第二項三十六ノ但船籍規則施行ノ日ヨリ廢ス

〔一〕西洋形船船長運轉手機關手水火夫等ノ現員調査差出方

明治二十二年五月十八日
遞信省訓令第一號北海道廳府縣

毎年十二月三十一日ニ於ケル西洋形船々長運轉手機關手水火夫等ノ現員ハ明治二十二年以降左ノ報告書式ニ依リ調査シ
翌年二月末日迄ニ當省ヘ提出スヘシ

但明治十八年三月第八號海軍軍務部兩卿連署達ハ自今廢止ス

報告書式

明治二十二年三月三十一日調

船名	船種	船長以下職務	籍氏名	一箇月雇入料年日以下職名
甲種船長若クハ小形船々長免狀	船長	何府縣士族平民	何 誰	何 圓年月日 水火夫長何人
甲種一等運轉手免狀	運轉手	同	同	同 同 同 同
甲種二等運轉手免狀	同	同	同	同 同 同 同
甲種一等機關手免狀	機關手	同	同	同 同 同 同
甲種二等機關手免狀	同	同	同	同 同 同 同
甲種小形船機關手免狀	同	同	同	同 同 同 同
何府縣士族平民 誰	同	同	同	同 同 同 同
若クハ會社名	同	同	同	同 同 同 同
何九	同	同	同	同 同 同 同

以下右ノ振合ニ倣ヒ各船毎乗組人員ヲ列記シ且外國人ハ氏名欄内ニ其國名ヲ記入スヘシ

第二百二 西洋形船海員雇入雇止

〔一〕西洋形船海員雇入雇止手数料ヲ市町村ノ收入トス 明治二十二年六月十日公布

勅令第八十三號

朕西洋形船海員雇入雇止手数料ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年六月十一日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
内務大臣伯爵松方正義
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第八十三號

西洋形船海員雇入雇止規則ニ依リ雇者被雇者ヨリ徴收スル手数料ハ明治二十二年四月以降市町村ノ收入トス但未タ市町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ其實施ノ期ヨリ本令ニ依ルヘシ

〔二〕島嶼ニ於ケル西洋形船海員雇入雇止手数料ヲ町村ノ收入トス 明治二十二年六月十日公布

勅令第十五號

朕西洋形船海員雇入雇止手数料ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十一月一日

内閣總理大臣公爵三條實美
内務大臣伯爵山縣有朋

遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第十五號

西洋形船海員雇入雇止規則ニ依リ雇者被雇者ヨリ徴收スル手数料ハ明治二十二年一月勅令第一號ヲ以テ指定シタル島嶼ニ在テハ東京府管轄小笠原島伊豆七島ヲ除クノ外其町村ノ收入トス

第二百三

特別輸出港規則 明治二十二年七月三十一日公布 法律第二十號

朕特別輸出港規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年七月二十日

内閣總理大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

法律第二十號

特別輸出港規則

第一條 帝國臣民米、麥、麥粉、石炭、硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ左ノ諸港ヲ特別輸出港トス

- 一 伊勢國四日市
- 一 長門國下ノ關
- 一 筑前國博多
- 一 豐前國門司

一 肥前國口ノ津

一 肥前國唐津

一 肥後國三角

一 越中國伏木

一 後志國小樽

一 釧路國釧路 二十三年十二月二十六日法律第七號ヲ以テ釧路ヲ加フ

第二條 前條輸出事業ニ使用スル爲メ外國船ヲ雇入ントスルトキハ大藏大臣へ出願シ外國船雇入免狀ヲ受クヘシ

第三條 特別輸出港ニ於テ船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ外國貿易ノ手續ニ依ルヘシ

第四條 第一條ノ輸出事業ニ使用スル船舶ハ其使用中沿海貿易ヲ爲スコトヲ得ヌ犯ス者ハ五百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處シ雇入外國船ニ在テハ尙ホ第二條ノ免狀ヲ取上クヘシ

第五條 本規則ヲ廢止シ又ハ改正スルトキハ六箇月前ニ公布スヘシ

第六條 本規則施行ニ關スル細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第七條 特別輸出諸港ニ於テ本規則施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔二〕長門國下ノ關外三港ニ於テ特別輸出港規則施行ノ件 明治二十二年八月九日公布

勅令第百四號

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年八月八日

内閣總理大臣伯爵黒田清隆
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四百號

本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年八月十五日ヨリ該規則ヲ施行ス

- 一 長門國下ノ關
- 一 筑前國博多
- 一 肥前國口ノ津
- 一 後志國小樽

(二)伊勢國四日市外四港ニ於テ特別輸出港規則施行ノ件 明治二十二年十月三十一日公布

勅令第四百十四號

朕特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十二年十月三十日

内閣總理大臣公爵三條實美
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四百十四號

本年七月法律第二十號特別輸出港規則第七條ニ據リ左ノ諸港ニ於テハ本年十一月十五日ヨリ該規則ヲ施行ス

- 一 伊勢國四日市
- 一 肥前國唐津
- 一 越中國伏木

- 一 豐前國門司
- 一 肥後國三角

(三)釧路國釧路特別輸出港規則施行 明治二十四年一月二十四日公布

朕釧路國釧路特別輸出港規則施行ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十四年一月二十三日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四百號

明治二十三年十二月法律第七號ヲ以テ特別輸出港ニ加ヘタル釧路國釧路ニ於テハ本年七月一日ヨリ特別輸出港規則ヲ施行ス

(四)特別輸出港施行細則 明治二十二年八月一日

大藏省令第十號

本年七月法律第二十號特別輸出港規則施行細則左ノ通相定ム

特別輸出港規則施行細則

第一條 特別輸出港規則第二條ノ外國船雇入願書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

- 一 國名
- 一 噸數
- 一 仕向先國地名
- 一 外國船雇入免狀ノ期限ハ六箇月以内トス
- 一 船形
- 一 輸出品名
- 一 船長ノ姓名
- 一 外國船雇入免狀ノ期限ハ六箇月以内トス
- 一 船名
- 一 輸出地名
- 一 雇入期限

第二條 外國船雇入免狀ノ期限ハ六箇月以内トス

第三條 外國船雇入免狀ノ期限經過シタル後之ヲ繼續セント欲スル者ハ特別輸出港規則

第二條ニ據リ更ニ免狀ヲ受クヘシ
第四條 船舶ノ出入及輸出品ノ船積ニ關スル事項ハ總テ特別輸出港所在ノ稅關出張所ニ於テ之ヲ管理ス

第二百四

朝鮮國貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸ノ件 明治二十三年三月二十八日公布

勅令第五十四號

朕朝鮮國貿易ニ關スル船舶出入及貨物積卸ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第五十四號

明治二十三年四月一日ヨリ長崎縣下對馬國佐須奈鹿見ノ二港ニ於テ朝鮮國貿易ニ關スル帝國臣民所有ノ船舶ノ出入及貨物ノ積卸ヲ許ス
但該貿易ニ關スル手續ハ明治十六年^{十二}第四十號布告ニ依ルヘシ

第十六類

第一章 民事 登記

第二百五

民法財産編財産取得編債權擔保編證據編頒布 明治二十三年四月二十一日公布

法律第二十八號

朕民法中財産編財産取得編債權擔保編證據編ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

(法文除之)

(一)民法中財産取得編第十三章以下及人事編頒布 明治二十三年十月七日公布

法律第九十八號

朕民法中財産編人事編ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
御名 御璽

明治二十三年十月六日

(法文除之)

第二百六十一 登記法中改正追加

明治二十三年九月二日公布
法律第七十八號

朕登記法中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年九月一日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
内務大臣 伯爵 西郷從道
司法大臣 伯爵 山田顯義
大藏大臣 伯爵 松方正義

法律第七十八號

明治十九年法律第一號登記法中左ノ通改正追加ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ於テ之ヲ爲ス可シ

第八條登記ハ契約者雙方又ハ其代理人登記所ニ出頭シテ之ヲ請求ス可シ

登記ヲ請フ者アルトキハ登記官吏ハ之ヲ受付帳ニ記載シ契約者ヨリ差出シタル書類ノ受取證ヲ下付ス可シ

二十一年勅令
第八十四號
初編第二百
二十一號
第三
十條同勅令第
八十五號
第二百二十
二號
同第八十六
號
同第八十八
號
同第九十號
第七條
七條
七條

登記ヲ爲スニハ登記ノ番號ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ

第九條第一項ノ「命令書」ノ下ニ「又ハ官廳ノ照會書」ノ八字ヲ加フ

第二項ヲ削除シ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ記入ハ裁判所又ハ官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ

第十一條中「出頭シテ」ノ四字ヲ削除ス

第十四條 地所建物船舶ノ賣買讓與ニ付キ登記ヲ請フトキハ契約者雙方出頭シテ其證書ヲ示シ其署名捺印シタル謄本一通ヲ差出ス可シ但第九條第十六條第十七條第十八條及第十

九條ノ登記ニ付テハ證書ヲ示スノ限ニ在ラス

本條ノ謄本ハ登記簿ノ一部トシテ之ヲ添ヘ置ク可シ

證書ニ塗抹改竄アリテ利害關係人ノ承諾シタル證ナク登記官吏ノ求ニ應シ請求者ヨリ之

ヲ説明スルコト能ハサルトキハ登記官吏ハ登記ヲ拒絕スルコトヲ得

第十五條第二項中「親屬」ノ下「又」ノ上ニ「二名以上」ノ四字ヲ加フ

第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ
本條ノ登記ハ其處分ヲ爲シタル官廳ヨリ直ニ之ヲ求ム可シ本項ノ規定ハ第十七條及第十

九條ノ場合ニモ亦之ヲ準用ス

第二十一條第一項
地所建物船舶ノ質入書入ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス

第二十三條 質入書入契約ノ全部若クハ一部ノ解除又ハ變更ニ付テモ亦第十四條ヲ準用ス
第二十八條ニ左ノ一項ヲ加フ

第九條第十六條第十七條及第十九條ノ場合ニ於テ處分ヲ爲シタル官廳ヨリ登記ヲ求ムルニハ登記料ハ登記印紙ヲ請求書ニ貼用シテ其官廳ニ納メシメ官廳ヨリ之ヲ登記所ニ送付ス可シ

第二十九條 第十五條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金三錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ時價相當ノ價格ヲ定メ第二十五條ニ掲クル金額ノ區別ニ從ヒ每一件ニ其登記料ノ五分一ヲ納メシム但一件ニ付金三錢ヨリ下スコトヲ得ス
第十五條第一項ノ場合ニ於テ家督相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルモノニ付テハ讓與ノ登記料ヲ納メシム

第四十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ從來保有セル所有權ヲ明確ナラシメント欲スル者ハ管轄登記所ニ其所有權ノ登記ヲ請フコトヲ得
右ノ登記ヲ請フ者ハ物件ヲ明示シタル請求書ニ其所有權ノ證明書類ヲ添ヘ之ヲ登記所ニ差出ス可シ但其所有權ヲ取得シタルコトヲ證スル證書ヲ其證明書トシテ差出ストキハ第十四條ヲ準用ス

本條ノ登記ニ關シ地所ニ付テハ一筆毎ニ金壹錢ヲ納メシメ建物船舶ニ付テハ一件毎ニ金壹錢ヲ納メシム

第四十一條 登記所ハ初テ登記ヲ爲シタル地所ニ付テハ之ヲ其地ノ土地臺帳所管廳ニ通知シ其所管廳ヨリハ右ノ地所ニ付キ分合筆又ハ地番號及地目ノ變換アル毎ニ之ヲ登記所ニ通知ス可シ

土地臺帳所管廳ハ明治二十二年勅令第三十九號ニ依リ登記所ヨリ所有ノ移轉又ハ質入ニ付キ通知ヲ受ケタル地所ニ關シ前項ノ變換アルトキモ亦通知ヲ爲ス可シ
登記所ハ前二項ノ通知ニ依リテ登記簿ニ其變換ノ旨ヲ追記ス可シ

〔一〕登記法取扱規則 明治二十三年十月二十九日
明法省令第七號

本年法律第七十八號ヲ以テ登記法中改正追加セラレタルニ付明治十九年省令第五號ヲ廢シ登記法取扱規則左ノ通之ヲ定ム(舊式離形ハ別ニ頒ツ)(離形略ス)

登記法取扱規則

第一章 地所建物船舶ノ登記

第一節 登記簿

第一條 登記簿ハ地所建物船舶ヲ分チ別冊ト爲ス可シ

登記簿ハ前項ノ外町村毎ニ冊ヲ分テ之ヲ設ク可シ但事件寡少ナル町村ニ付テハ數町村ヲ合セ一冊ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ各町村毎ニ見出ヲ付ス可シ

市及ヒ事件夥多ナル町村ニ付テハ大字其他從前ノ區畫ニ從ヒ分冊スルコトヲ得
第二條 登記簿ハ一用紙毎ニ登記物件ノ番號ヲ付シ且其一用紙ヲ表題ケタル所ヲ云フ以下準之 及ヒ甲乙丙ノ三區ニ分チ仍ホ其表題及ヒ各區ヲ數欄ニ分ツモノトス
其表題ハ登記法第七條ノ第一號第二號第三號第四號及ヒ前法第八百二十六條ノ第一號第二號第三號第四號ニ掲ケタル

項目ヲ登記スルノ所トス

其甲區ハ賣買讓與等所有權ノ移轉及ヒ從來保有セル所有權ヲ登記スルノ所トス
其乙區ハ質入書入及ヒ商法第百五十二條ノ船舶ニ對スル債權ヲ登記スルノ所トス
其丙區ハ登記法第九條ニ記載シタル諸件ヲ記入スルノ所トス

船舶登記簿ハ第一號書式ニ進シ地所建物ノ登記簿ハ從前ノ例ニ依ル可シ

第三條 登記簿ハ登記所ノ請求ニ因リ地方裁判所長之ヲ渡スモノトス

第四條 登記簿ハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シテ之ニ職氏名ヲ著シ職印ヲ捺シ且毎葉ニ契印ス可シ

第五條 町村ノ分合アリタル場合ニ於テハ登記所ハ其旨ヲ地方裁判所長ニ申告シ更ニ分合セシ町村ニ對スル登記簿ノ下付ヲ受ク可シ

前項ノ場合ニ於テ舊登記簿其他之ニ屬スル帳簿ハ現狀ノ儘之ヲ保存シ已ニ登記シタル事件ノ變更取消ハ其登記簿ニ登記ス可シ

第二節 登記手續

第六條 登記ヲ請フ者ハ第二號書式ニ準シ登記ノ件目等ヲ記載シ實印ヲ押シタル名刺ヲ登記所ニ差出ス可シ但商法ニ依

リ船舶ノ登記ヲ受クルモノハ明治二十三年省令第八號第五條ニ從ヒ陳述書ヲ差出スヘシ

登記簿ノ原本若クハ抜書又ハ登記簿ノ閱覽ヲ請フ者亦同シ

第七條 後見人ヨリ登記ヲ請フトキハ後見人タルノ證書ヲ登記所ニ差出ス可シ

代人ヲ以テ登記ヲ請フトキハ代理ノ委任狀ヲ付與シ之ヲ登記所ニ差出サレム可シ

第八條 登記所ニ於テハ交付帳簿製シ置キ登記ノ出願若クハ請求等ノ順序ニ從ヒ之ニ其交付事件ヲ記載シ番號ヲ付シ第

三號書式ニ準シ番號ノ受取證ヲ下付ス可シ

第九條 登記官ハ交付番號ノ順次ニ從ヒ願人ヲ取調ヘ證書類ヲ審査シ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

二十三年省令
第八號八四項
二掲ク

第十條 登記簿ニ未タ登記セサル地所建物船舶ニ付キ初テ登記ヲ爲ス場合ニ於テハ先ツ登記簿表題ノ部ニ其物件ヲ記載シ相當區ニ登記ノ手續ヲ爲ス可シ

第十一條 乙區ノ登記ヲ爲ス場合ニ於テ未タ物件及ヒ所有者ノ登記アラサルトキハ前條ノ手續ヲ爲シタル上甲區中登記

事由ノ欄内ニ書入若クハ質入ノ登記出願ニ付記載セシ旨ヲ記シ乙區中ニ出願事件ノ登記ヲ爲ス可シ

丙區ノ記入ヲ爲ス場合ニ於テ未タ所有者ノ登記アラサルトキハ前條及ヒ本條前項ニ準シ物件及所有者ノ氏名ヲ記載シ丙區中ニ命令事件ノ記入ヲ爲スヘシ

第十二條 登記物件ノ番號ハ初テ其物件ヲ記載スル毎ニ出願若クハ請求ノ順序ニ從ヒ之ヲ付スルモノトス但其番號ハ町村毎ニ之ヲ區別シテ仍ホ地所建物船舶ヲ區別シテ之ヲ付ス可シ

同時ニ登記ヲ求メ且ツ同一ノ所有者ニ屬スル同種類ノ物件ハ同町村内ニ在リテ且合録ノ爲メ混雜ヲ生スルノ受ナキニ於テハ之ヲ同番號中ニ記載ス可シ若シ其物件多數ニシテ同番號中ニ記載スル能ハサルトキハ所有者ノ意見ヲ聽キ便宜

分割シテ之ヲ次ノ番號中ニ記載スルコトヲ得

第十三條 一番號中ニ登記セシ物件ヲ分チ又ハ一物件ヲ割テ賣買讓與スルトキハ表題部中取消ノ欄内ニ其要領及ヒ第

何號ニ移シタルコトヲ記載シ分割シタル物件ハ未タ登記ヲ爲サヘル用紙ニ記載シテ新番號ヲ付シ且第何號ヨリ移シタルコトヲ付記ス可シ其他ノ手續ハ通常ノ場合ニ同シ

前項ノ場合ニ於テ舊番號中分割セラレタル物件ハ之ヲ抹消ス可シ若シ一物件ヲ割キタルトキハ更ニ殘餘ノ現狀ヲ記載ス可シ

第十四條 數番號ニ登記セシ物件ヲ合併シテ賣買讓與スルトキハ各番號中甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

價入書入若クハ差押等ト爲シタルコトヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十五條 數番號ニ屬スル物件ヲ合併シテ質入書入ト爲ストキハ各番號中乙區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 登記法第二十二條ノ場合ニ於テハ乙區登記事由欄内ニ第二債主ニ於テ其質入又ハ書入中ニ係ルコトヲ了知セ

第十六類 第一章 民事 登記

ル旨ヲ明記シテ登記ヲ爲ス可シ

第十六條 物件ヲ分割シテ賣買譲渡スル爲メ第十一條ノ手續ヲ爲ス場合ニ於テ新ニ番號ヲ付スヘキ物件既ニ舊番號ノ物件ト共ニ賣入買入ト爲リタルモノナルトキハ新番號ノ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ第何號ヲ云フノ物件ト連帶シテ書入若クハ買入トナリタルモノナルコトヲ付記ス可シ

其書入若クハ買入ヲ取消シタル場合ニ於テハ前項ノ付記ヲ抹消ス可シ

第十七條 買入書入ノ權ヲ賣買譲渡シ相續ノ場又ハ他人ニ於テ負債者ノ負債ヲ辨濟シテ債主ノ權ニ代ル等權利ノ他人ニ移リタル場合ニ於テ登記ヲ出願シタルトキハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

買入書入ノ債主債主ト協議ノ上買入書入トナシタル物件ヲ引取リ所有者ト爲リタル場合ニ於テハ乙區取消ノ欄内及ヒ甲區登記事由ノ欄内ニ其旨ヲ登記ス可シ

第十八條 買入ヲ變更シテ書入ト爲シ書入ヲ變更シテ買入ト爲シ又ハ利息期限等ヲ變更シタル場合ニ於テハ之ヲ乙區變更ノ欄内ニ登記スヘシ

前法第八百五十四條ノ裏書讓渡モ亦タ乙區變更ノ欄内ニ登記ス可シ

第十九條 登記法第十五條及ヒ第四十條ノ場合ニ於テ登記ヲ爲ス可キ土地若シテ華族世襲財産ナルトキハ請求者ノ申出ニ依リ世襲財産タル旨ヲ表題部中物件ノ側ニ記入ス可シ

第二十條 登記法第四十條ノ場合ニ於テハ甲區登記事由欄内ニ從來保有スル所有權ヲ明確ナラシメンカ爲メ登記出願ニ付何々ノ證明書類ニ依リ登記スル旨ヲ記載シ價格及權利移付者ノ欄ヲ抹消ス可シ

第二十一條 従前ノ公證簿ニ登記セシ書入買入ノ取消ヲ願出タルトキハ手数料ヲ徴收セス萬手續ニ依リ之ヲ終結ス可シ若シ變更ノ登記ヲ願出タルトキハ第十一條ノ例ニ準シ所有者及ヒ原契約ヲ登記シタル上乙區變更ノ欄内ニ其登記ヲ爲ス可シ此場合ニ於テハ變更ノ手数料ヲ徴收ス可キモノトス

第二十二條 登記ヲ受タル物件ノ全部若クハ一部毀壞焼失流亡等ニ依リテ消滅シタルトキハ其物件ノ所有者ヨリ登記ヲ

爲シタル登記所ニ書面ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ但其物件買入書入又ハ差押等ニ係ルトキハ債主又ハ差押等ノ權利者ノ連印ヲ要ス

地目變換ノ場合ニ於テモ亦前項ノ例ニ準レ届出ヲ爲ス可シ

第二十三條 前條ニ依リ毀壞焼失流亡等ノ届出アリタルトキハ表題部中取消欄内ニ之ヲ登記シ其物件ハ抹消ス可シ若シ殘餘アルトキハ第十三條第二項ノ例ニ準シ其現狀ヲ記載ス可シ

地目變換ヲ届出タルトキハ表題部中記載シタル地目ヲ更正シ其旨ヲ付記ス可シ

前二項ノ場合ニ於テハ手数料ヲ徴收ス

登記法第四十一條ニ依リ土地賣買所管廳ヨリ變換ノ通知ヲ受タルトキモ亦タ表題部ノ物件ニ付テ訂正ヲ爲ス可シ

第二十四條 船舶ノ登記ニ付テハ明治二十三年勅令第二百十九號船籍規則第一條ニ依リ定メタル船籍港ヲ管轄スル登記所ヲ以テ定機場ノ登記所トス

第二十五條 前法ニ依リ爲スヘキ船舶ノ登記ハ明治二十三年省令第八號第六條第七條及ヒ第十條ヲ適用ス

第二十六條 鑑札アル船舶ニ付始メテ登記ヲ請フモノハ其鑑札ヲ示ス可シ但船舶ニ釘付シタルモノハ此限リニ在ラス

前法ニ依リ船舶ノ登記ヲ請フモノハ船籍證書其他前法ノ規定ニ從ヒ必要ナル證明書類ヲ示ス可シ

第二十七條 登記所ノ同管内ニ在リテ船舶ノ定機場ヲ更改シタルトキハ登記ノ變更ヲ請フ可シ其登記所ハ轉入セシ町村ノ登記簿ニ其物件及ヒ所有者ヲ轉寫シ表題部中物件ヲ記載シタル側ニ某町村ヨリ轉入セシ旨ヲ付記シ若シ船舶既ニ書入買入又ハ差押等トナリタルモノナルトキハ其旨ヲモ付記ス可シ轉出セシ町村ノ登記簿ニハ其表題部中取消ノ欄内ニ轉出ノ旨ヲ記載シテ其物件ハ抹消ス可シ

若シ他ノ登記所ニ屬スル町村ニ轉入スルトキハ原登記所ヨリ登記簿ノ按書ヲ受ケ之ヲ轉入地ノ登記所ニ差出シ其登記簿ヲ可シ

第十六類 第一章 民事 登記

廿三年勅令第
二百十九號ハ
第百九十九號ニ
掲ク廿三年勅
令第百九十九
號(第百九十
九ノ一項)ニ
參看

前項ノ例ニ準シ押出ノ旨ヲ記載ス可シ
 前二項ノ場合ニ於テハ登記法第三十條第一號第二號ノ規定ニ依リ變更及ヒ按書ノ手数料ヲ徵收スルモノトス
 第二十八條 建物ニ付キ登記ヲ請フトキハ其圖面ヲ登記所ニ差出ス可シ
 建物ノ圖面ハ邸地ノ形状坪數(段別)方位及ヒ建物ノ形状間尺位置等ヲ記シ登記ヲ受ク可キ建物ノ圖ハ墨引墨字ト爲
 シ登記外ナル建物アルトキハ其圖ハ朱引朱字ト爲ス可シ
 建物ノ圖面ニハ登記法第九條第十六條第十七條第十八條第十九條ノ場合ヲ除クノ外結約者雙方之ニ署名捺印ス可シ但
 同第十五條第二項ノ場合ニ於テハ親屬又ハ近隣戸主之ニ連署ス可シ
 地所船舶ニ付キ圖面アルトキモ亦前項ニ定メタル署名捺印若クハ連署ヲ要ス
 第二十九條 登記事件ニ附屬スル圖面アルトキハ登記簿表題中ニ其旨ヲ記載シ其圖面ニ登記物件ノ番號ヲ記シ帳簿ニ編
 入ス可シ
 第三十條 登記ノ爲メ差出シタル原證書ニハ登記簿ノ上登記官吏之ニ登記物件ノ番號及ヒ登記簿ノ旨ヲ記載シ年月日ヲ
 附シ且登記所ノ印ヲ捺シテ受取證持參人ニ其受取證ト引換ニテ還付ス可シ
 前項ノ記載ヲ以テ登記法第二十條ニ定メタル登記簿ノ證トス但此記載ヲ爲スヘキ證書ナキトキハ物件ヲ記シタル書面
 ヲ差出サシメ前項ニ準シ登記簿ノ旨ヲ記入シテ本人ニ下付スヘシ
 第三十一條 登記簿ノ一用紙中或ル欄内更ニ登記ヲ爲ス可キ餘白ナキニ至リタルトキハ其登記簿中未タ登記ヲ爲サハル
 他ノ用紙ニ原番號ヲ轉寫シ之ニ其番號ノ第二ナルコトヲ付記シ原用紙番號ノ下ニハ第一ノ文字ヲ追加シ且第何冊何丁
 ニ續ク旨ヲ記載ス可シ第三以下ノ欄ヲ設クルトキ亦此例ニ準ス
 前項ノ場合ニ於テ新用紙ニハ原用紙ニ記載アル登記ノ順番ヲ續續シテ之ヲ付ス可シ
 第三十二條 登記簿ニ登記ヲ爲ス字畫ハ鮮明ナルヲ要ス又金錢物品ノ數量ヲ記スルニハ必ス壹貳叁拾ノ文字ヲ用フ可シ
 登記ヲ爲スニハ之ヲ墨書ス可シ

文字ハ之ヲ改置ス可カラス若シ削除スルトキハ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存ス可シ
 訂正挿入削除等ヲ爲シタルトキハ登記官吏之ニ認印ス可シ
 本條ノ規定ハ交付帳ニモ亦之ヲ適用ス

第三節 帳簿及ヒ附本按書

第三十三條 登記簿及ヒ交付帳ノ外登記所使用ノ帳簿ハ左ノ如シ

- 一 登記見出版
- 二 證書附本綴込帳
- 三 附本下付帳
- 四 登記簿下付帳
- 五 圖面綴込帳
- 六 請求書綴込帳 裁判所又ハ行政廳ノ登記
請求書ヲ綴込ミタルモノ
- 七 登記願書綴込帳 登記法第十五條第二項
ノ書面ヲ綴込タルモノ
- 八 證明書綴込帳 登記法第四十條ノ證明
書類ヲ綴込タルモノ
- 九 名刺綴込帳
- 十 代理及ヒ後見ノ證書綴込帳

附注ニ依リ船舶登記ヲ受クル爲メ差出タル書類ハ明治二十三年省令第八號第八條三從ヒ之ヲ保存ス可シ
 第三十四條 登記見出版ハ地所建物ニ付テハ地所ノ番號ニ依リ船舶ニ付テハ十五噸以上及ヒ百五十石以上ハ其船名ニ依
 リ其以下ノモノハ艦札ノ番號ニ依リ登記物件ノ番號ヲ付スル毎ニ各番號ヲ記入スルモノトス
 同番號ノ地所ニシテ收筆ニ分レタルモノニ付テハ其分筆ノ爲メニ付シタル符號ヲ番地ノ下ニ記載ス可シ
 同番地ニアル建物ニシテ棟ヲ異ニシタルトキハ建物ノ番號ヲ番地ノ下ニ記載シテ之ヲ區別ス可シ
 番地若クハ棟ヲ同フスル建物ヲ分割シテ賣買讓與質入書入ト爲ストキハ其各部ノ建物ニ子丑寅卯ノ符合ヲ付シテ之ヲ

區別ス可シ

前三項ノ區別ハ登記簿ニモ亦之ヲ記載ス可キモノトス

第三十五條 登記ヲ請フ爲メ登記法第十四條第二十一條第一項及ヒ第二十三條ニ依リ差出シタル證書ノ謄本ハ甲部乙部ニ別テ綴込ミ各箇ニ番號ヲ付シ且登記簿ノ市町村名冊號及ヒ丁數ヲ記ス可シ其登記簿ニハ相當欄内ニ何部謄本綴込帳簿何號ト記入スヘシ

甲部謄本綴込帳ハ登記簿中甲區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス
乙部謄本綴込帳ハ登記簿中乙區ノ登記ニ關スルモノヲ保存スルモノトス
謄本綴込帳ハ一箇年ヲ以テ一冊ト爲シ其表紙ニ明治何年分ト記ス可シ但事件夥多ナル登記所ニ在リテハ第一第二ノ符號ヲ以テ一箇年分ヲ分冊シテ綴込ムコトヲ得

第三十六條 登記簿ノ證ヲ請フ者アルトキハ其願書ニ記載アル物件ヲ登記簿ト照査シタル上登記簿ノ旨ヲ朱記シ登記簿下付帳ト刺印シテ之ヲ下付スヘシ

第三十七條 登記ニ關スル帳簿ハ常ニ書籍ニ載メ其封緘ヲ嚴ニシ非常持返ノ準備ヲ爲シ勉テ紛亂毀損ヲ豫防ス可シ
登記ニ關スル帳簿ハ之ヲ保存スル爲メノ外登記所外ニ出スコトヲ得ス

第三十八條 登記簿ノ閱覽ヲ請フ者アルトキハ官吏ノ職務ヲ以テ閱覽スルノ外吏員ノ面前ニ於テ之ヲ閱覽セシム可シ

第三十九條 登記簿ノ謄本若クハ拔書ヲ請フ者アルトキハ其用紙ニ謄寫シ謄本下付帳ト刺印シテ之ヲ下付ス可シ但手数料ヲ領收セサル前ニ謄本又ハ拔書ヲ下付スルコトヲ得ス

第四十條 謄本ハ登記簿用紙ノ全部ヲ遺漏ナク謄寫シテ之ヲ作ル可シ
拔書ハ請求アル部分ノミ登記簿ヨリ摘寫シテ之ヲ作ル可シ

第四十一條 登記所ニ出頭セスシテ謄本又ハ拔書ヲ請フ者アルトキハ手数料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ之ヲ送付ス可シ

第四節 登記料手数料及ヒ評價費用

第四十二條 登記印紙ハ名刺又ハ陳述書ニ之ヲ貼用ス可シ但登記官吏ハ貼用印紙ノ過不足ヲ調査シタル後之ヲ消印セシムルコトヲ得

第四十三條 登記法第三十二條ニ依リ評價ヲ要スル場合ニ於テハ登記料ヲ納ムル者ヨリ登記所ノ見積タル費用金額ヲ豫納ス可シ

第四十四條 登記所ニ於テハ評價人ヲシテ速ニ物件ノ所在ニ就キ價格ヲ評定シ其評價書ヲ差出サシム可シ
評價人中ノ一名意見ヲ異ニスルトキハ他ノ二名ノ意見ニ依リ價格ヲ定ム可ク若シ各自意見ヲ異ニスルトキハ更ニ評價人ヲ擧定ス可シ

第四十五條 登記法第三十三條ニ依リ評價ノ費用ヲ本人ニ負擔セシム可キトキハ豫納金ヲ以テ之ヲ支辨シ殘額アルトキハ之ヲ還付ス可ク不足スルトキハ納完スルマテ登記ヲ爲ス可カラズ

第二章 特許意匠及ヒ商標ノ登記

第四十六條 特許意匠及ヒ商標ノ登記ハ農商務省特許局ノ通知ニ依リ第四號書式ニ準シ之ヲ爲スモノトス

第四十七條 明治二十三年十一月一日以後ニ特許意匠及ヒ商標ノ登録ヲ受ケ又ハ賣與讓與共有書入ヲ爲シタル者其居住地ヲ轉スルトキハ從前ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ自身ニテ又ハ郵便ヲ以テ其旨ヲ届出ツ可シ
前項ノ届出アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ謄本ヲ作リ之ヲ轉住地ノ登記所ニ送付シ登記簿ニ轉出ノ旨ヲ記載ス可シ

其送付ヲ受ケタル登記所ハ其謄本ニ依リ登記簿ニ登記ヲ爲シ且轉入シタル旨及ヒ其年月日ヲ附記ス可シ

附則

第四十八條 第三條第四條第三十二條第三十七條第三十八條第三十九條及第四十條ハ本章ノ登記ニモ之ヲ適用ス

附則

第十六類 第一章 民事 登記

第四十九條 既ニ登記簿ニ登記シアル船舶ニ付商法第八百二十五條及ヒ商法施行條例第二十九條ニ依リ登記ヲ請フモノアルトキハ登記官吏ハ其登記簿ノ物件欄内ノ餘白ニ商法第八百二十六條ニ規定シタル事項ヲ追記シ年月日ヲ付シ署名捺印ス可シ

〔二〕商業及船舶ノ登記ニ關スル件

明治二十三年七月十七日公布
勅令第三百三十三號

朕商業及船舶ノ登記ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

司法大臣伯耆山田顯義
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百三十三號

第一條 商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ

第一 商號、後見人、未成年者、婚姻契約及ヒ代務ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ各金三十拾錢

其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同シ

第二 會社ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ合名會社ニ付テハ金六圓合資會社株式會社ニ付テハ各金拾圓

其變更又ハ追加ノ登記公告ハ每一件ニ付金三十拾錢

第三 登記簿ノ閱覽ニ付テハ金拾錢

第四 登記簿ノ謄本ハ用紙壹枚ニ付金拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ壹枚トシ十一行以上ハ壹枚十行以下ハ半枚トス

第二條 商法第八百二十五條ノ登記ニ付テハ金三圓ヲ納ムヘシ

商法第八百二十九條ニ定メタル變更ノ附記ニ付テハ金拾五錢ヲ納ムヘシ

〔三〕商業及船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則

商法ノ規定ニ依リ商業及船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則左ノ通之ヲ定ム

(書式雛形ハ別ニ頒ツ)(雛形略ス)

第一條 商法十八條ノ商業登記ニ付テハ各登記所ニ左ノ簿冊ヲ備フ可シ

- 第一 商號登記簿
- 第二 後見人登記簿
- 第三 未成年者登記簿
- 第四 婚姻契約登記簿
- 第五 代務登記簿
- 第六 合名會社登記簿
- 第七 合資會社登記簿
- 第八 株式會社登記簿

第二條 商法第八百二十五條第八百五十二條及ヒ第八百五十七條第二項ノ登記ハ商法及ヒ登記法ノ規定ニ依リ船舶登記簿ニ之ヲ爲ス船舶登記簿ノ雛形ハ登記法ニ關スル省令ニ於テ之ヲ定ム

第三條 商業登記簿ハ附録第二號乃至第九號ノ雛形ニ依リ地方裁判所ニ於テ之ヲ調製スヘシ
明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第三條第四條ハ本令ニ之ヲ適用ス

第四條 登記所ニ於テハ會社印鑑帳及ヒ登記見出帳ヲ調製シ印鑑帳ニハ商法第七十一條ニ依リ差出シタル印鑑ヲ貼付シ登記官吏之ニ契印シ見出帳ニハ商號ニ依リ登記ヲ區別シ以テ索引ノ便ニ供ス可シ

第五條 登記ノ届出ハ陳述書ヲ以テ之ヲ爲シ其陳述書ニハ登記ノ事項ヲ証スル爲メ必要ナル書類ヲ添ヘ左ノ諸件ヲ記載

シ當事者之ニ署名捺印ス可シ

第一 登記ヲ受ク可キ事項

第二 當事者ノ住所職業氏名

第三 年月日

第四 登記所ノ名

登記法第八條第二項及七明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第七條第二項ハ本令ニモ之ヲ適用ス

第六條 登記ノ届出ハ登記官吏ニ於テ陳述書ヲ受理シタル時ヲ以テ之ヲ終リタルモノトス

登記法第八條第一項ノ受取證ヲ下付シタルトキハ陳述書ヲ受理シタルモノトス

第七條 登記官吏ニ於テ登記ノ届出ヲ不適當ト認ムルトキハ當事者ヲシテ改正セシム可シ之ヲ改正シ得ヘカラサル場合又ハ改正セサル場合ニ於テ登記ヲ拒ムトキハ理由ヲ付シタル命令書ヲ發ス可シ

第八條 登記ヲ受クル爲メ提出シタル書類ニシテ登記所ニ留置ク可キモノ殊ニ登記陳述書及ヒ商法第六十八條ニ掲ケタルモノハ之ニ登記簿ノ冊號及ヒ其下收ヲ記シ登記簿ノ區別ニ從ヒ各箇ニ綴込ミ之ヲ保存ス可シ

第九條 登記ハ雛形ニ示ス所ノ例ニ依リ相當欄内ニ之ヲ爲シ年月日ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印ス可シ

凡テ豫備欄内ニハ商法第七十九條第三百三十八條及ヒ第六十九條ニ列舉シタル以外ノ事項ヲ登記スルモノトス

會社ノ支店登記ノ豫備欄内ニハ合名會社ニ在テハ本店ノ業體 商號 營業所ヲ登記シ合資會社及ヒ株式會社ニ在テハ右ノ外會社資本ノ總額ヲ登記ス可シ

第十條 公告ハ登記ヲ爲シタル登記所ノ名ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

公告ヲ爲ス可キ新聞紙ハ登記所所在地ニ於テ發行スルモノ若シ其地ニ於テ發行スルモノナキトキハ登記所ヲ管轄スル區裁判所所在地ニ於テ發行スルモノタル可シ

若シ其地ニ於テ發行スル新聞紙ナキトキハ左ノ場所ニ掲示シテ公告ニ代ユ可シ

第一 區裁判所ノ揭示場

第二 其地ニ於ケル人民集會場所

登記所ハ新聞紙發行入ト一曆年ノ間商業登記ノ公告ヲ委託スル約定ヲ爲シ陳メ其旨ヲ公告シ置ク可シ

第十一條 明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第三十一條第三十二條ハ本令ニ之ヲ適用ス

登記ノ變更ニ依リ削除ス可キ原登記ハ其例ニ朱線ヲ畫ス可シ

第十二條 商法第八百二十七條ノ船舶登記證書及ヒ同第八百五十四條ノ登記證書ハ附錄第十號及ヒ第十一號ノ雛形ニ依リ之ヲ調製ス可シ

第十三條 登記簿ハ何人ト雖モ之ヲ閱覽スルコトヲ得ルモノトス其閱覽ハ更員ノ面前ニ於テ之ヲ爲サレム可シ

登記簿ノ謄本ヲ請フ者アルトキハ謄本ノ末尾ニ原登記ト相違スルコトナキ旨ヲ認證シ年月日ヲ記シ登記官吏之ニ署名捺印シテ交付ス可シ

選隔ノ地ヨリ謄本ヲ請フ者アルトキハ謄本手数料ノ外郵送料ヲ前納スルニ於テハ亦之ヲ送付ス可シ

第十四條 商業登記ニ關スル登記所ハ東京市ニ在テハ京橋區區裁判所トス

第十五條 明治二十三年勅令第三百三十三號ニ定メタル商業及船舶ノ登記公告手数料ハ登記印紙ヲ陳述書若シ陳述書アラサルトキハ明治二十三年司法省令第七號登記法取扱規則第六條ニ依リ名刺ニ貼付スヘシ

今般法第七十八號ヲ以テ登記法中改正相成候ニ付明治二十一年十月本省令第十三號ヘ左ノ二項ヲ追加ス

〔四〕登記印紙規則中追加 大藏省令第二十六號

登記印紙ノ定例 印紙ノ種類

一 壹 錢 茶褐色

一三 錢 茶褐色

〔五〕特許意匠及商標ノ登記 明治二十三年十月二十四日

農商務省告示第九號

第十六類 第一章 民事 登記

七百三

本年九月法律第七十八號ヲ以テ登記法第一條ニ追加規定ノ農商務省特許局ニ於テ登録シタル特許意匠及商標ノ登記ハ常省特許局ヨリ本人ノ居住地ヲ管轄スル登記所ニ通知シテ之ヲ爲スヘキニ付本人ニ於テ其登記ヲ登記所ニ請求スルヲ要セス

〔六〕一筆ノ土地ニシテ之ヲ分合シ賣買讓與スルモノ登記方明治二十二年十一月十二日
司法省訓令第十三號始掛裁判所治安裁判所

一筆ノ土地ニシテ之ヲ分合シ賣買讓與スルモノハ明治二十年大藏省訓令第二十五號ニ依リ行政廳ノ分合處分ヲ經タル上登記ヲ爲スヘキモノトス
但本訓令ニ抵觸スル指令内訓ハ之ヲ取消ス

〔七〕一筆ノ土地ヲ分合シテ賣買讓與質入ヲ爲サントスルモノ其登記請求前ノ手續明治二十二年十一月二十五日
大藏省訓令第六十七號府縣(沖繩縣ヲ除ク)
一筆ノ土地ヲ分合シテ賣買讓與質入ヲ爲サントスルモノハ其登記請求前ニ於テ明治二十年四月當省訓令第二十五號ノ手續ヲ爲サシムヘシ

〔八〕大林區署ニ於テ不動産ノ登記要求方明治二十二年十二月二十六日
農商務省訓令第四十二號大林區署
各大林區署ニ於テ不動産ノ登記ヲ要スルトキハ其大林區署用トシテ其登記ヲ求ムヘシ

〔九〕土地臺帳規則第三條ニ依リ登記ヲ爲シタルトキ通知日限明治二十二年五月七日
司法省訓令第三號
本年三月勅令第三十九號第三條ノ通知ハ登記ヲ爲シタル日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スヘシ
但地租毎納期終盡ノ前十日以内ハ其都度通知ヲ爲スヘシ

勅令第三十九號
八月初編第六十一ノ一項ニ掲ク

第十七類

第一章 商事

第二百七 商法明治二十三年四月二十六日公布
法律第三十二號

朕商法ヲ裁可シ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年三月二十七日

(法文除之)

〔一〕商法施行條例明治二十三年八月八日公布
法律第五十九號

朕商法施行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月七日

法律第五十九號

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

商法施行條例

第一條 商法第二十六條、第二十九條及ヒ第二百十條ニ定メタル一地域トハ各市町村ノ

第十七類 第一章 商事

一區域ヲ謂ヒ市町村制ヲ行ハサル地方ニ在テハ從來ノ宿驛町村等ノ一區域ヲ謂フ
 一地域内ニ二箇以上ノ區裁判所アルトキハ其内一箇所ヲ以テ登記簿ヲ取扱フ所トス其
 裁判所ハ司法大臣之ヲ指定ス

第二條 會社ニ非スシテ商業ヲ營ム者ハ其商號ニ會社ノ文字ヲ用ユルコトヲ得ス又從來
 之ヲ用ユル者ハ商法實施ノ日ヨリ三個月内ニ之ヲ改ム可シ

前項ノ規定ニ違フ者ハ地方裁判所ノ命令ヲ以テ二十圓以下ノ過料ニ處ス

第三條 商法第百五十九條、第百六十六條、第百六十八條、第二百二十二條ノ規定ニ依リテ
 官廳ニ差出ス書類及ヒ展閱ニ供スル書類ハ公證人ノ認證ヲ受ケタル謄本ヲ以テスルコ
 トヲ得

公證人謄本認證ノ依頼ヲ受ケタルトキハ一件ニ付キ金拾錢ノ手数料若シ認證ト共ニ謄
 寫ノ依頼ヲ受ケタルトキハ公證人規則第六十五條ノ謄本手数料ヲ受クルコトヲ得

第四條 商法第二百二十二條ニ依リ諸書類ノ展閱ヲ求ムル者アルトキハ其請求者ヨリ一
 人ニ付一日五十錢以下ノ手数料ヲ受クルコトヲ得

第五條 本條例發布前ヨリ既ニ設立シタル各會社ハ商法實施ノ日ヨリ六個月内ニ商法第
 七十八條、第百二十八條、第百六十八條ニ準シテ登記ヲ受ク可シ之ヲ怠リタルトキハ商
 法第二百五十六條ノ過料ニ處シ且地方裁判所ノ命令ヲ以テ其營業ヲ差止ム但其命令ニ
 對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

第六條 前條ノ期限内ニ登記ヲ受ケサル既設會社ハ其期限經過ノ時ヨリ第三者ニ對シテ
 會社タル効ヲ失フ

第七條 商法第八十一條及ヒ第八十二條ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第八條 既設會社ハ從來ノ商號ヲ續用スルコトヲ得但商法第百十三條及ヒ第百三十九條
 第二項ノ規定ハ商法實施ノ日ヨリ三個月ノ後既設會社ノ商號ニモ之ヲ適用ス

既設會社ノ商號ニハ其會社ノ種類ニ從ヒ合名會社合資會社又ハ株式會社ノ文字ヲ附ス
 可シ

第九條 既設合名會社ハ其社員ノ數商法第七十四條ノ定員ニ超ユルモ其現社員ノ數ニ依
 ルコトヲ得但定員以下ニ減シタル場合ニ於テハ更ニ増員シテ其定員ニ超ユルコトヲ得
 ス

第十條 既設株式會社ハ商法第百五十六條ノ免許ヲ受クルコトヲ要セス

既設株式會社ハ商法實施ノ日ヨリ六個月内ニ地方長官ヲ經由シテ定款ヲ主務省ニ差出
 シ其定款ノ認可ヲ受ク可シ但其定款ニ法律命令ニ反スル事ヲ掲ケタルモノハ之ヲ改正
 スルニ非サレハ認可スルノ限ニ在ラス

從來官許ヲ得テ設立シタル株式會社ニハ前項ノ規定ヲ適用セス但開置又ハ人民ノ相對
 ニ任ス等ノ指令ヲ得テ設立シタルモノハ此限ニ在ラス

本條第二項ニ依リ認可ヲ受ク可キ株式會社ニ在テハ第五條ノ登記期限ハ其認可ヲ得タ

ル日ヨリ起算ス

右ノ認可ヲ得タル日ヨリ六个月内ニ登記ヲ受ケサルトキハ其認可ハ効力ヲ失フ

第十一條 既設株式會社ハ其株券ノ金額商法第七十五條ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十二條 既設株式會社ハ其定款ニ於テ第一回ノ株金拂込ヲ四分一以下ニ定メタルトキハ商法第六十七條第二項ノ規定ニ反スルモ其定款ノ定ニ依ルコトヲ得

第十三條 既設株式會社ノ創業ニ付テノ義務及ヒ出費ニシテ會社ノ承認ヲ經タルモノハ第五條ノ登記ヲ受ケサル前ニ於テモ商法第七十一條ノ規定ニ拘ハラズ會社ニ於テ之ヲ負擔ス

第十四條 既設株式會社ノ既ニ發行シタル株券ハ商法第七十六條ニ反スルモノ有ルモ之ヲ改ムルコトヲ要セス

第十五條 既設株式會社ニ於テ株金全額ノ拂込前ニ發行シタル株券ハ其全額拂込ニ至ルマテハ之ヲ假株券ト看做ス

第十六條 既設株式會社ノ株券ニシテ商法實施前ヨリ株式取引所又ハ取引所ニ於テ既ニ賣買シ來リタルモノ及ヒ既ニ債權ノ擔保ニ供シタルモノニ付テハ商法第八十條ノ規定ヲ適用セス

第十七條 既設株式會社ノ株式ノ讓渡人ニ付テハ商法第八十二條ノ規定ハ商法實施ノ

日ヨリ二個年問之ヲ適用セス

第十八條 既設株式會社ニ於テ既ニ其定款ヲ以テ株主ノ議決權ニ制限ヲ立テタルモノハ商法第二百四條ノ規定ニ反スルモ其定款ニ從フコトヲ得

第十九條 商法第七十七條第一項ノ規定ハ既設會社ニ之ヲ適用セス

第二十條 商法及ヒ本條例ニ依リ發スル命令書ヲ送達スル場合ニ於テハ其手續ハ民事訴訟法ノ手續ニ從フ

第二十一條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條、第三百一十一條、第三百三十三條、第二百五十條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ裁判所ニ於テ命令ヲ發スルトキハ當事者ヲシテ説明ヲ爲サシムル爲メ之ヲ裁判所ニ呼出ヌヲ通例トス但當事者缺席スルモ命令書ハ之ヲ發スルコトヲ得

第二十二條 商法第六十七條第二項、第八十一條、第二百二十七條及ヒ第二百六十一條並ニ本條例第二條及ヒ第五條ニ依リ命令ヲ爲ス場合ニ於テハ裁判所ハ豫メ其旨ヲ檢事ニ通知ス可シ

檢事ハ口頭又ハ書面ヲ以テ意見ヲ陳述スルコトヲ得

第二十三條 檢事ハ前條第一項ノ場合ニ於ケル命令ニ付キ其執行ノ責ニ任ス

第二十四條 商法及ヒ本條例ニ依リ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ其期間ハ裁判書ノ送達ヲ受ケタル日ノ翌日又ハ裁判ノ言渡ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ起算シテ七

日トス

第二十五條 前條ニ掲ケタルモノノ外抗告ニ關スル手續ニ付テハ民事訴訟法第四百五十五條、第四百六十條第一項第二項、第四百六十五條及ヒ第四百六十六條第一項第二項第四項ヲ除ク外總テ同法第三編第三章ノ規定ヲ準用ス

第二十六條 外國ニ於テ支拂ヲ爲ス可キ手形ニハ捺印スルコトヲ要セス

第二十七條 商法第七百九十條ニ掲ケタル裁判所役員ハ執達吏トス

第二十八條 商法第八百二十五條ニ掲ケタル十五噸以上ノ船舶中ニハ日本形船舶百五十石以上ノモノヲ包含ス

第二十九條 商法實施前ヨリ既ニ航海ノ用ニ供スル船舶ハ商法實施ノ日ヨリ一个年内ニ商法第八百二十五條ノ手續ヲ爲ス可シ

第三十條 商法第四百九十三條及ヒ第五百十七條ニ國內水上ト稱スルハ川湖港灣ヲ謂フ

第三十一條 遞信大臣ハ其地ノ形狀ト危險ノ程度トニ應シテ適宜ニ港灣ノ區域ヲ定ムルコトヲ得

第三十二條 商法第八百六十七條及ヒ第九百六十六條ニ沿岸航海ト稱スルハ專ラ本邦海岸ニ沿テ航行シ外國ニ至ラサルモノヲ謂フ但本邦ノ版圖ニ屬スル諸島地トノ航行ハ亦沿岸航海ニ屬ス

第三十三條 商法第九百三十六條ニ掲ケタル沿岸小航海ノ區域ハ從來ノ慣習ト海上危險ノ程度トヲ酌量シテ遞信大臣之ヲ定ムルコトヲ得

第三十四條 商法第八百三十六條及ヒ第九百三十四條ニ官ト稱スルハ内國ニ於テハ區裁判所外國ニ於テハ日本領事若シ領事ナキトキハ其地ノ官廳トス

第三十五條 司法大臣ハ各地方裁判所ノ意見ヲ聽キ其所轄地方ノ需用ニ應シテ破産管財人ヲ命シ地方裁判所ハ之ニ依リ破産管財人名簿ヲ作ル可シ

第三十六條 破産管財人タルノ命ヲ受ケタル者ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十七條 破産管財人ノ任期ハ三今年トス但再任セラレルコトヲ得

第三十八條 名簿中ノ破産管財人破産裁判所ヨリ選定セラレタルトキハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ辭スルコトヲ得ス

第三十九條 破産管財人ハ其職務ニ著手スル前公平誠實ニ其職務ヲ執ルコトヲ誓フ可シ

第四十條 破産管財人ハ其擔任スル破産手續中任期滿ツルモ之ヲ終結スルマテ解任スルコトヲ得ス

第四十一條 破産裁判所ハ忌避其他該事件ニ不適當ナルノ理由アリテ名簿中ノ破産管財人ヲ選定ス可カラスト認ムルトキハ他ニ破産管財人ヲ選定スルコトヲ得此場合ニ於テハ直チニ其旨ヲ司法大臣ニ上申ス可シ

前項ノ破産管財人モ名簿中ノ破産管財人ト同一ノ權利及ヒ義務ヲ有ス

第四十二條 職務執行ノ不當又ハ不正ノ爲メ管財人ノ職ヲ解クトキハ破産裁判所ノ公庭ニ於テ其理由ヲ付シテ之ヲ言渡ス可シ

第四十三條 管財人ノ報酬ハ一破産手續ノ全體ニ付キ又ハ收入シタル價額ノ割合ニ應シテ之ヲ定メ財團ノ配當アル毎ニ其歩割ヲ以テ之ヲ支拂フ可シ

第四十四條 第二十六條及ヒ第二十八條ノ規定ニ違フ者ハ刑法第百七十九條ノ罰金ニ處ス

第四十五條 商法第千二條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ勾留若クハ監守セントスルトキハ其命令書ヲ檢事ニ送致シ檢事ハ其勾留ニ係ル者ハ之ヲ所屬留置場ニ送致セシメ監守ニ係ル者ハ債務者ノ住所ヲ管轄スル警察官署ニ命シ其處分ヲ爲サシム

第四十六條 警察官廳ニ於テ債權者ノ申立ニ因リ債務者ヲ勾留若クハ監守セントスルトキハ命令書ヲ發シテ之ヲ所屬留置場ニ送致セシメ又ハ監守ノ處分ヲ爲サシム此場合ニ於テハ警察官廳ハ同時ニ事由ヲ具シテ其旨ヲ管轄地方裁判所ニ通知ス可シ

第四十七條 司獄官吏債務者ヲ受取リタルトキハ刑事被告人ヲ受取リタル手續ニ準シテ之ヲ留置場ニ入ル可シ其他債務者ノ取扱ハ總テ刑事被告人ニ異ナルコト無シ

勾留中債務者ノ食料其他ノ費用ハ商法第千三十二條ニ從ヒ破産財團ノ現額ヨリ之ヲ支拂ヒ不足アルトキハ留置場之ヲ負擔ス前條ノ場合ニ於テ債務者破産ニ至ラサルトキハ

十七年第九號
布告初編第八
十四ニ掲ク
布告第百十
五號ハ初編第
二百五十五ニ
掲ク
布告第百六
十六號同第百
六十四ニ掲ク

其申立人之ヲ支辨ス但申立人ハ申立ノ際右ノ費用ニ當ル金額ヲ豫納ス可シ

第四十八條 監守ヲ爲ストキハ警察官吏ヲシテ債務者ノ住所ニ就キ其逃走若クハ財産ノ隱匿ヲ豫防シ且其債務者ノ外人ト面接若クハ通信スルヲ禁セシム

第四十九條 商法第千三條第二項ニ依リ債務者ヲ引致スルトキハ特ニ作リタル引致狀ヲ以テ之ヲ執行ス但其執行ハ刑事訴訟法ニ定メタル引致執行ノ手續ニ準ス

第五十條 商法第千四條ニ依リ裁判所ニ於テ債務者ヲ釋放スルトキハ決定書ヲ檢事ニ送致シ其執行ヲ爲サシム

第五十一條 商法中非訟事件ニ關スル裁判所管轄ハ裁判所構成法ニ定ムルモノノ外第二百五十四條、第二百七十一條、第四百四十一條、第四百九十九條、第五百十四條、第八百五十六條、第九百二條ノ事件ニ付テハ區裁判所トシ其他ノ事件ニ付テハ地方裁判所トス

第五十二條 明治十七年第九號布告質屋取締條例ニ依リ管轄廳ノ免許ヲ得タル質屋營業人ニハ商法第一編第七章第九節ノ規定ヲ適用セス

第五十三條 明治六年第二百十五號布告代人規則ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

明治十年第六十六號布告利息制限法第三條及ヒ第五條ハ商事ニ付テハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ適用セス

明治十五年第五十七號布告爲替手形約束手形條例ハ商法實施ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

(二) 沖繩縣ニ商法施行延期 明治二十三年十月九日公布
法律第百三號
朕沖繩縣ニ商法施行延期ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

法律第百三號

明治二十三年法律第百三十二號商法ハ沖繩縣ニ於テハ當分ノ内之ヲ施行セス

(三) 商法及商法施行條例施行期限 明治二十三年十二月二十七日公布
法律第百八號
朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法及商法施行條例施行期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十二月二十六日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵大木喬任
內務大臣伯爵西鄉從道
大藏大臣伯爵松方正義
陸軍大臣伯爵大山巖

法律第百八號

明治二十三年四月法律第百三十二號商法及同年八月法律第五十九號商法施行條例ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

(四) 商法第百二十六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件 明治二十三年八月九日公布

法律第百二十六號

朕商法第百二十六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月八日
內閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

法律第百六十號

第一條 商法第百二十六條ニ依リ株式會社債券ヲ發行スルハ總株金半額以上ノ拂込アリタル後ニ於テスヘシ

- 第二條 債券ノ發行額ハ株金ノ拂込金額ヲ超過スルコトヲ得ヌ
- 第三條 債券ヲ發行セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認許ヲ受クヘシ
- 第四條 債券ハ一通毎ニ其債務金額、利子ノ歩合及仕拂時期發行ノ年月日、番號、商號、社印、取締役ノ氏名、印、債權者ノ氏名ノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス
 - 一 會社ノ營業所
 - 二 株金總額及株金拂込額
 - 三 債券償還ノ初期及最終期
 - 四 會社開業ノ年月日
 - 五 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期
 - 六 認許ヲ受ケタル事
- 第五條 株式會社ハ債券ヲ發行スルトキハ債券原簿ヲ備ヘ債券一通毎ニ區分シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ
 - 一 債權者ノ氏名住所
 - 二 債券ノ金額番號
 - 三 利子ノ歩合
 - 四 債券發行ノ年月日及讓渡ノ年月日
 - 五 債券償還ノ初期及最終期

第六條 債券ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ債券及債券原簿ニ記載スルニアラサレハ會社ニ對シテ其効ナシ

第七條 株式會社ハ營業時間中債券原簿ノ展閱ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ヌ此場合ニ於テハ請求人ニ對シテ二十錢以内ノ手数料ヲ求ムルコトヲ得

第八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セラル

- 一 債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セヌ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 二 債券原簿ヲ備ヘヌ又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

〔五〕商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキノ處分方

明治二十三年十月九日公布

法律第百一號

朕商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年十月八日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

法律第百一號

商法ニ從ヒ破産ノ宣告ヲ受ケタル者有罪破産ニ係ルトキハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

- 一 詐欺破産ヲ爲シタル者ハ輕懲役ニ處ス

二 過怠破産ヲ爲シタル者ハ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處ス

〔六〕商事非訟事件印紙法 明治二十三年八月十六日公布

法律第六十六號

朕商事非訟事件印紙法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月十五日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義
大藏大臣伯爵松方正義

法律第六十六號

商事非訟事件印紙法

第一條 商法中登記ニ關ル場合ヲ除ク外非訟事件ニ付裁判所ノ命令其他ノ處分ヲ求ムル者ハ以下數條ノ手續ニ從ヒ其差出ス書類ニ民事訴訟用印紙ヲ貼用ス可シ但口述ヲ以テスル場合ニ於テハ其調書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第五條第六條第七條ノ場合ニ於テハ管財人ヨリ差出ス計算書ニ印紙ヲ貼用ス可シ

第二條 左ニ掲グルモノニ付テハ五十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告又ハ假差押ノ申立
- 二 債權者ヨリ爲ス破産宣告ノ申立

三 支拂猶豫ノ申立

第三條 左ニ掲グルモノニ付テハ二十錢ノ印紙ヲ貼用ス可シ

- 一 抗告ニ對スル答辯
- 二 裁判所ノ命令其他ノ處分ノ申立ニシテ本法ニ於テ特ニ規定セサル非訟事件ニ係ルモノ

第四條 破産手續ニ付テハ破産財團中ノ貸方金額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ印紙ヲ貼用ス可シ但財團管理費用其他破産手續上ノ費用及ヒ財團ノ爲メニ負擔シタル債務並ニ別除ノ辨濟ニ供スル金額ハ貸方金額ヨリ之ヲ扣除ス可キモノトス

財團ノ價額五圓マテ	四十錢
同 十圓マテ	六十錢
同 二十圓マテ	一圓二十錢
同 五十圓マテ	三圓
同 七十五圓マテ	四圓四十錢
同 百圓マテ	六圓
同 二百五十圓マテ	十三圓
同 五百圓マテ	二十圓
同 七百五十圓マテ	二十六圓

同 千圓マテ 三十圓
 同 二千五百圓マテ 四十圓
 同 五千圓マテ 五十圓
 同 五千圓以上ハ千圓ニ達スル毎ニ四圓ヲ加フ
 第五條 破産手續ニ付テハ財團ノ配當アル毎ニ其配當金額ノ割合ヲ以テ印紙價額ニ相當スル金額ヲ引去リ置キ終局計算ニ至リ配當金總高ノ割合ニ從ヒ相當印紙ヲ貼用ス可シ
 第六條 協賛契約ニ依リ手續ヲ止メタルトキハ第四條ニ掲ケタル印紙ノ半額ヲ貼用ス可シ
 第七條 破産手續再施ノ場合ニ於テハ破産手續開始ニ於ケル場合ト同一ノ印紙ヲ貼用ス可シ
 第八條 本法ニ定ムル印紙代價ノ負擔ニ付テハ民事訴訟法第一編第二章第五節ノ規定ヲ準用ス
 民事訴訟用印紙法ハ本法ノ規定ニ抵觸セサルモノニ限り之ヲ準用ス
 [七] 商法ニ關スル法律施行期限 明治二十三年十二月二十七日公布
 朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル商法ニ關スル法律施行期限法律ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム
 御名 御璽

明治二十三年十二月二十六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
 司法大臣伯爵大木喬任
 大藏大臣伯爵松方正義

法律第九號

左ニ掲クル法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行ス

- 一 明治二十三年八月法律第六十六號商事非訟事件印紙法
- 一 同年八月法律第七十二號銀行條例
- 一 同年八月法律第七十三號貯蓄銀行條例
- 一 同年十月法律第一百號

[八] 商業及船舶ノ登記ニ關スル件 第二百六ノ三項ニ掲ク

[九] 商業及船舶ノ登記公告ニ關スル取扱規則 第二百六ノ四項ニ掲ク

[十] 家資分散法 第二百十二ノ四項ニ掲ク

○第十八類

○第一章 裁判所位置及管轄區域 裁判構成

●沿革要領追加

明治二十三年一月勅令第五號ヲ以テ十六年第二號布告裁判所位置及管轄區域畫表中ヲ改正ス○二十三年八月法律第六十六號ヲ以テ前令ヲ改正ス

【第二百八】 裁判所位置及管轄區域改正 明治二十三年八月十二日公布

法律第六十二號

朕裁判所位置及管轄區域改定ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ裁判所構成法實施ノ日ヨリ効力ヲ有ス

御名 御璽

明治二十三年八月十一日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
司法大臣 伯爵 山田顯義

法律第六十二號

裁判所位置及管轄區域別表ノ通改定ス但新置裁判所開廳ノ期日ハ司法大臣之ヲ定ム
裁判所位置及管轄區域表

院 控	地方 裁判所	區 裁判所	管 轄			
			國	郡	市	區 町 村
京	橋 武 藏	東京市ノ内	京 橋 區	日本橋區		

第十八類 第一章 裁判所位置管轄區域 裁判構成

千 葉									
水 戸 常 陸	北 條 安 房	木 更 津 上 總	佐 原 下 總		八 日 市 場	一 宮 本 郷 上 總	佐 倉 下 總	松 戸 下 總	千 葉 上 總
那珂郡/内 神谷村 五藤村 柳河村 國田村 芳野村 木崎村 平磯町	安房郡 平郡 朝夷郡 長狭郡	市原郡/内 望都郡 白鳥村 天羽郡	香取郡/内 香取郡/内 瑞穂村 小御門村 神里村 佐原村	香取郡/内 香取郡/内 瑞穂村 小御門村 神里村 佐原村	香取郡/内 香取郡/内 瑞穂村 小御門村 神里村 佐原村	武射郡 海上郡 夷隅郡	印旛郡 下埴生郡	東葛飾郡 南相馬郡	市原郡/内 原市 千代田村 五井村 東海村 八幡町 市原村 海上村 明海村

大 泉									
横 濱					東 京				
横 濱					東 京				
八 王 子	小 田 原	横 須 賀	横 濱		本 所	下 谷	麩 町	芝 罘	芝 罘
相模 高座郡/内 新磯村	相模 高座郡/内 海老名村	相模 高座郡/内 三浦郡 足柄上郡 足柄下郡 有馬村 座間村	相模 高座郡/内 松林村 渡谷村 六會村	相模 高座郡/内 相模 高座郡/内 高座郡/内 海老名村 有馬村 座間村 愛甲郡	武蔵 南多摩郡 西多摩郡 北多摩郡	武蔵 南多摩郡 南足立郡 神田区 北多摩郡 下谷區 浅草區	武蔵 南多摩郡 南足立郡 神田区 北多摩郡 下谷區 浅草區	武蔵 南多摩郡 南足立郡 神田区 北多摩郡 下谷區 浅草區	武蔵 南多摩郡 南足立郡 神田区 北多摩郡 下谷區 浅草區

水戸									
鹿ヶ崎		麻生		土浦		大田			
常陸	下總	常陸	鹿島郡	行方郡	筑波郡	信濃郡	久慈郡	鹿島郡	川田村
筑波郡内	北相馬郡	江戸崎町	鹿島郡内	河内郡	筑波郡内	筑波郡内	久慈郡内	鹿島郡内	川田村
高道祖村		舟島村	東下村	中島村	東下村	中家村	大宮町	鹿島郡内	勝田村
		安中村	沼里村	矢田部村	豊津村	東村	大場村	新宮村	中野村
		浮島村	奥野村	若松村	波野村	板橋村	上野村	大谷村	前渡村
		君原村	輕野村	大野村	中野村	鹿島村	野口村	夏海村	白鳥村
		阿見村	大同村	谷井田村	三島村	板橋村	大賀村	上島村	諏訪村
		鳩崎村	高松村	旭村	三島村	板橋村	野口村	夏海村	徳信村
						板橋村	野口村	夏海村	巴村
						板橋村	野口村	夏海村	巴村

京									
宇都宮		真岡		宇都宮		下妻			
宇都宮	栃木	宇都宮	真岡	宇都宮	下妻	下妻	下妻	下妻	下妻
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮
宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮	宇都宮

第十八類 第一章 裁判所位置管轄區域 裁判構成

第十八類 第一章 裁判所位置管轄區域 裁判構成

七百二十九

控				
中之條上野	沼田上野	前橋上野	大宮武藏	熊谷武藏
吾妻郡ノ内 中之條町 原町 東村 大田村 長野原町 碓氷村 草津村	利根郡ノ内 久賀村 北勢多郡 大間々町 伊香保町 金島村 駒寄村 古卷村 白郷井村 小野上村 桃井村	東群馬郡ノ内 元郷社村 佐位郡 那波郡 駒寄村 古卷村 小野上村 桃井村	秩父郡ノ内 大宮町 尾山町 長若村 小國町 上吉田村 倉尾村 三田川村 三浦山村 下吉田村	北那珂郡ノ内 榛澤郡 幡羅郡 男衾郡 兒玉郡 賀美郡 碓氷郡 上中條村 小曾根村 今井村 大塚村 南河原村 北河原村

浦和			
川越武藏	幸手武藏	下總	越ヶ谷武藏
秩父郡ノ内 名栗村 香野村 中山村 八ッ保村 伊草村 三保谷村 出丸村 植木村	北葛飾郡ノ内 幸手町 高野村 南埼玉郡ノ内 須賀村 北埼玉郡ノ内 須賀村 須賀村 井泉村 志多見村 不動岡村 田ヶ谷村 笠原村 三田ヶ谷村 足尾村 久喜町 鷺宮村	中葛飾郡ノ内 豊岡村 高麗郡 中山村 八ッ保村 伊草村 三保谷村 出丸村 植木村	北足立郡ノ内 武里村 小久喜村 河合村 上野山村 北足立町 南平柳村 越ヶ谷町 北葛飾郡ノ内 幸手町 吉川村 豊野村 三輪野江村 田宮村 彦成村 早稲田村 堤郷村 戸ヶ崎村 八木郷村 旭村

七百二十八

前橋										
大田上野	高崎上野	富岡上野	碓氷郡	藤岡市	藤岡市	藤岡市	藤岡市	藤岡市	藤岡市	
澤田村 坂上村 伊勢村 名久田村 岩島村	山田郡内 邑樂郡 川内村 廣澤村 梅田村 相生村 蒲川村 毛里田村	西群馬郡内 碓氷郡 藤岡郡 多胡郡 南甘樂郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡	碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡 碓氷郡

七百三十

靜岡									
吉原	濱松	掛川	甲府	甲府	甲府	甲府	甲府	甲府	甲府
富士郡	濱松郡	掛川郡	甲府市	甲府市	甲府市	甲府市	甲府市	甲府市	甲府市
富士郡 磐田郡 敷知郡 長上郡 濱名郡 引佐郡 鹿玉郡	濱松郡 山名町 福島村 西員村 於保村 豐濱村 西淺羽村	掛川郡 城東郡 一ノ宮村 園田村 飯田村 宇刈村 山梨村 天方村	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡	甲府市 西山梨郡 東山梨郡 東八代郡 中巨摩郡 北巨摩郡

第十八類 第一章 裁判所位置管轄區域 裁判構成 七百三十一

